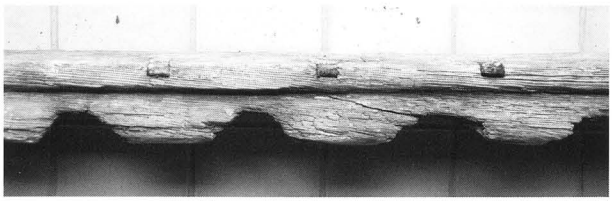


P L．76　SJ1001 出土試料 507

P L．78　SJ1001 出土試料 512

P L．80　SJ1001 出土試料 512

P L．82　SJ1001 出土試料 514

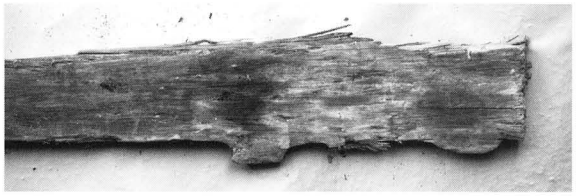
P L．84　SJ1001 出土試料 514

P L．86　SJ1001 出土試料 514

P L．77　SJ1001 出土試料 512

P L．79　SJ1001 出土試料 512

P L．81　SJ1001 出土試料 514



P L．83　SJ1001 出土試料 514

P L．85　SJ1001 出土試料 514

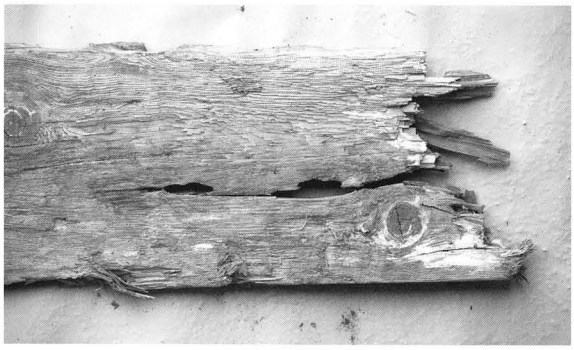
P L．87　SJ1001 出土試料 514

P L．88　SJ1001 出土試料 514

P L．89　SJ1001 出土試料 522

P L．90　SJ1001 出土試料 522

P L．91　SJ1001 出土試料 522



P L．92　SJ1001 出土試料 522

P L．93　SJ1001 出土試料 522

P L．94　SJ1001 出土試料 522

P L．95　SJ1001 出土試料 532

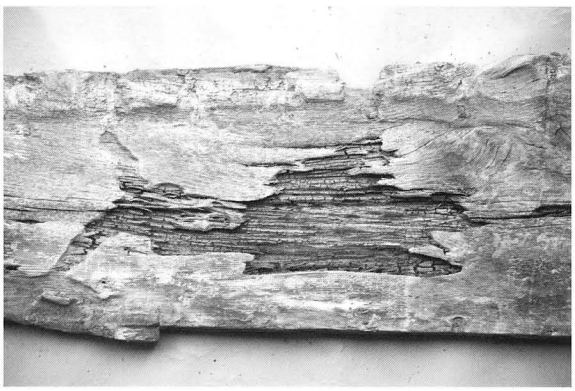
P L．96　SJ1001 出土試料 532

P L．97　SJ1001 出土試料 532

P L．98　SJ1001 出土試料 532

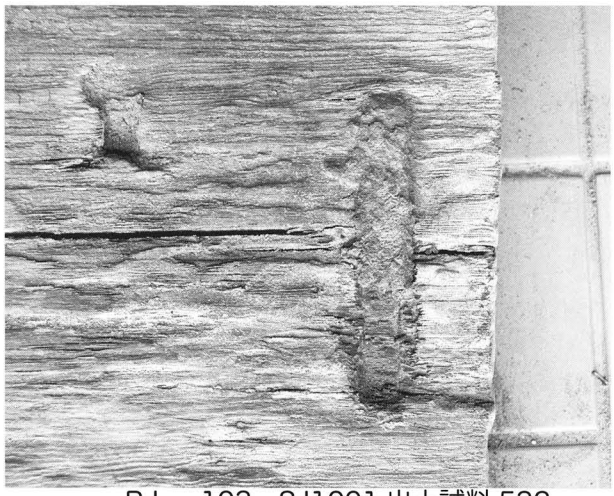
P L．99　SJ1001 出土試料 532

P L．100　SJ1001 出土試料 532

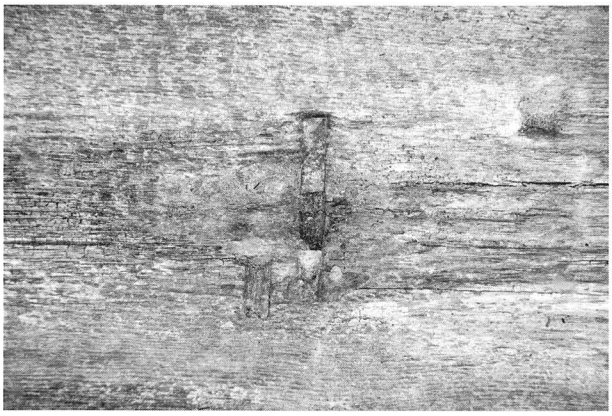


P L．101　SJ1001 出土試料 532

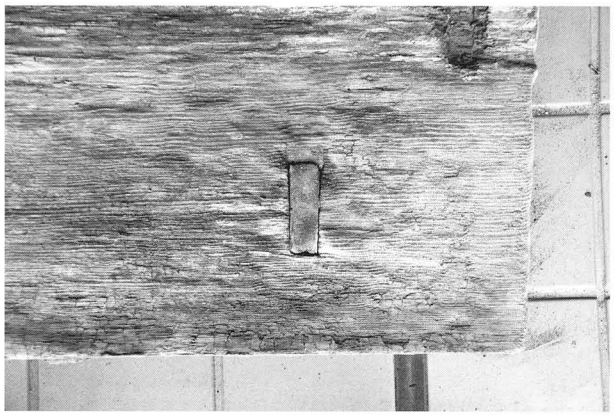
P L．102　SJ1001 出土試料 532



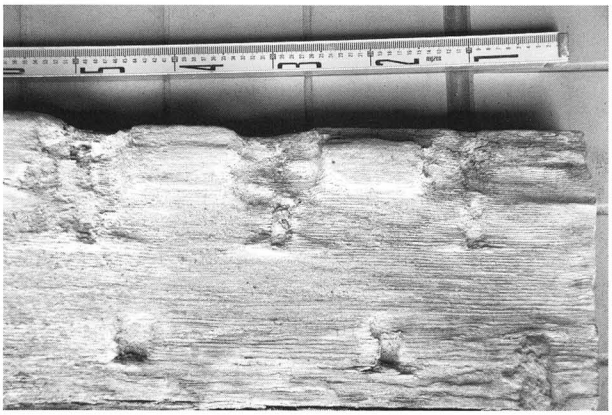
P L．103　SJ1001 出土試料 532



P L．104　SJ1001 出土試料 532



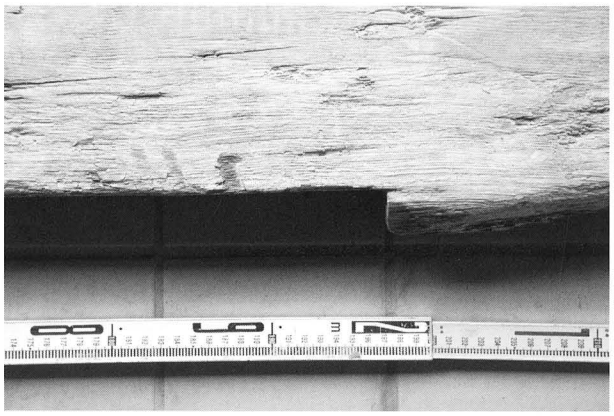
P L．105　SJ1001 出土試料 532



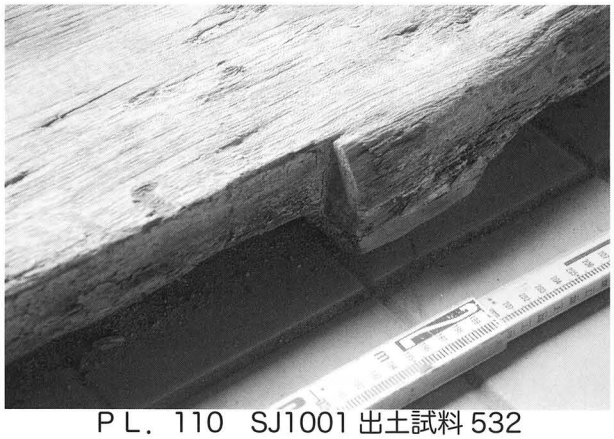
P L．106　SJ1001 出土試料 532

P L．107　SJ1001 出土試料 532

P L．108　SJ1001 出土試料 532

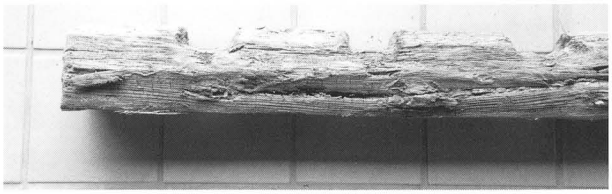


P L．109　SJ1001 出土試料 532



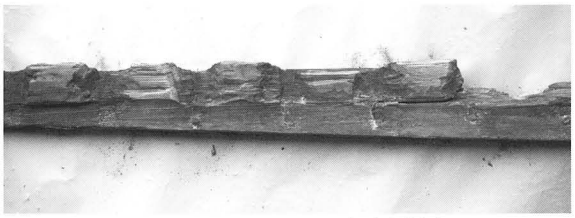
P L．110　SJ1001 出土試料 532

P L．111　SJ1001 出土試料 532



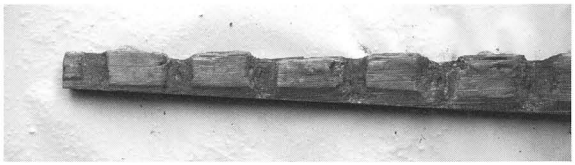
P L. 112　SJ1001 出土試料 532

P L. 113　SJ1001 出土試料 533

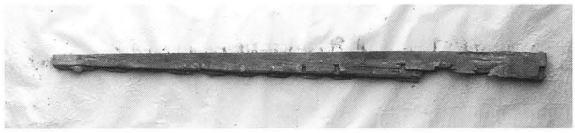


P L. 114　SJ1001 出土試料 533

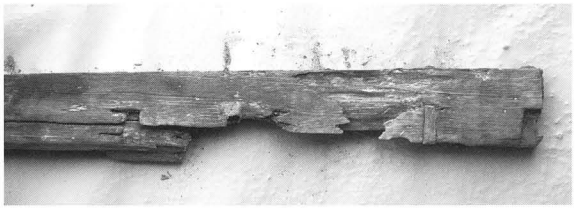
P L. 115　SJ1001 出土試料 533



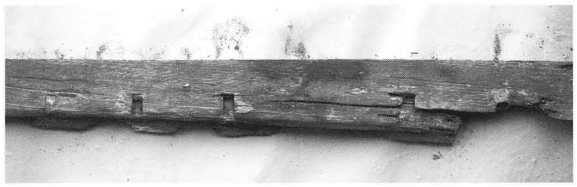
P L. 116　SJ1001 出土試料 533



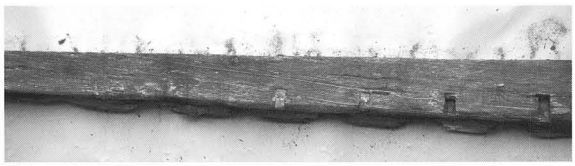
P L. 117　SJ1001 出土試料 533



P L. 118　SJ1001 出土試料 533



P L. 119　SJ1001 出土試料 533



P L. 120　SJ1001 出土試料 533

P L. 121　SJ1001 出土試料 533

P L. 122　SJ1001 出土試料 534

P L. 123　SJ1001 出土試料 534

P L．124　SJ1001 出土試料 534

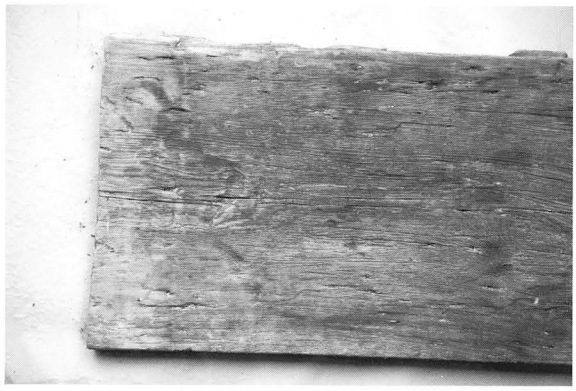
P L．125　SJ1001 出土試料 534

P L．126　SJ1001 出土試料 534

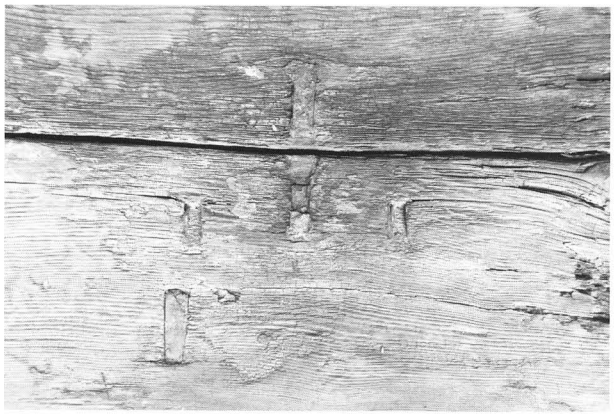
P L．127　SJ1001 出土試料 534

P L．128　SJ1001 出土試料 534

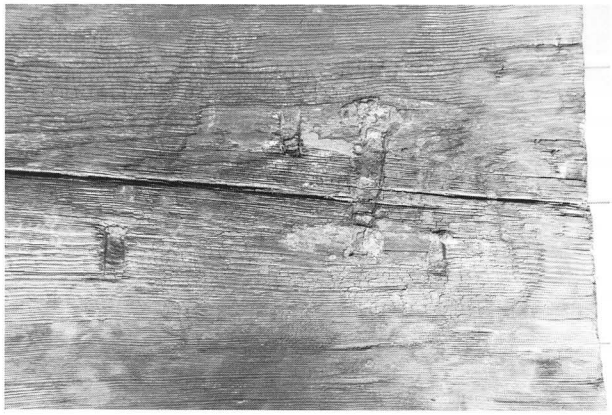
P L．129　SJ1001 出土試料 534



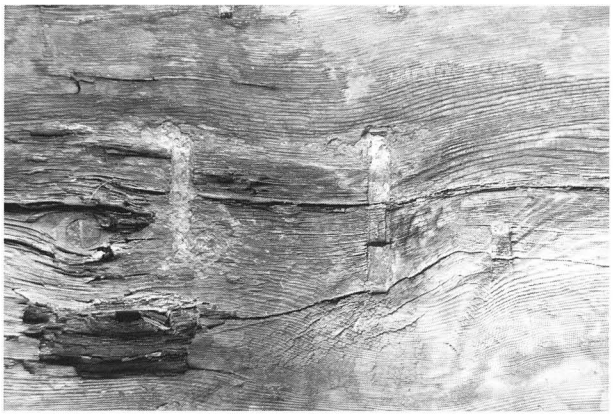
P L．130　SJ1001 出土試料 534



P L．131　SJ1001 出土試料 534

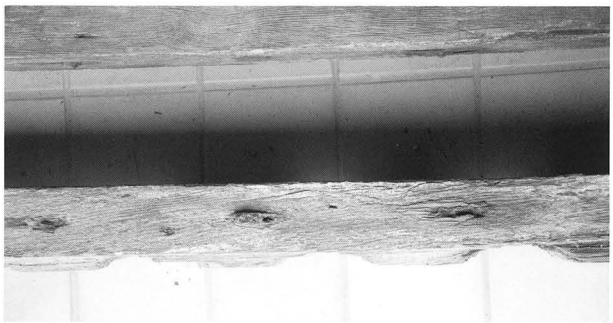


P L．132　SJ1001 出土試料 534



P L．133　SJ1001 出土試料 534

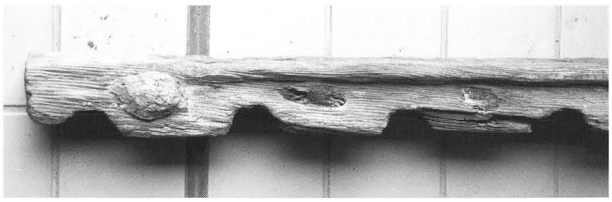
P L．134　SJ1001 出土試料 534



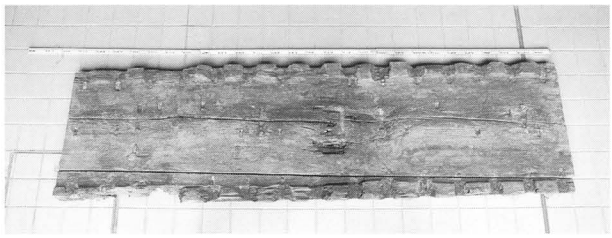
P L．135　SJ1001 出土試料 534

P L．136　SJ1001 出土試料 534

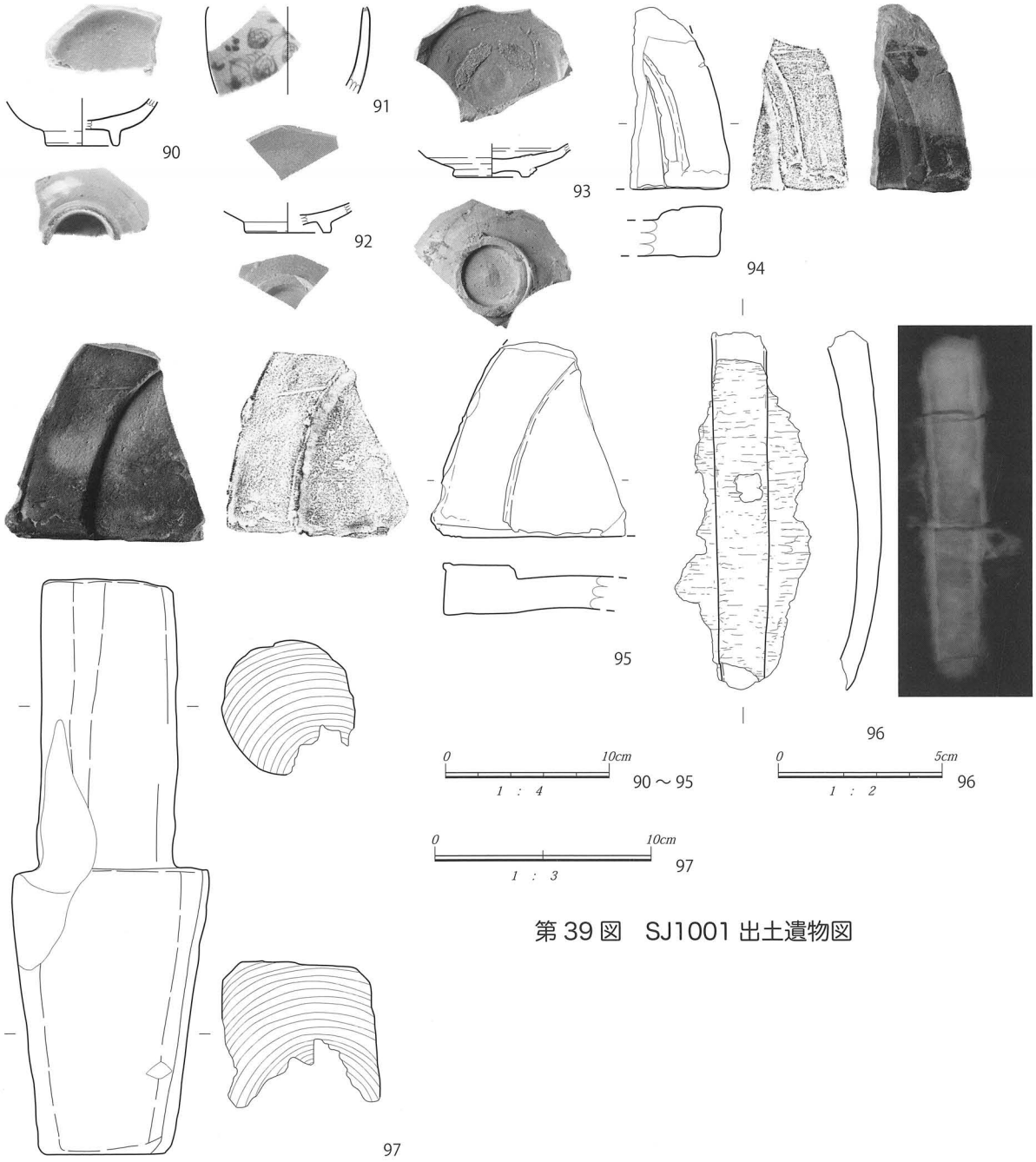
P L．137　SJ1001 出土試料 534



ＰＬ．138　SJ1001 出土試料 534



ＰＬ．139　SJ1001 出土試料 534



第 39 図　SJ1001 出土遺物図

遺物番号	遺構	器種	長さ	幅	厚み	備考	実測番号
97	SJ1001	工具	26.4	6.9	6.7		615

第 12 表 SJ1001 出土木製品観察表

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部1	頭部2	重量	備考	実測番号
96	SJ1001	船釘	11.0	1.7	1.1			43.0	内径約 30.00	500

第 13 表 SJ1001 出土金属製品観察表

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
90	SJ1001	陶器	碗				4.3	内：10Y6/1 外：N7/0 灰 断：N5/0 灰	染付、施釉	草木＋横線					50
92	SJ1001	陶器	皿		(1.8)		(5.2)	内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR6/3 にぶい黄橙 断：7.5 Y R 6/6 橙	灰釉				唐津	17 c 初～前半	404
93	SJ1001	陶器	皿		(2.0)		4.4	内：7.5Y6/1 灰 外：5Y7/1 灰白 断：5Y7/1 灰白	施釉				唐津	見込み 4 方向砂目あり 17 c 初～前半	374
919	SJ1001	磁器	碗		(5.3)	(10.0)		内：5GY7/1 明オリーブ灰 外：5GY7/1 明オリーブ灰 断：5Y6/1 灰	絵付・施釉	草			肥前系		358

第 14 表 SJ1001 出土陶磁器類観察表

礎部分にあたるものと考えられる。東西方向に長軸を置く板が、44 枚検出された。最北端の敷板№ 1 から最南端敷き板№ 44 まで約 32 mを測る(敷板を北から順に№ 1 ～ 20 と仮称する)。板敷上面は、北から南に向かって緩やかに傾斜しており、北端敷板上面で標高－ 0.854 mを、南端敷板上面で標高－ 1.886 mを測る。

敷き板は、東西長平均 272㎝、南北幅約 50㎝（最大幅約 80㎝)、厚約 5 ～ 7㎝を測る。板側面には落釘用のダメ孔が観察されることから、棚板などの船部材を転用したと推定される。北側から隙間無く連続して敷かれていた。

板敷の南側約 2.2 mの地点に、東西 3.3 m、南北 4.3 mの範囲に井桁状に組まれた胴木が検出された。直径約 20 ～ 37㎝の丸太を胴木として使用している。東西方向に向けた 3 mの胴木を約 1.8 m間隔で 3 本並べた上に、南北方向に向けた胴木を約 20㎝間隔で 8 本置いている。南側下部胴木に近接して短い胴木が設置されている。胴木同士は、鎹や木組み、杭等で固定されている。井桁状胴木北端では標高－ 59.6㎝を、南端では－ 96.5㎝を測り、北側の板敷き遺構に比べて検出面の標高が高い。

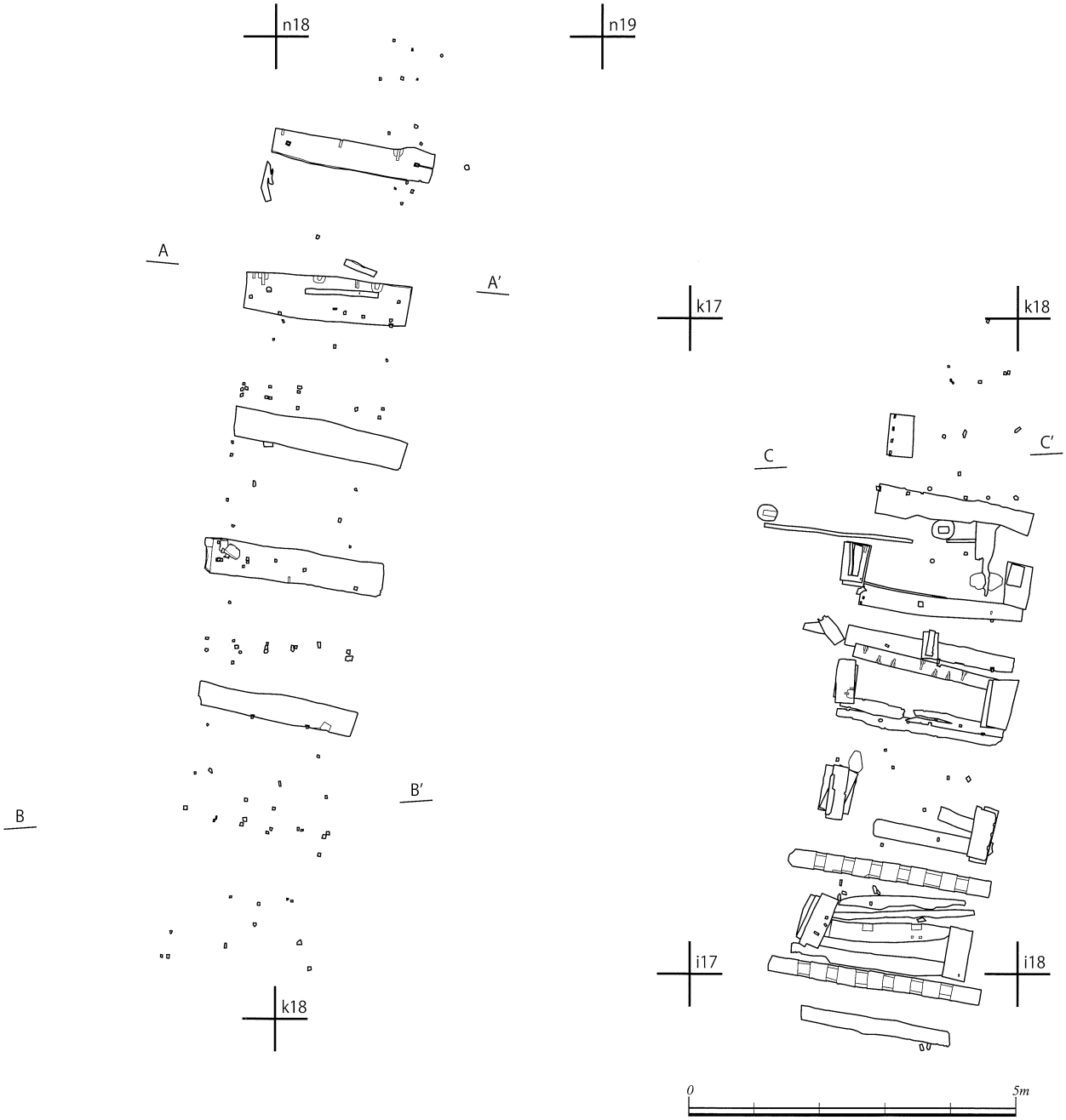
90 は陶器の碗である。外面は横線と草木で構成される。91 は肥前系磁器の碗である。外面は草で構成される。17 世紀末～ 18 世紀前半。92 は肥前系陶器の皿である。いわゆる砂目唐津皿である。削り出し高台で畳付は露胎である。外面に砂目痕が残る。17 世紀初頭～前半。93 は肥前系陶器の皿である。いわゆる砂目唐津皿である。見込みに 4 箇所の砂目痕が、外面にも砂目痕が残る。17 世紀初頭～前半。

96 は船釘である。97 は工具、もしくは木栓である。

2 号板敷き遺構 SJ1002（第 40 ～ 45 図）

1 区、ｉ 17 ～ｍ 18 グリッド付近にて検出。南北長 25 mに渡る板敷遺構である。船の引き上げ施設の基礎部分にあたるものと考えられる。東西方向に長軸をとる板が 16 枚、丸太が 4 本、合計 20 枚（本）検出された。最北端の敷板№ 1 から最南端の丸太№ 20 まで約 25 mを測る（敷板や胴木を北から順に№ 1 ～ 20 と仮称する)。

敷き板№ 1 ～ 5 は、何れも東西長約 260㎝、南北幅約 50㎝、厚約 12㎝を測る。板側面には落釘用のダメ孔が観察されることから、棚板などの船部材を転用したと推定される。敷板の上面の高さもほぼ同じであり、北から約 1.6 mの等間隔で敷かれていた。いずれも板の両端に直径 5 ～ 6㎝程度の杭を打設することにより固定

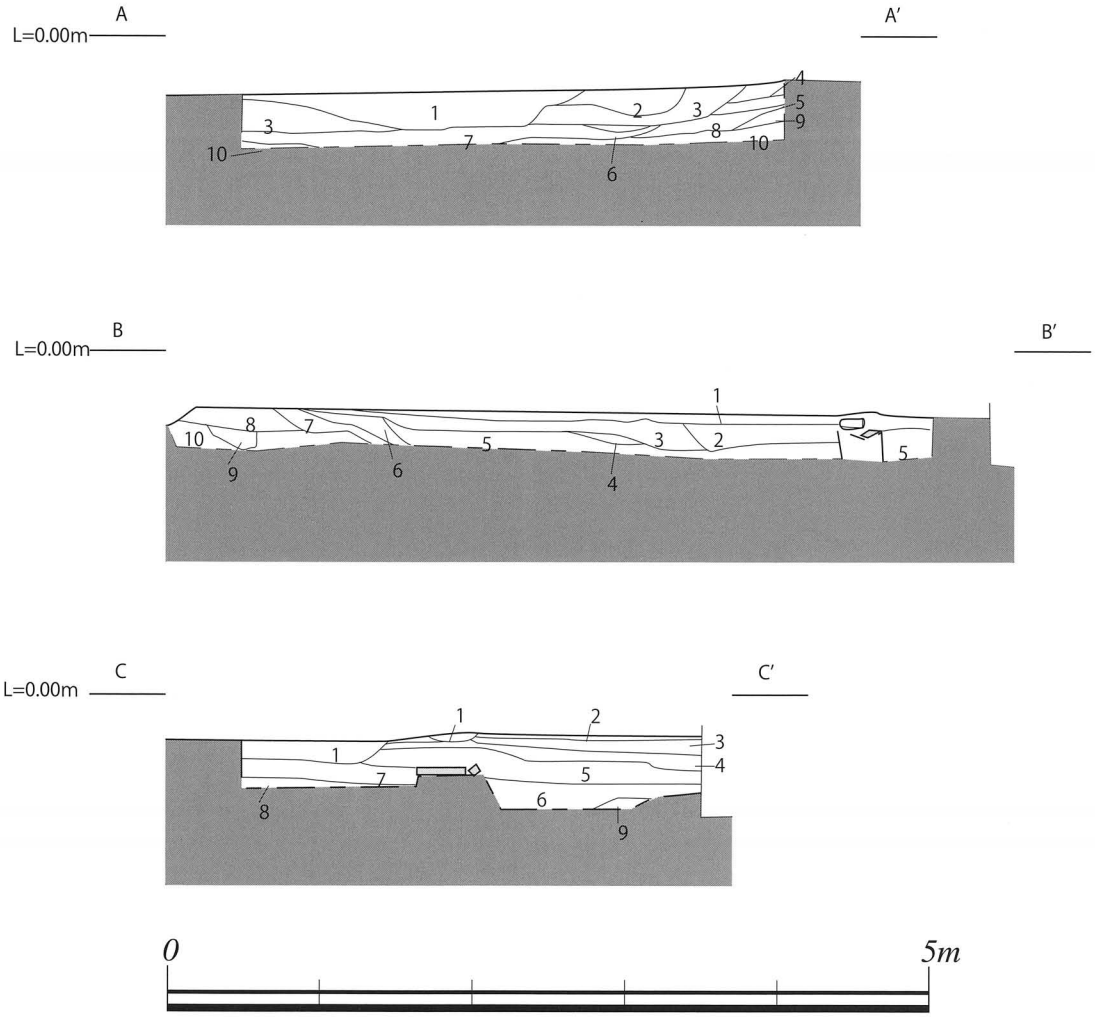


第40図　SJ1002遺構図（1）

している。敷板の上層や周囲からは、約 100 本にも及ぶ杭が検出されている。

一部を除いて、杭打設に規則性は認められないが、打設にあたって、1：杭先端が敷板にまで達する一群（敷板に杭による凹が観察される一群）、2：敷板まで杭が届かない一群、3：敷板を固定するために敷板周縁に打設する一群、4：敷板が未検出の地点に打設されている一群などに分けることができる。

№1～5の板を含む全体の構造については、板の上に杭が立ち並んでいることや、№6～20の板・丸太の並びや高さとの関係から二重構造であると推定される。№1～5の敷き板を標高－0.65 mほどの高さに敷きつめ、約 25㎝に渡って盛土した後に杭を打設する。そして、標高－0.4 mの地点で、板を敷きつめた事が復



A－A′
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 砂質土層
3：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
4：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
5：オリーブ灰色 (10Y5/2) 砂質土層
6：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層
7：灰色 (10Y5/1) 細砂層
8：灰色 (7.5Y5/1) 粘土層
9：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
10：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層

B－B′
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
2：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 細砂層
3：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト質土層
4：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
5：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 細砂層
6：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
7：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
8：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
9：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層
10：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層

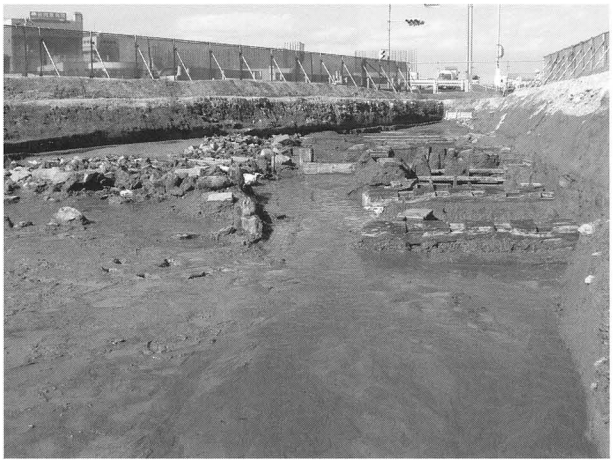
C＝C′
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
2：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
3：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層
4：灰色 (10Y5/1) 細砂層
5：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
6：灰色 (10Y5/1) 細砂層
7：灰色 (10Y5/1) 細砂層
8：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
9：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層

第 41 図　SJ1002 遺構図（2）

ＰＬ．140　SJ1002 完掘状況（南から）

ＰＬ．141　SJ1002 完掘状況（北から）

ＰＬ．142　SJ1002 完掘状況（南東から）



ＰＬ．143　SJ1002（南から）

ＰＬ．144　SJ1002 敷板

元される。そして、杭の上端は削平されているために不明であるが、敷板に重量のあるものを引きずった痕跡などが見られないことから、杭はさらに上に延び、別の何らかの施設が伴っていた可能性も想定される。なお、№5と6敷板の間隔は約7.5ｍあるが、その間にも杭が十数本立ち並んでおり、本来は敷板が存在したと推定される。

杭の上部に敷かれた板と判断できる№6敷板の固定方法は、№6敷板の下に長さ1.5ｍほどの板を№6敷き板と直交して敷き、その板の下や両側を数個の人頭大の石で固定してする。また、№6敷板の周囲には7～8本の杭が打設されていた。さらに、№6敷板の南側には、№6敷板より少し低いところに板を立てた状態で埋設されている。周辺には、御船屋の出入り口の門または戸の土台となるような、上部が加工された丸太杭も2ヵ所で確認された。左右対称と考えれば、調査区外にもう1本丸太杭があると推測できる。№6敷板の下部には東西方向の板は敷かれていなかった。

№7～20敷板・胴木を高さや杭との関係で二重構造に位置づければ、7～13, 15～18は下部構造に該当し、14，1920の胴木は上部構造に関連する。

なお、7と8，9と10，11と12は下部構造の位置で2枚重ねとなっている。15，16は本来、№14胴木

ＰＬ．145　SJ1002 上部土層堆積状況

ＰＬ．146　SJ1002 上部杭１

ＰＬ．147　SJ1002 上部杭２

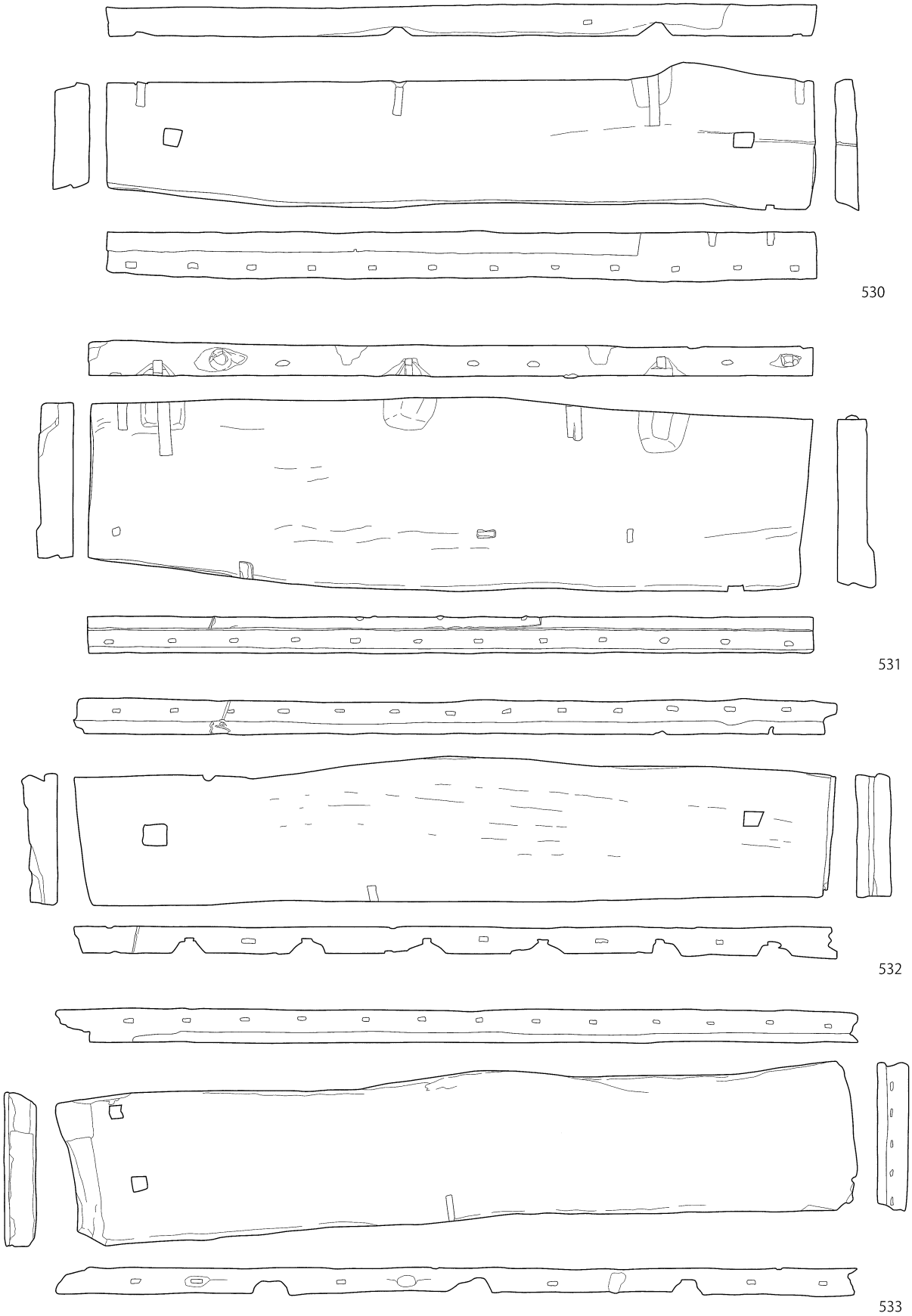
ＰＬ．148　SJ1002 上部杭３

ＰＬ．149　SJ1002 上部杭４

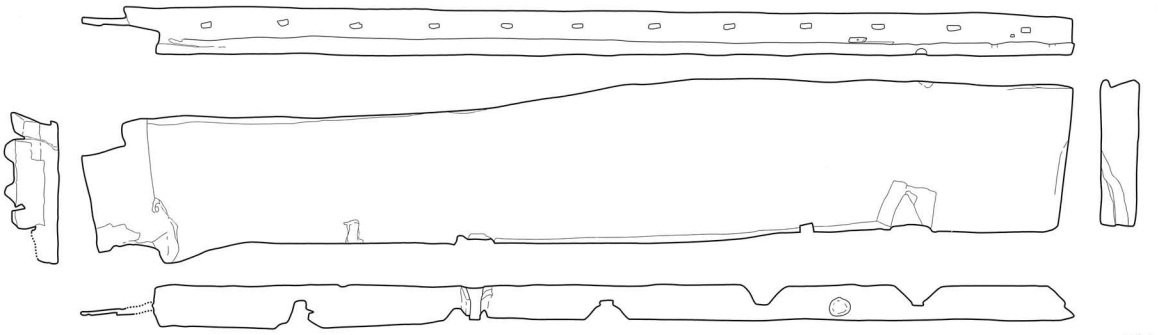
ＰＬ．150　SJ1002 上部杭５

真下にあったが、検出時に湧き水と泥土でなめに浮き上がってしまい、正確な位置を記録できなかった。

６～19 の間に打設された杭頭（上部構造上面）とほぼ同レベルには長さ 70㎝ほどの板が２～３枚重ねで南北方向にほぼ等間隔で敷かれていた。№６，14，19 の西端を結ぶラインと東端を結ぶライン上に敷かれており、南へ緩やかに傾斜していた。以上をまとめると、№６，14，19，20 が上部構造に、それ以外が下部構造に該当する。



第 42 図　SJ1002 敷板実測図（1）



第 43 図　SJ1002 敷板実測図（2）

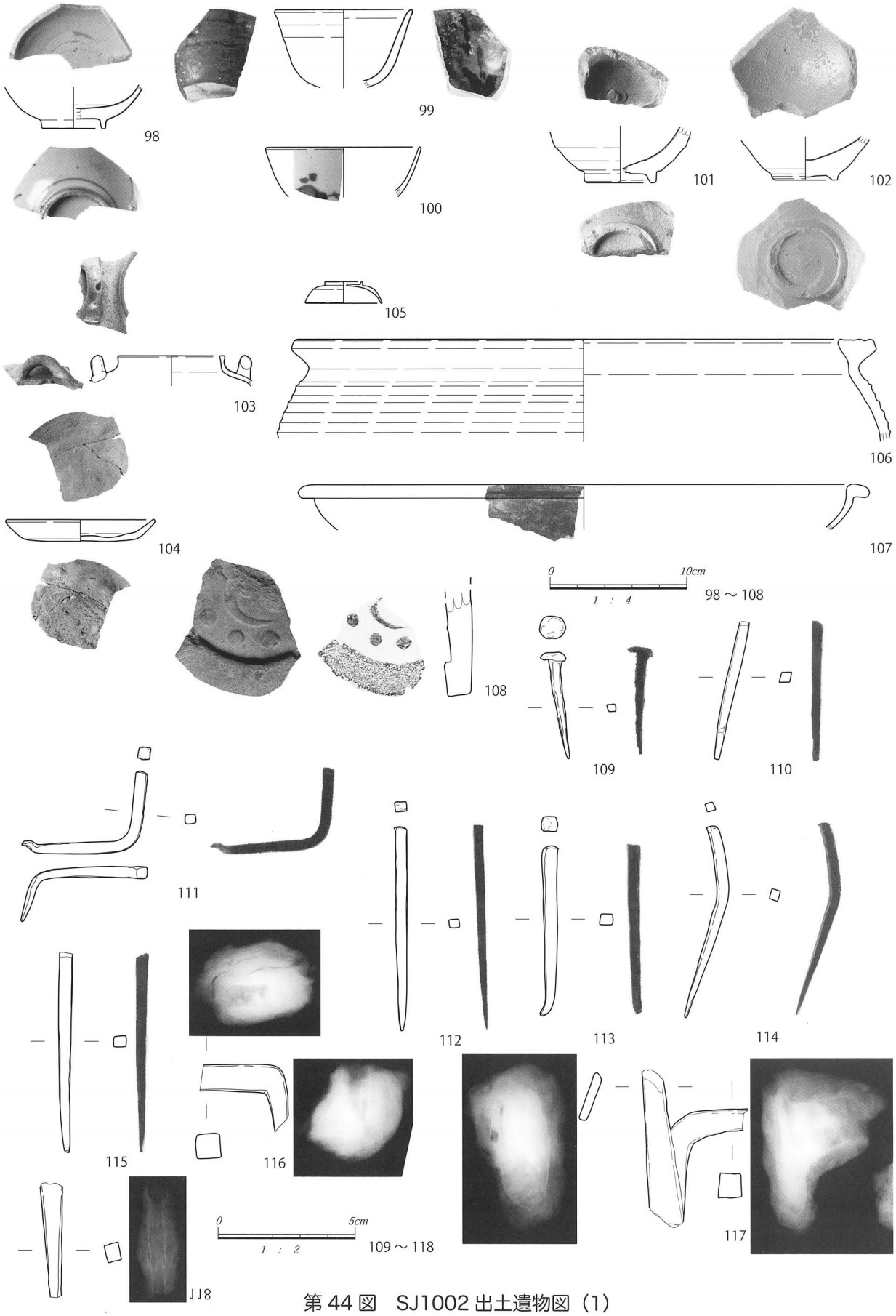
ＰＬ．151　SJ1002 南側敷板

ＰＬ．152　SJ1002 敷板固定状況

ＰＬ．153　SJ1002 敷板固定杭

98 は肥前系磁器の碗である。外面は横線と草木で構成される。99 は磁器の碗である。瀬戸系である。100 は肥前系雑の碗である。外面は松で構成される。101 は磁器の碗である。102 は肥前系陶器の碗である。唐津。削り出し高台である。103 は陶器の双耳壺である。釉薬のみが施され絵付けは施されていない。104 は土師質土器の皿である。底部は回転糸切りの後にヘラナデを施している。口縁部には煤が付着しており、灯明皿へ転用している。105 は漆器の蓋である。赤漆を施しているが文様は不明である。106 は陶器の大形甕である。丹波。107 は瓦質の焙烙である。外面に煤が付着。御厨系焙烙。

109 ～ 115 は船釘である。116，117 は鎹である。119 は不明鉄製品で、素材もしくは切片と推定される。



第 44 図　SJ1002 出土遺物図（1）

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
98	SJ1002	磁器	碗				(4.5)	内：7.5GY8/1 明緑灰 外：7.5GY8/1 明緑灰 断：N8/0 灰	絵付け、施釉	草木＋横線			肥前系		106
99	SJ1002	磁器	碗	(9.8)	(5.7)	(10.0)		内：7.5YR3/3 暗褐 外：7.5YR3/3 暗褐 断：2.5Y8/1 灰白	施釉				瀬戸系		191
100	SJ1002	磁器	碗	(11.3)	(3.6)			内：10YG,1s,8.5 黄みの白 外：10YG,1s,8.5 黄みの白 断：7.5Y7/1 灰白	絵付け、施釉	松			肥前系		221
101	SJ1002	磁器	碗		(5.1)	(12.0)	4.9	内：10YR6/6 明黄褐 外：2.5Y7/2 灰黄 断：2.5Y7/2 灰黄	施釉						102
102	SJ1002	陶器	碗				4.7	内：10YR7/2 にぶい黄橙 外：10YR7/2 にぶい黄橙 断：7.5YR7/6 橙	施釉				唐津		536
103	SJ1002	陶器	双耳壺	(7.6)	(2.2)	(11.8)		内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：2.5Y8/2 灰白 断：10YR7/3 にぶい黄橙	施釉						214
104	SJ1002	土師器	皿	(10.8)	(1.6)	(10.9)	(8.1)	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y7/2 灰黄 断：2.5Y7/2 灰黄		ヨコナデ	ヨコナデ			口縁部煤付着 底部回転糸切り→ヘラナデ	215
105	SJ1002	漆器	蓋	11.2	3.2		つまみ径 5.5	内： 外：端部　黒 断：他は黒の上に赤							304
106	SJ1002	陶器	甕	(37.3)	(7.5)			内：7.5YR4/2 灰褐 外：7.5YR4/3 褐 断：5Y6/1 灰	施釉	櫛状工具による沈線			丹波		107
107	SJ1002	瓦質土器	焙烙	(39.0)	(3.3)			内：2.5Y5/1 黄灰 外：N2/0 黒 断：		ヨコナデ	ヨコナデ			御厨系 外面煤付着 石英、黒色斑粒含む	239

第 15 表　SJ1002 出土陶磁器類観察表

遺物番号	遺構	器種	長	瓦当直径	瓦当厚	文様径	縁高	丸瓦部厚	玉縁長	表器面色調	裏器面色調	断面色調	巴種	珠文数	コビキ痕	布目痕	焼成	雲母粉	備考	実測番号
108	SJ1002	軒丸瓦			2.0		0.5			5Y4/1 灰	5Y4/1 灰	5Y6/1 灰	左巻	(3)			甘い	有		213

第 16 表　SJ1002 出土瓦類観察表

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部 1	頭部 2	重量	備考	実測番号
109	SJ1002	船釘	5.1		0.4			4.9		241
109	SJ1002	船釘	3.9		0.3	1.0	0.8	2.7		242
111	SJ1002	船釘	(7.7)		0.4			6.8		243
112	SJ1002	船釘	7.4		0.4	0.5	0.4	6.4		244
113	SJ1002	船釘	6.3		0.4	0.5	0.5	9.2		104
114	SJ1002	船釘	7.2		0.4	0.4	0.4	5.9		227
115	SJ1002	船釘	(7.3)		0.4			8.2		103
116	SJ1002	鎹	3.3	1.0	0.9			41.4		204
117	SJ1002	鎹	5.6	3.8	0.3			58.6	角柱状部厚 0.90	307
118	SJ1002	船釘	4.2	0.7	0.8			11.6		332
119	SJ1002	不明	4.9	3.6	0.6			26.0		324
120	SJ1002	鉄滓	2.4	3.2	1.7			7.0	スラグ	309

第 17 表　SJ1002 出土金属製品観察表

120 は鉄滓である。

121 は角材である。122，123 は箸である。124 ～ 126 は不明部材である。124 には紐を巻いていた痕跡が残る。

1 号集石遺構 SU1001（第 46 ～ 48 図）

第 45 図　SJ1002 出土遺物図（2）

遺物番号	遺構	器種	長さ	幅	厚み	備考	実測番号
121	SJ1002	角材	11.6	1.7	1.4	赤色顔料	547
122	SJ1002	箸？	9.3	0.6	0.4		548
123	SJ1002	箸？	23.3	0.6	0.6		549
124	SJ1002	不明	30.3	4.4	1.6	表裏面に圧痕あり	546
125	SJ1002	不明	22.7	6.8	2.0		414
126	SJ1002	不明板材	21.7	21.6	1.4		415

第 18 表　SJ1002 出土木製品観察表

1 区、h 10，i 10 グリッド付近にて検出。東西約 8 m、南北 5 mの範囲に渡って結晶片岩割石や砂岩川原石が検出された。南東側には 40 ～ 80㎝程度の結晶片岩割石や砂岩川原石が集中するが、石積みとして構築されたとは認めがたい。大形石の北側と西側には、約 10 ～ 30㎝程度の結晶片岩割石が集中する。石積みの下部に胴木等は未検出である。

以上のことから、SG1001 の東側縁延長上に位置することから石積基礎遺構の可能性も想定されるが、遺物が石積みの下から出土することや、SG1001 暗渠部分西側にも遺物出土集中区が存在することも考慮すると、大堀埋没時に破壊した石垣を投げ込んだものと推定される。

127 は瀬戸系陶器の碗である。削り出し高台か。128 は磁器の碗である。129 は陶器の壺である。備前。130 は陶器の蓋である。抓から体部にかけて 2 状の鉄釉による円圏がかかれている。131 は陶器の大形甕である。丹波。132 は土師質土器の焙烙である。

外面全体に煤が付着している。御厨系焙烙である。

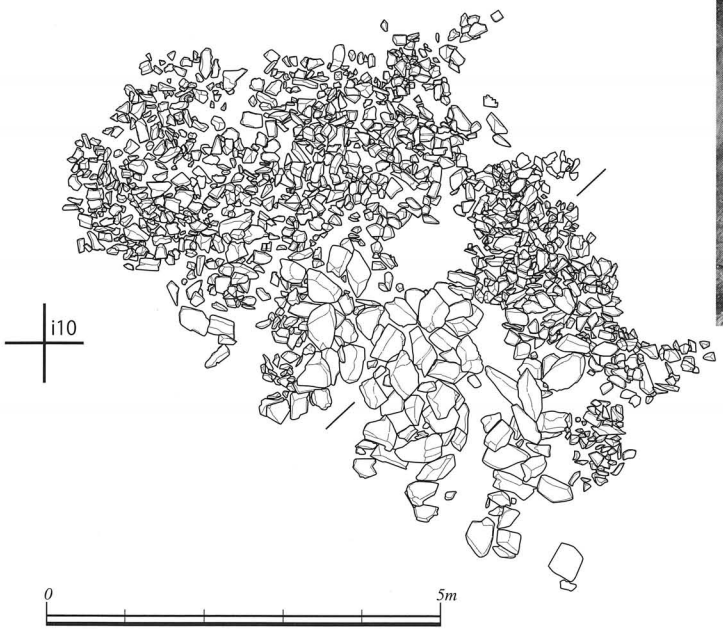
133 ～ 145 は船釘である。146 は鉄製の飾板である。147 は刀子である。148 は楔である。149 は銅製の飾金具である。花弁を模したもので、表面には２条の脈が彫り込まれている。裏面には２箇所の鋳掛け痕が残る。根本には鋲留用の釘穴が穿孔されている。

150 ～ 154 は木製の船釘である。155 ～ 158 は船部材であるが、使用箇所は不明である。159 は杭である。

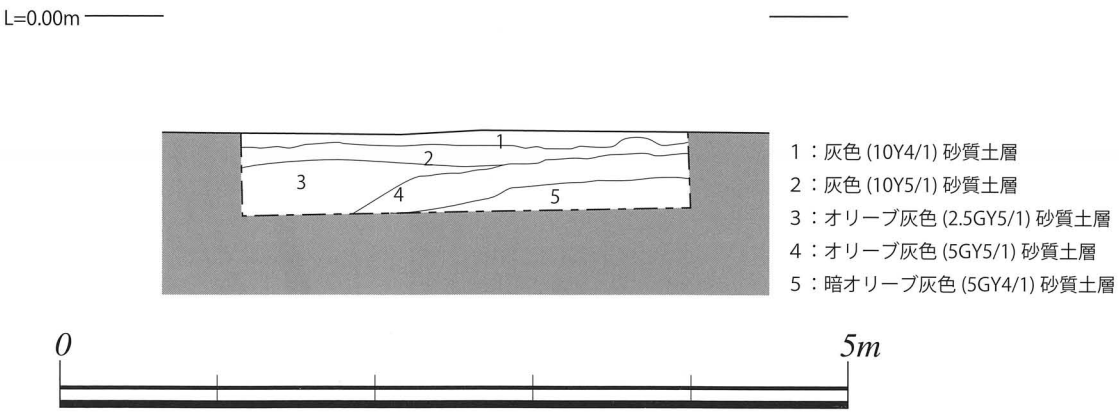
６号土塁状遺構 SG1006（第 49，50 図）

歩道建設工事に伴い、発掘調査対象地南側の徳島市安宅２丁目 238 － ３番地と同丁目 169 番地において、県教育委員会文化財課による立会調査が実施された。この地点は、安宅御船屋役所の南側土塁が存在したと推定される地点に該当する。

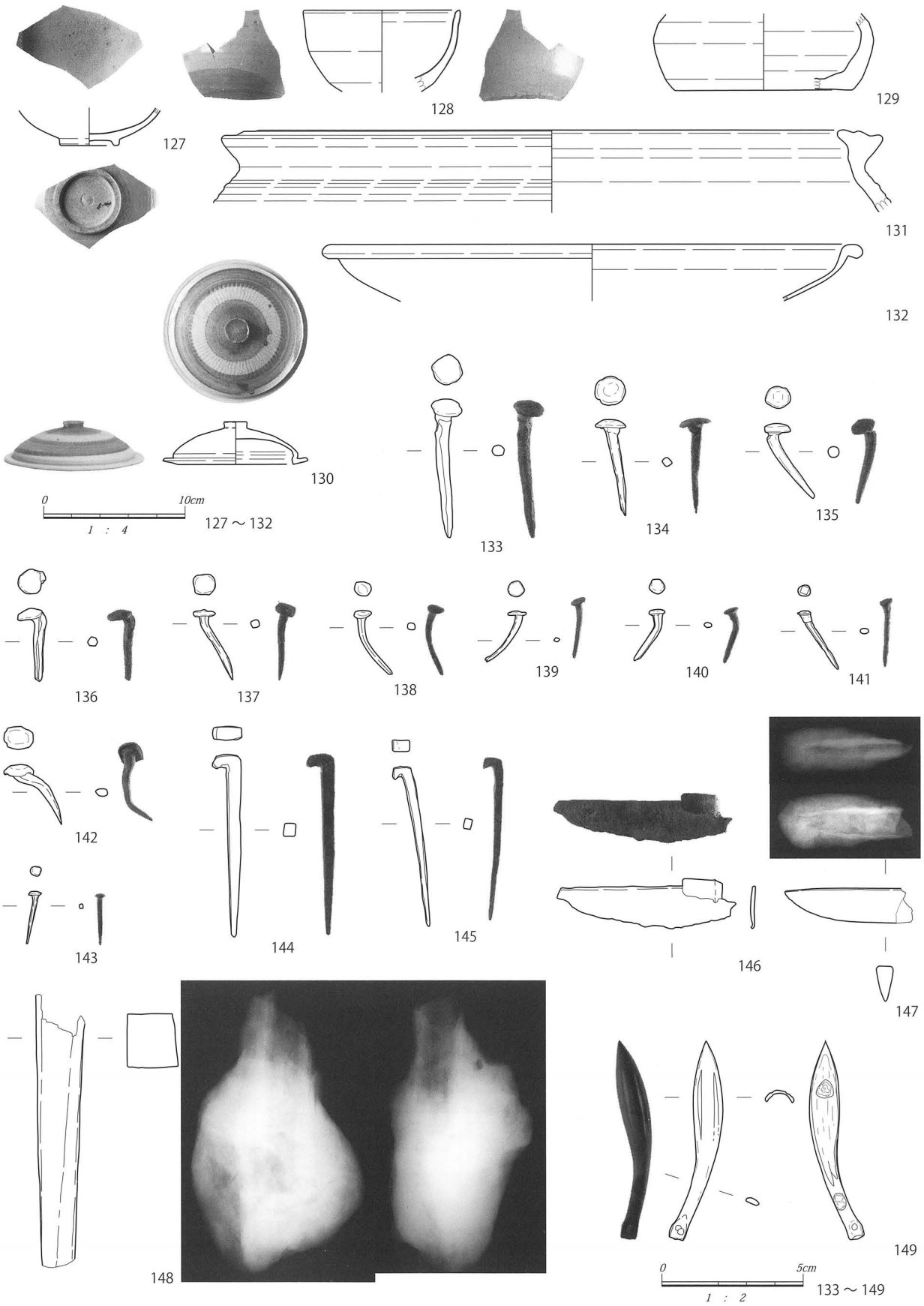
238 － ３番地地点では、土層断面観察により土塁状遺構が確認された。SG1006 土層図（１）－１では、６～８，12 層が該当する。上層及び北側が撹乱等により削平されており規模は不明である。現存高は 0.85 mを測る。



ＰＬ．154　SU1001 完掘状況



第 46 図　SU1001 遺構図



第 47 図　SU1001 出土遺物図（1）

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
127	SU1001	陶器	碗		(2.6)		4.0	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y8/3 淡黄 断：2.5Y8/3 淡黄	施釉				瀬戸系	ケズリ出し高台	340
128	SU1001	磁器	碗	(10.9)	(5.7)	(11.1)		内：5Y7/2 灰白 外：5Y7/2 灰白 断：7.5Y7/1 灰白	施釉						353
129	SU1001	陶器	壺		(5.4)	(15.5)	(12.4)	内：7.5YR4/2 灰褐 外：7.5YR4/1 褐灰 断：7.5YR5/1 褐灰		轆轤ナデ	轆轤ナデ		備前		349
130	SU1001	陶器	蓋	8.2	3.0	10.2	つまみ径 1.6	内：10YR5/8 黄褐 外：10YR7/6 明黄褐 断：10YR7/6 明黄褐	施釉	轆轤ナデ	轆轤ナデ				352
131	SU1001	陶器	甕	(40.0)				内：7.5YR3/3 暗褐 外：N7/0 灰白 断：2.5Y4/1 黄灰	内面 施釉 外面 灰釉？	轆轤ナデ	轆轤ナデ		丹波		350
132	SU1001	土師質土器	焙烙	(36.6)				内：2.5Y7/2 灰黄 外：7.5YR5/2 灰褐 断：2.5Y7/2 灰黄		ヨコナデ	ヨコナデ			御厨系 外面煤付着 石英、金雲母含む	351

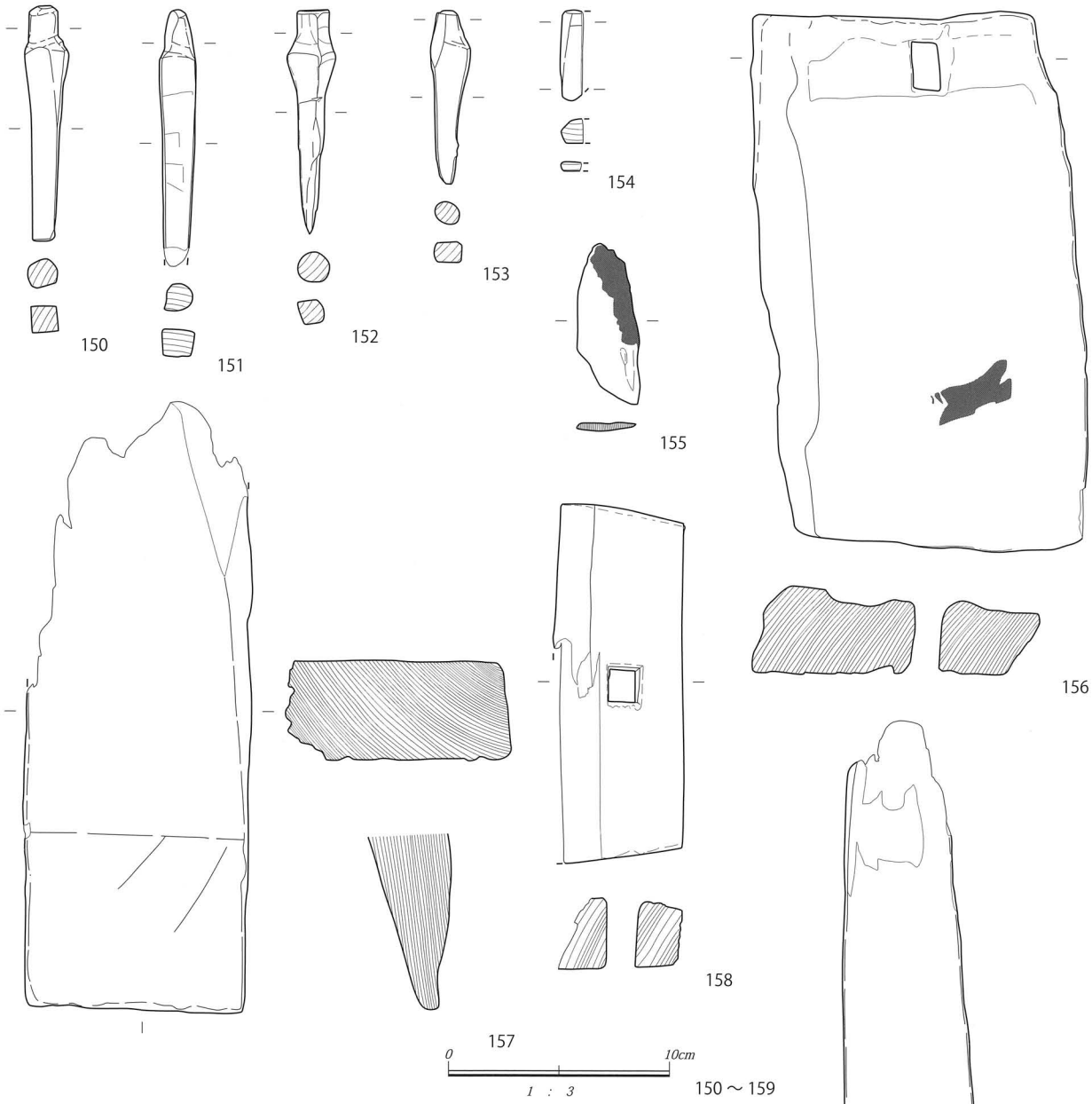
第 19 表　SU1001 出土陶磁器類観察表

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部 1	頭部 2	重量	備考	実測番号
133	SU1001	船釘	4.9		0.4	1.1	1.1	5.6		433
134	SU1001	船釘	3.4		0.3	1.1	1.0	2.9		439
135	SU1001	船釘	3.1		0.4	0.9	0.8	2.7		436
136	SU1001	船釘	2.6		0.4	0.9	0.9	2.6		434
137	SU1001	船釘	2.7		0.3	0.8	0.7	1.5		437
138	SU1001	船釘	2.6		0.3	0.6	0.5	0.9		426
139	SU1001	船釘	2.4		0.2	0.6	0.6	0.5		440
140	SU1001	船釘	2.1		0.2	0.6	0.5	0.7		431
141	SU1001	船釘	2.4		0.2	0.5	0.4	0.6		427
142	SU1001	船釘	3.0		0.3	1.0	0.8	2.6		441
143	SU1001	船釘	1.9		0.2	0.4	0.4	0.3		435
144	SU1001	船釘	6.4		0.5	1.1	0.5	8.3		432
145	SU1001	船釘	5.8		0.4	0.6	0.5	3.8		428
146	SU1001	不明	1.5	8.5	0.1			7.2		430
147	SU1001	刀子	4.5	1.3	0.6			17.3		425
148	SU1001	鑿	9.6	1.8	1.9			204.4		445
149	SU1001	飾金具	7.0	1.1	0.2			7.0	基部の穴の径 0.20	438

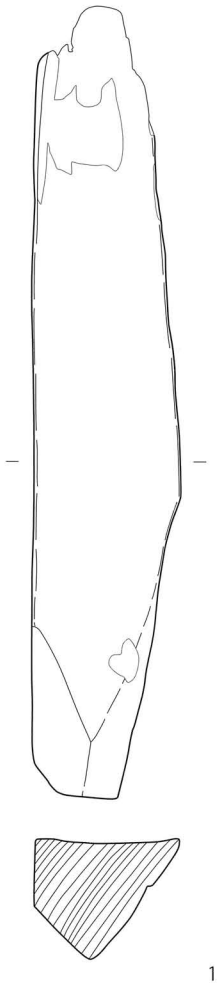
第 20 表　SU1001 出土金属製品観察表

近世期の生活面は、13 層で黄褐色砂質土層である。土塁最下層に粘性が強い灰色砂質土層（12 層）を約 5 ～ 15㎝の厚さに渡って敷き、その上に黄灰色砂質土層（6 ～ 8 層）を盛土している。12 層はジオテキスタイルとして敷かれた可能性がある。SG1006 土層図（1）－ 2 では、1 ～ 12 層が該当する。上層及び南側が撹乱等により削平されており規模は不明である。現存高は 0.75 m を測る。土塁最下層に粘性が強い灰色砂質土層（12 層）が約 5 ～ 10㎝の厚さで検出された。12 層は非常に固く締まっている。その上に黄灰色砂質土層（6，7 層）をほぼ水平に盛土している。6 層北端上部には黄灰色砂質土層（5 層）が南北幅 1.3 m、高さ 0.3 m に渡って土手状に盛土されている。その内側（南側）に灰黄色砂質土層（1 ～ 4 層）等が 10 ～ 30㎝の厚さで盛土されている。5 ～ 8，12 層北側の斜面部には灰オリーブ色砂質土層（9 ～ 11 層）が掻き揚げられている。

269 番地地点においても、土層断面観察により土塁状遺構が確認された。SG1006 土層図（2）－ 3 では、4 ～ 26 層が該当する。上層及び南側が撹乱等により削平されており規模は不明である。現存高 0.57 m、幅 5.4 m を測る。238 － 3 番地地点のように土塁最下部全面に敷かれたジオテキスタイルに対応する層はない。唯一、非常に締まったオリーブ灰色砂質土層（15 層）が対応する可能性があるが、土色からすると有機物が多く含まれた土層とは考え難い。にぶい黄色砂質土層（23，24 層）を水平に盛土した後に、オリーブ褐色砂質土層（14 層）を土手状に盛土する。その内側（北側）には暗灰黄色砂質土層（17 層）やにぶい黄色砂質土層（22

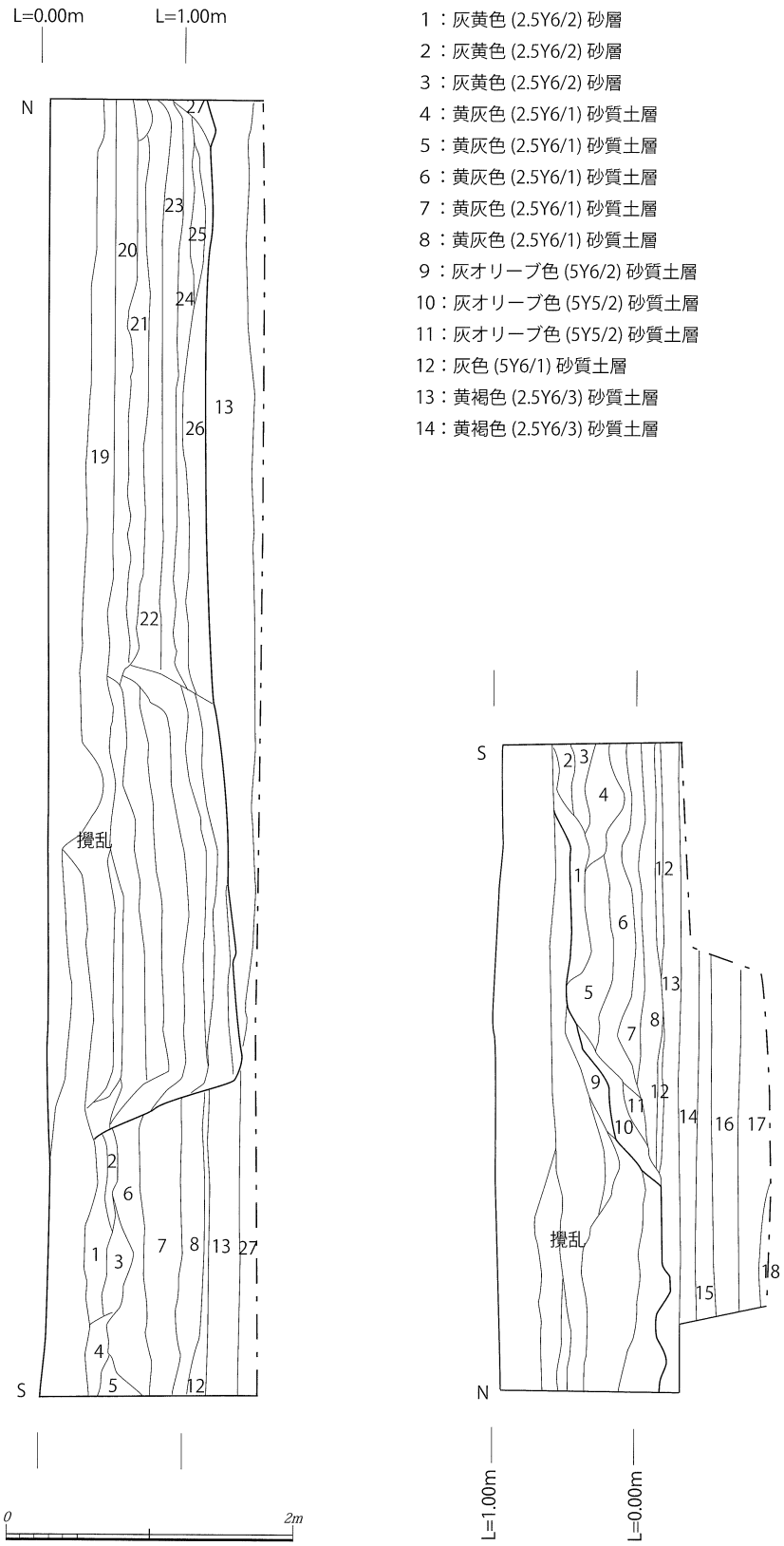


第 48 図　SU1001 出土遺物図（2）



遺物番号	遺構	器種	長さ	幅	厚み	備考	実測番号
150	SU1001	船釘	10.5	2.0	1.2	円柱部厚 1.30	599
151	SU1001	船釘	11.5	1.6	1.3	円柱部厚 1.20	600
152	SU1001	船釘	10.0	2.1	1.1	円柱部厚 1.40	606
153	SU1001	船釘	7.8	1.8	0.9	円柱部厚 1.00	601
154	SU1001	船釘	4.0	1.0	1.1		602
154	SU1001	船部材	7.3	2.6	0.4	赤漆	603
156	SU1001	船部材	24.2	12.8	4.0	赤漆	593
157	SU1001	船部材	27.2	10.1	4.5		616
158	SU1001	船部材	16.2	5.5	3.2		595
159	SU1001	杭	31.4	5.8	4.7		596

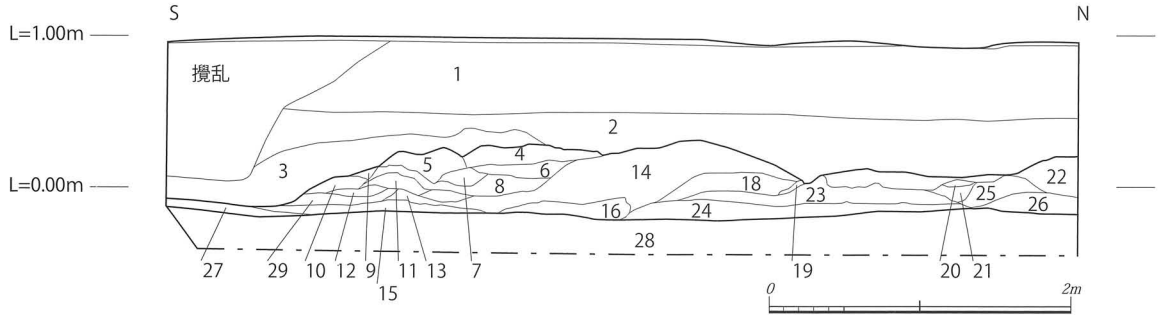
第 21 表　SU1001 出土木製品観察表



1：灰黄色 (2.5Y6/2) 砂層
2：灰黄色 (2.5Y6/2) 砂層
3：灰黄色 (2.5Y6/2) 砂層
4：黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土層
5：黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土層
6：黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土層
7：黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土層
8：黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土層
9：灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質土層
10：灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土層
11：灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土層
12：灰色 (5Y6/1) 砂質土層
13：黄褐色 (2.5Y6/3) 砂質土層
14：黄褐色 (2.5Y6/3) 砂質土層
15：黄褐色 (2.5Y6/3) 砂質土層
16：灰色 (10Y5/1) 砂層
17：灰オリーブ黒色 (5Y4/2) 砂層
18：オリーブ黒色（10Y3/1）細砂層
19：灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂層
20：灰黄色 (2.5Y6/2) 砂層
21：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土層
22：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土層
23：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層
24：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土層
25：クサレ礫層
26：黄灰色 (2.5Y6/1) 砂質土層
27：灰色 (10Y5/1) 砂層

238–3 番地地点

第 49 図　SG1006 土層図（1）



1：灰黄色 (2.5Y6/2) 砂層
2：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂層
3：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂層
4：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
5：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
6：オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土層
7：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
8：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂層
9：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
10：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
11：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
12：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
13：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂層
14：暗灰黄色 (2.5Y4/3) 砂質土層
15：オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土層
16：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
17：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂層
18：暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂層
19：暗灰黄色 (2.5Y4/3) 砂質土層
20：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂層
21：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
22：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
23：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
24：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
25：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
26：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土層
27：オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土層
28：黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂層
29：灰色 (5Y6/1) 砂層

169 番地地点

第 50 図　SG1006 土層図（2）

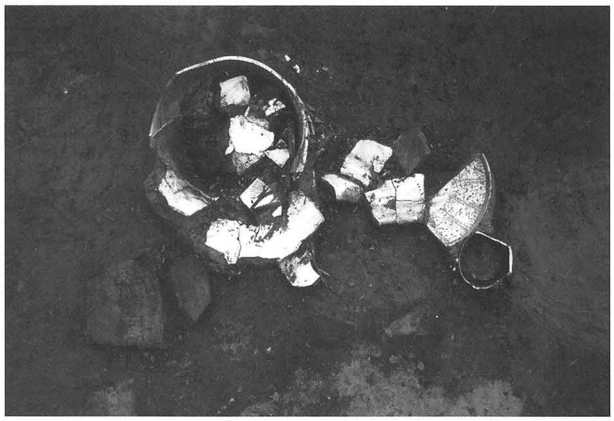
層）などを約 70㎝程度の単位で盛土している。土手状盛土層の外側（南側）には、にぶい黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層（4～12 層）が比較的細かい単位でかき上げられている。

1 号溝状遺構 SD1001（第 51 ～ 54 図）

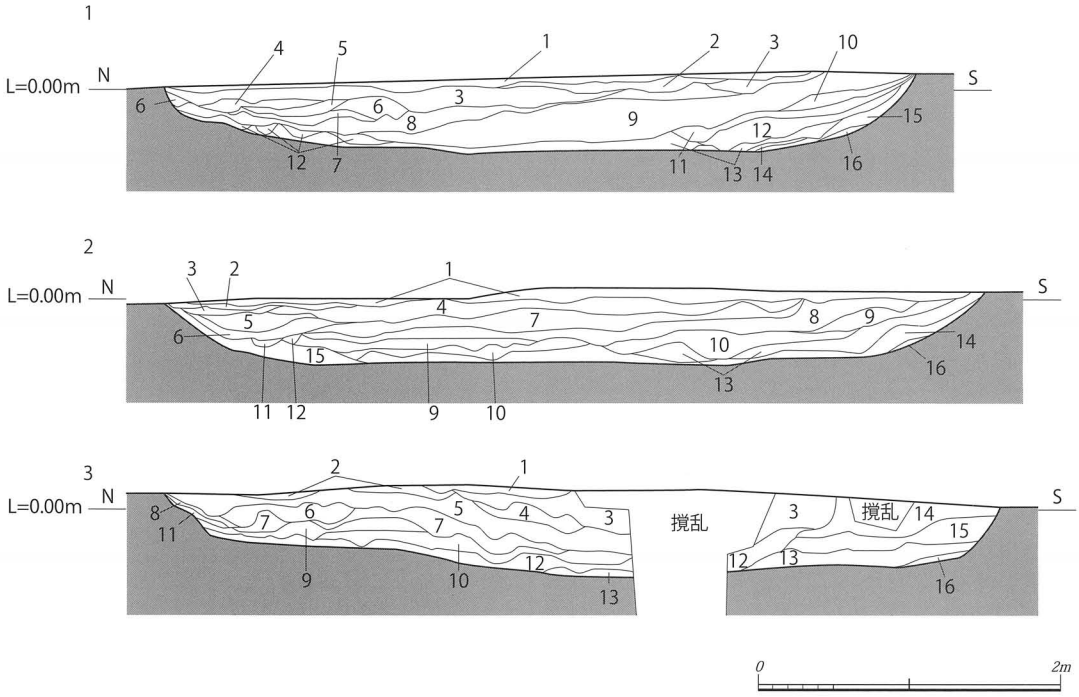
2 区、s 7～q 14 グリッド付近にて検出。東西方向に掘削された溝状遺構である。現存長約 25 m、南北幅 5.1 ～ 7.3 mm、深度 0.65 ～ 1 mを測る。遺構覆土はオリーブ灰色砂質土層やオリーブ黒色砂質土層である。底部の暗オリーブ灰色粘性砂質土層には鉄分の沈殿槽が検出された。

160 は磁器の碗である。161 は磁器の碗である。肥前系か。162 は陶器の碗である。外面は波状文で構成される。常滑系か。163 は陶器の碗である。高台から体部下半にかけては釉薬が施されていない。164 は肥前系磁器の鉢である。外面は花と牡丹と区画間（菱と蔓）で、内面は横線で構成される。165 は陶器の皿である。

ＰＬ．155　SD1001 検出状況



ＰＬ．156　SD1001 遺物出土状況



1

1：オリーブ灰色 (10Y4/2) シルト質土層
2：オリーブ黒色 (10Y3/2) シルト質土層
3：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
4：オリーブ黒色 (10Y3/2) シルト質土層
5：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
6：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
7：灰色 (7.5Y4/1) シルト質土層
8：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
9：オリーブ黒色 (10Y3/2) 粘土層
10：暗オリーブ灰色 (5GY4/1) シルト質土層
11：オリーブ黒色 (10Y3/2) シルト質土層
12：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
13：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
14：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
15：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
16：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層

2

1：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質土層
2：オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質土層
3：灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 砂質土層
4：オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 砂質土層
5：オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土層
6：オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土層
7：オリーブ黒色 (5Y2/2) 砂質土層
8：オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 砂質土層
9：オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘土層
10：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) シルト質土層
11：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 細砂層
12：暗オリーブ灰色 (2.5GY3/1) 砂質土層
13：灰オリーブ色 (7.5Y4/2) シルト質土層
14：オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土層
15：オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土層
16：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質土層

3

1：オリーブ灰色 (10Y4/2) 砂層
2：灰色 (10Y4/1) 砂層
3：灰色 (10Y4/1) 砂層
4：オリーブ黒色 (10Y3/2) 細砂層
5：灰色 (7.5Y4/1) 細砂層
6：灰色 (10Y4/1) 砂層
7：灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 細砂層
8：灰色 (7.5Y4/1) 細砂層
9：灰色 (10Y4/1) 細砂層
10：オリーブ黒色 (10Y3/1) 砂層
11：オリーブ黒色 (10Y3/1) 砂層
12：オリーブ黒色 (10Y3/2) 細砂層
13：オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 細砂層
14：オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 細砂層
15：灰色 (10Y4/1) 細砂層
16：オリーブ灰色 (10Y4/2) シルト質土層

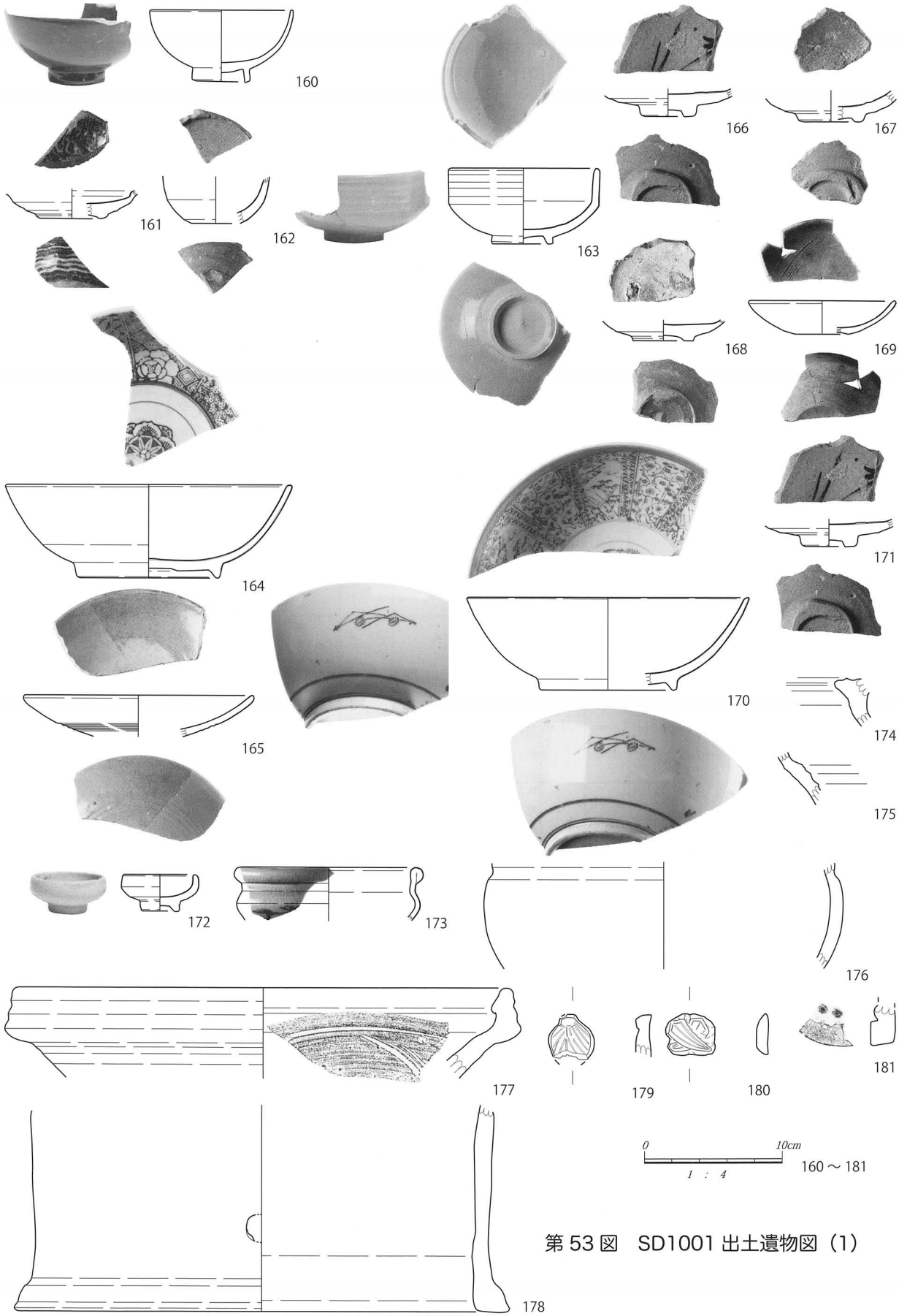
第 51 図　SD1001 土層図

外面底部から体部下半にかけて 4 条の渦巻き文が施される。見込み付近の釉薬は掻き取られて薄くなっている。166 は肥前系磁器の皿である。唐津、いわゆる端反形の皿である。外面は無文で、内面は草木で構成される。底部には砂目痕が残る。16 世紀末。167 は陶器の皿である。肥前系か。168 は肥前系陶器の皿である。見込みには砂目痕が残る。削り出し高台である。169 は磁器の皿である。外面は無文で、内面は 3 状のヘラガキ沈線が施される。170 は磁器の鉢である。肥前系。外面は圏線と草で、内面は区画間（菱形）と梅と竹と松で構成される。172 は陶器の杯である。底部に砂目痕が残る。173 は磁器の火入である。外面は風景文で構成される。174，175 は陶器の大形甕である。丹波。176 は土師質土器の鍋である。内外面共にヨコナ

第 52 図　SD1001 遺物出土状況図

P L．157　SD1001 土層堆積状況 1

P L．158　SD1001 土層堆積状況 2



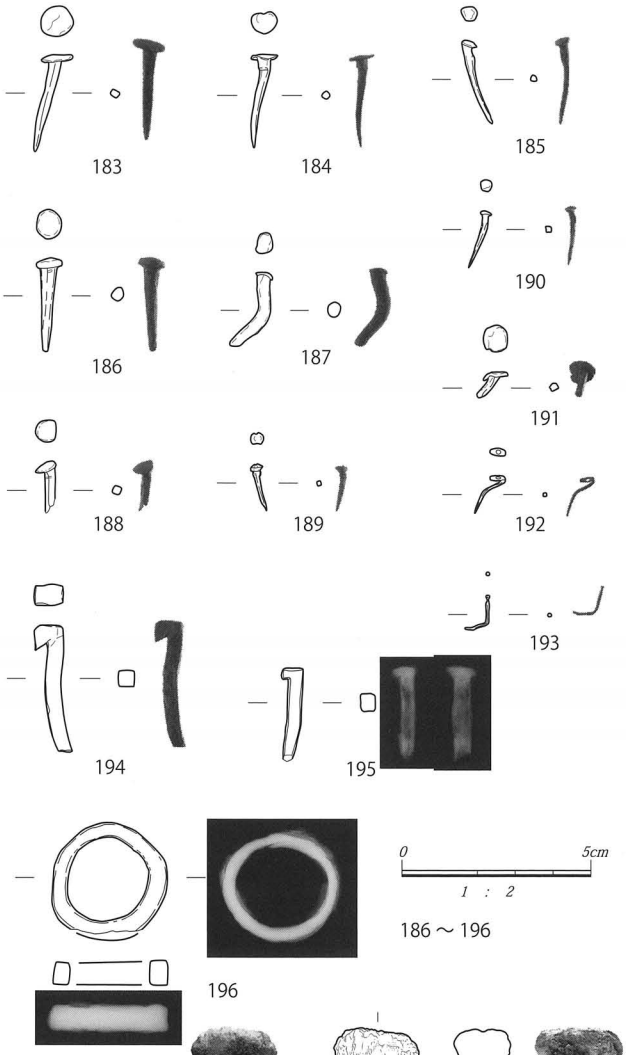
第 53 図　SD1001 出土遺物図（1）

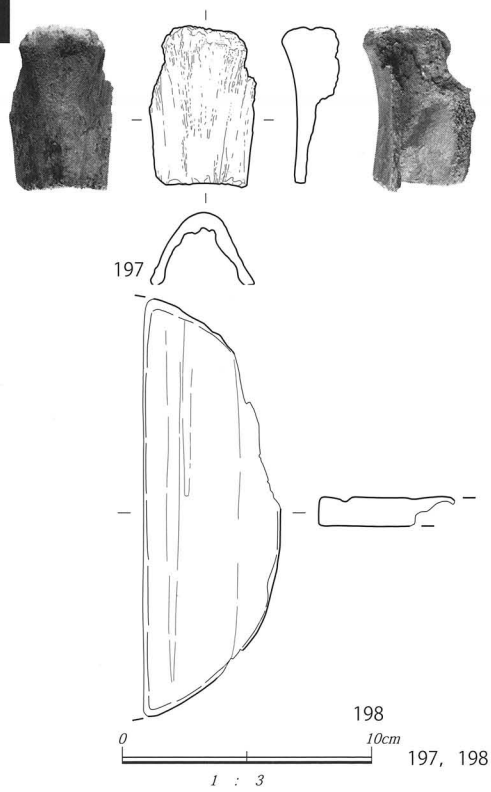
遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
160	SD1001	磁器	碗	10.1	5.2		4.2	内：5YR2/3 極暗赤褐 外：5YR2/3 極暗赤褐 断：N7/0 灰白	施釉						394
161	SD1001	磁器	碗		(2.0)	(9.6)	4.6	内：7.5Y6/1 灰 外：2.5Y6/2 灰黄 断：5Y6/1 灰	施釉						154
162	SD1001	陶器	碗		(3.4)		(3.4)	内：2.5YR4/1 赤灰 外：2.5YR3/1 暗赤灰 断：2.5YR4/4 にぶい赤褐	施釉	波状紋			常滑？		155
163	SD1001	陶器	碗	(10.6)	5.5		4.4	内：8Y,3s,6.5 グレイみの黄 外：8Y,3s,6.5 グレイみの黄 断：8Y,1s,8.5 黄みの白	施釉						392
164	SD1001	磁器	鉢	(20.4)	(6.8)	(20.8)	9.9	内：N8/0 灰白 外：N8/0 灰白 断：N8/0 灰白	絵付・施釉	花＋ボタン＋区画間（菱、つる）	横線		肥前系		359
165	SD1001	陶器	皿	(16.5)	(3.0)			内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙 断：2.5Y8/3 淡黄	施釉	轆轤ナデ体部と底部の境に沈線（4 条）				貫入あり	361
166	SD1001	磁器	皿		(2.0)	(9.2)	(3.4)	内：5Y7/2 灰白 外：2.5Y7/3 浅黄 断：2.5Y7/2 灰黄	絵付け、鉄釉		草木		唐津	端反形の皿 砂目あり Ⅰ－1 期	145
167	SD1001	陶器	皿				(4.0)	内：2.5Y6/3 にぶい黄 外：2.5Y7/2 灰黄 断：2.5Y7/2 灰黄	施釉						153
168	SD1001	陶器	皿				(4.4)	内：2.5Y7/2 灰黄 外：10YR6/3 にぶい黄橙 断：7.5YR7/4 にぶい橙	施釉				肥前系	内面砂目あり	152
169	SD1001	磁器	皿	(10.4)	(2.4)	(10.6)	(3.8)	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y8/2 灰白 断：2.5Y8.2 灰白	施釉		3 条のヘラ描沈線				151
170	SD1001	磁器	鉢	(20.2)	(6.7)	(20.4)	(9.6)	内：N8/0 灰白 外：N8/0 灰白 断：5Y8/1 灰白	絵付・施釉	圏線＋草	区画間（菱形）＋梅＋竹＋松		肥前系		391
172	SD1001	陶器	杯	5.0	2.6	5.5	2.7	内：5Y7/2 灰白 外：5Y7/2 灰白 断：5Y7/1 灰	施釉					外面砂目	97
173	SD1001	磁器	火入	(12.4)	(3.3)	(13.6)		内：2.5Y8/1 灰白 外：5GY8/1 灰白 断：5Y8/1 灰白	絵付け、施釉	風景文					150
174	SD1001	陶器	甕					内：10YR4/4 褐 外：10YR5/4 にぶい黄褐 断：2.5Y7/2 灰黄					丹波		146
175	SD1001	陶器	甕					内：5YR5/3 にぶい赤褐 外：5YR4/4 にぶい赤褐 断：5YR6/4 にぶい橙					丹波		147
176	SD1001	土師質土器	鍋		(7.8)			内：10YR6/3 にぶい黄橙 外：10YR6/2 灰黄褐		ヨコナデ	ヨコナデ			石英、長石、赤色斑粒含む	412
177	SD1001	陶器	擂鉢	35.0		37.2		内：7.5YR6/6 橙 外：10YR7/4 にぶい黄橙 断：10YR6/4 にぶい黄橙		轆轤ナデ→ユビナデ	轆轤ナデ			片口有	91
178	SD1001	土師質土器	焜炉		(15.0)	(35.8)	35.4	内：10YR5/3 にぶい黄褐 外：10YR4/3 にぶい黄褐 断：10YR5/3 にぶい黄褐			板ナデ			煤付着	538
179	SD1001	土師質	土人形	1.6	1.7	0.6	1.4 g	内：7.5YR6/4 にぶい黄橙 外：7.5YR6/4 橙		貝				石英、雲母、赤色斑粒含	94
180	SD1001	土師質	土人形	1.5	1.8	0.5	1.3 g	内：7.5YR7/4 にぶい黄橙 外：7.5YR7/6 橙		剣菱				石英、雲母、赤色斑粒含	93
182	SD1001	陶器	火鉢	22.4	25.6	27.6	18.6	内：2.5Y8/1 灰白 外：2.5Y8/1 灰白 断：2.5Y8/1 灰白	絵付・施釉	松		峯＋？		内外面とも貫入あり	537

第 22 表　SD1001 出土陶磁器類観察表

遺物番号	遺構	器種	長	瓦当直径	瓦当厚	文様径	縁高	丸瓦部厚	玉縁長	表器面色調	裏器面色調	断面色調	巴種	珠文数	コビキ痕	布目痕	焼成	雲母粉	備考	実測番号
181	SD1001	軒丸瓦		(9.4)	(1.8)	(6.0)	0.5							(2)		無	良	無		148

第 23 表　SD1001 出土瓦類観察表





第 54 図　SD1001 出土遺物図（2）

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部1	頭部2	重量	備考	実測番号
183	SD1001	船釘	2.7		0.2	0.9	0.8	1.7		175
184	SD1001	船釘	2.6		0.2	0.7	0.5	0.7		174
185	SD1001	船釘	2.4		0.2	0.5	0.4	0.4		172
186	SD1001	船釘	2.5		0.4	0.8	0.7	2.1		188
187	SD1001	船釘	2.4		0.4	0.6	0.5	1.9		187
188	SD1001	船釘	(1.4)		0.3	0.6	0.6	0.5		190
189	SD1001	船釘	1.3		0.1	0.4	0.3	0.2		179
190	SD1001	船釘	1.6		0.2	0.3	0.3	0.2		176
191	SD1001	船釘	0.9		0.2	0.7	0.7	0.4		186
192	SD1001	船釘	1.8		0.1	0.4	0.2	0.1		178
193	SD1001	船釘	1.4		0.1	0.1	0.1	0.1		177
194	SD1001	船釘	3.4		0.4	0.8	0.6	4.9		189
195	SD1001	船釘	2.5		0.5	0.8	0.6	1.5		173
195	SD1001	座金	8.1	0.5	0.7			10.8		319

第 24 表　SD1001 出土金属製品観察表

遺物番号	遺構	器種	長さ	幅	厚み	備考	実測番号
197	SD1001	骨	8.4	5.5	3.8		92
198	SD1001	曲物	16.7	5.4	1.2		619

第 25 表　SD1001 出土木製品観察表

デが施される。177 は陶器の擂り鉢である。焼成はやや甘く、片口を有する。178 は土師質土器の焜炉である。底部に煤が付着する。179 は土師質の泥面子である。貝を模す。180 は土師質の泥面子である。2 振りの剣を模す。裏面に剥離痕がある。182 は陶器の火鉢である。外面は松で構成される。「不明と峯」で構成される印が施されている。内外面共に貫入が観察される。

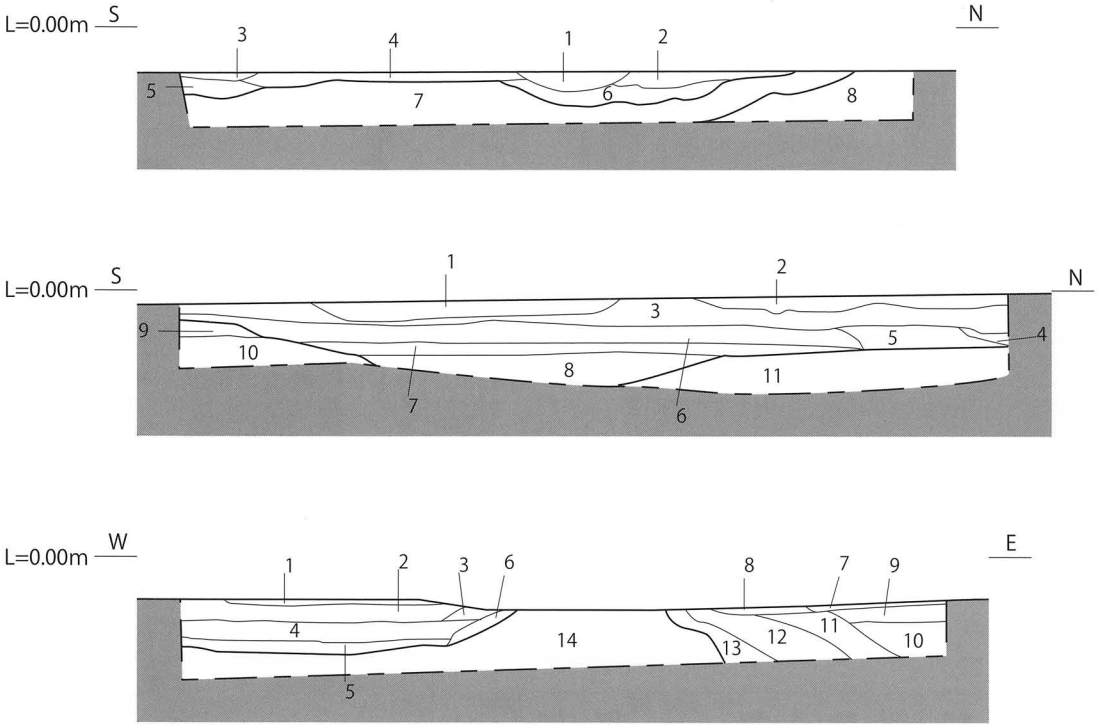
183 ～ 195 は船釘である。196 は責金具もしくは座金である。197 は牛骨上腕骨で、切断されている。

198 は曲げ物の底部である。

明治期～昭和期にかけて、大堀が埋没する過程において、周辺部からの湧水を排水するために掘削された溝である。

2 号溝状遺構 SD1002

2 区南側において南北側で土質が異なっており、壁面土層の観察により緩やかに北側に下がっていくライン

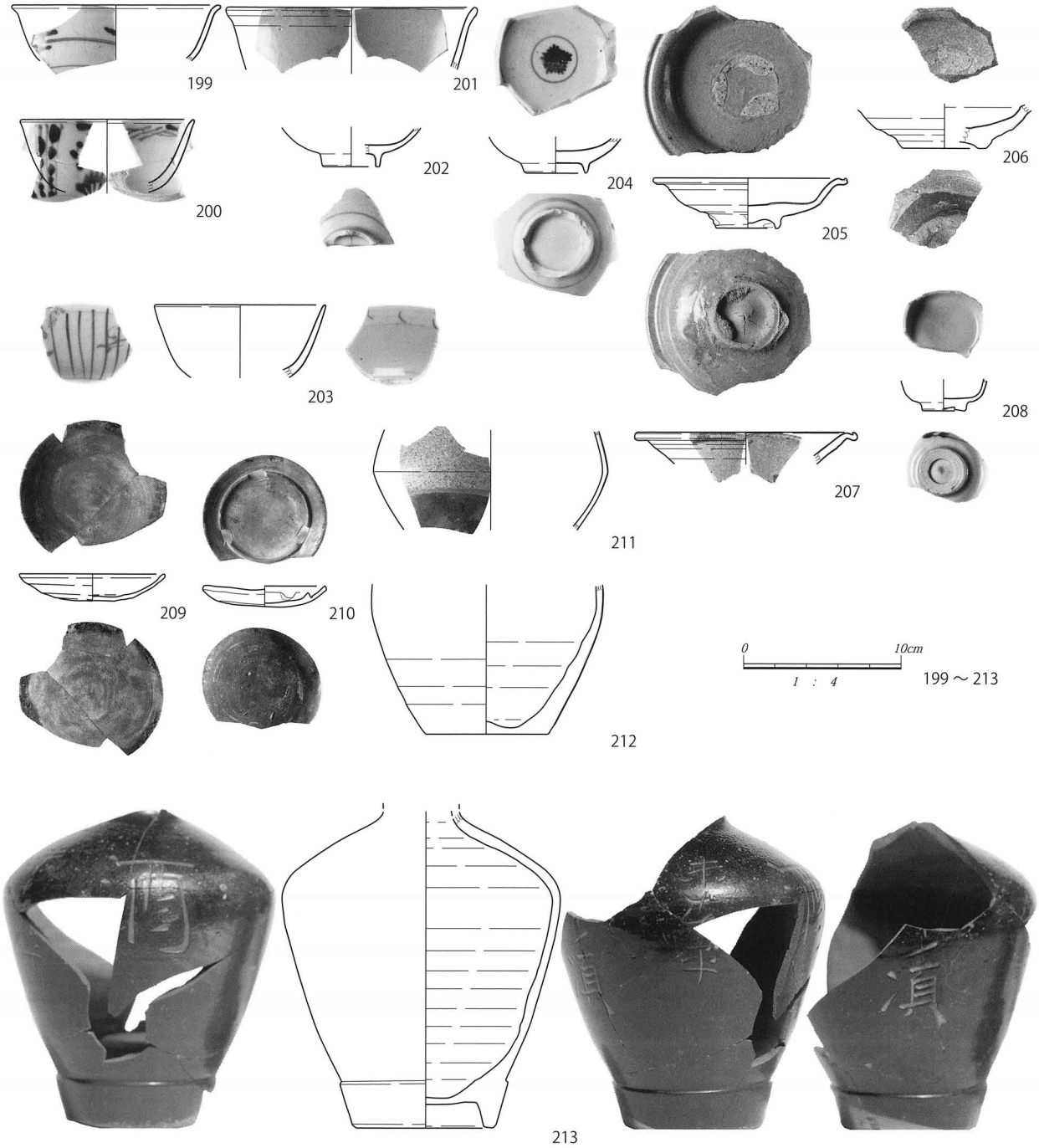


1：灰色 (10Y5/1) 細砂層
2：灰色 (7.5Y4/1) 砂質土層
3：暗オリーブ色 (5Y4/3) 細砂層
4：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
5：灰色 (7.5Y5/1) シルト質土層
6：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
7：オリーブ灰色 (10Y5/2) 砂質土層
8：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層

1：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
2：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
3：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
4：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層
5：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
6：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
7：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト質土層
8：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
9：オリーブ黒色 (7.5Y3/2) 粘土層
10：オリーブ黒色 (5Y3/2) シルト質土層
11：灰色 (10Y5/1) 細砂層

1：灰色 (7.5Y5/1) シルト質土層　攪乱
2：オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘土層
3：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層
4：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
5：オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘土層
6：灰色 (7.5Y4/1) 細砂層
7：オリーブ灰色 (2.5GY6/1) 砂質土層
8：オリーブ灰色 (5GY5/1) 細砂層
9：黒色 (10Y2/1) 粘土層
10：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
11：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
12：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
13：灰色 (10Y5/1) 細砂層
14：灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 砂質土層

第 55 図　SD1002 土層図

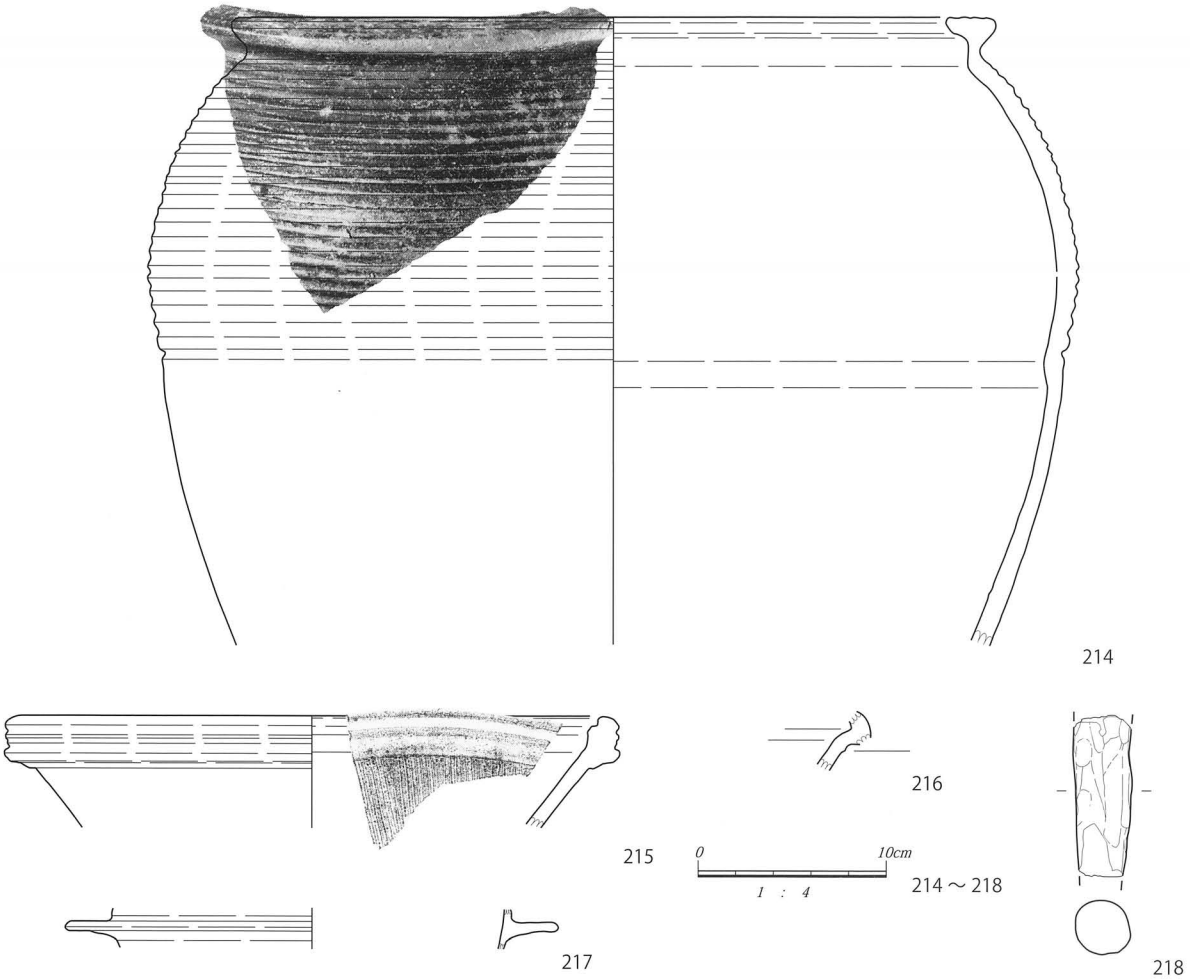


第 56 図　SD1002 出土遺物図（1）

が検出されたことから、大堀の南側肩と推定される。p 10 グリッド付近にて、大きく北に突出する部分があり、その西側に瓦片が集中して検出された。

東端で一部深掘りを行い、落ち込み部分と堀の底の確認を試みたが、標高約－ 1.3 m付近で激しい湧水があったため、それ以上の掘削を断念した。覆土の最上層付近に遺物は集中しており、瓦片、陶磁器類、木片等が出土している。

199 は肥前系磁器の碗である。外面は草木で、内面は圏線で構成される。200 は肥前系磁器の碗である。外面は区画間と草で、内面は横線と檜垣で構成される。201 は磁器の碗である。202 は肥前系磁器の碗である。外面は横線で構成される。203 は肥前系磁器の碗である。外面は横線と草木と鎬状の放射線で、内面は横線



第 57 図　SD1002 出土遺物図（2）

と月で構成される。204 は磁器の碗である。外面は横線と草木（？）で、内面は丸に菊（？）と横線で構成される。205 は肥前系陶器の皿である。見込みと底部に 3 方向の砂目が残る。206 は陶器の皿である。見込みに砂目が残る。唐津系か。207 は陶器の皿である。208 は磁器の杯である。外面は草木で、高台は圏線で構成される。209 は焼き締め陶器の灯明皿である。口縁部に煤が付着する。210 は土師質土器の灯明皿である。底部は回転ヘラケズリである。口縁部に煤が付着する。211 は陶器の急須である。212 は陶器の徳利である。大谷焼である。213 は陶器の徳利である。大谷焼。「酒」、「？ノ濱」、「未？平」のヘラガキが施されている。214 は陶器の大形甕である。丹波。215 は陶器の擂り鉢である。堺。216 は須恵質土器の捏ね鉢である。東播系か。217 は瓦質の羽釜である。鍔下面に煤が付着する。218 は土師質土器羽釜の脚部である。

230～259, 261 は船釘である。260 は足金物である。262 は鎹である。263 は金床である。264 は刀子である。265 は責金具である。

266 ～ 169 は船部材である。270，271 は下駄である。272 は杭である。273，274 は船部材である。

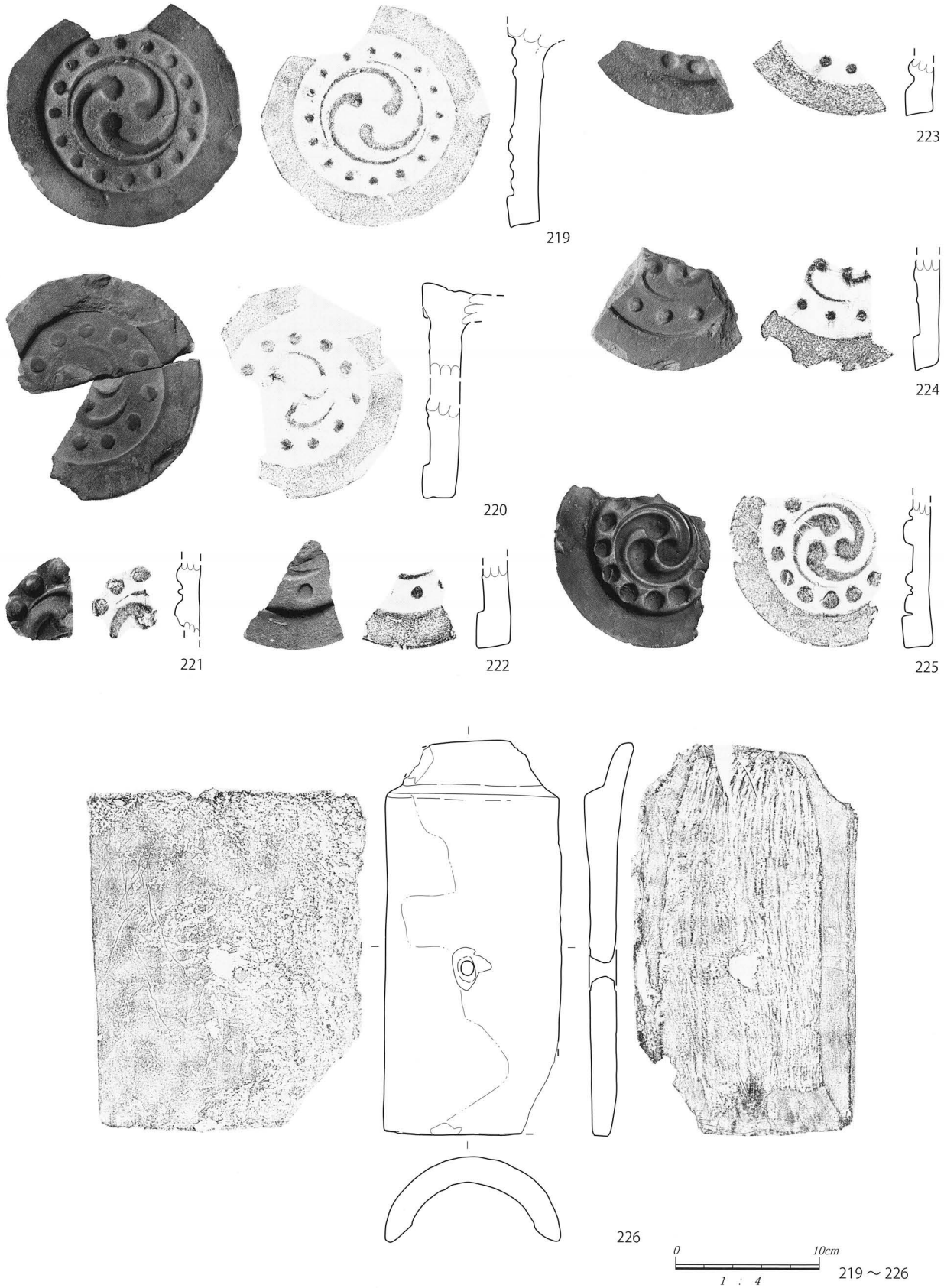
3 号溝状遺構 SD1003（第 63 図）

2 区、p 8 グリッド付近にて検出。SD1002 に平行して東西方向に延びる不定型な溝状遺構である。幅約 0.5 m、深度 0.1 mを測る。遺構覆土はオリーブ灰色砂質土層や灰色砂質土層である。

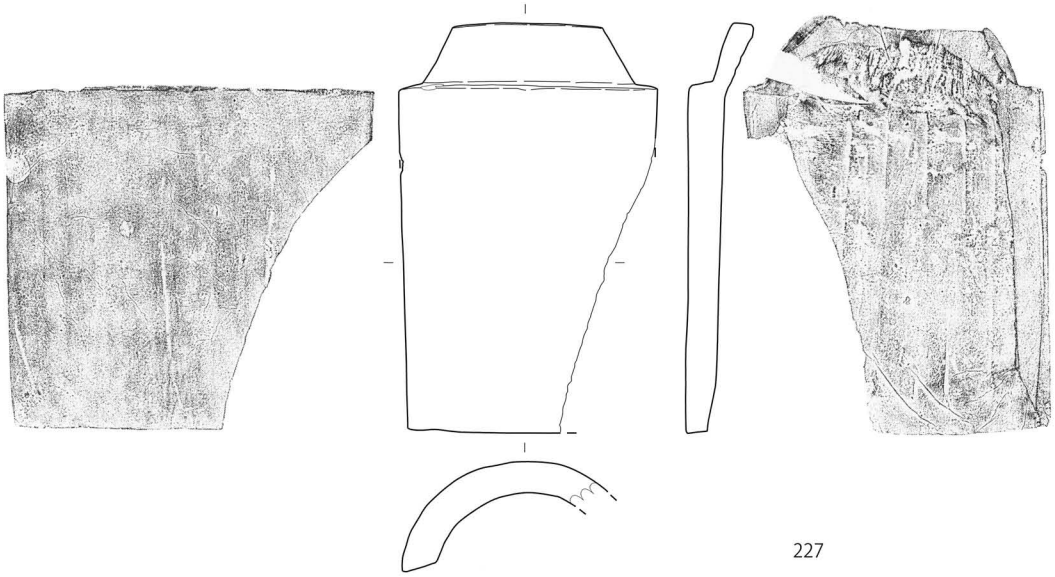
275 は陶器の徳利である。大谷焼。肩部にヘラガキによる文字が施されているが判別不能である。276 は

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
199	SD1002	磁器	碗	(12.9)	(3.5)	(13.2)		内：7.5GY8/1 明緑灰 外：7.5GY8/1 明緑灰 断：2.5Y8/1 灰白	染付、施釉	草木	横線		肥前系		100
200	SD1002	磁器	碗	(10.8)	(4.6)	(11.0)		内：10Y7/1 灰白 外：10Y7/1 灰白 断：7.57/1 灰白	絵付け、施釉	区画間＋草	横線＋槍垣		肥前系		200
201	SD1002	磁器	碗？	(15.9)	(3.9)			内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白 断：5Y7/1 灰白	施釉	轆轤ナデ	轆轤ナデ				201
202	SD1002	磁器	碗		(2.5)	(8.8)	(3.4)	内：16 g B,8.5,1 s 青み白 外：16 g B,8.5,1 s 青み白 断：5Y8/1 灰白	施釉	横線			肥前系		195
203	SD1002	磁器	碗	(10.6)	(4.6)	(10.8)		内：14BG,8.5,1s 緑み白 外：14BG,8.5,1s 緑み白 断：14BG,8.5,0 白	絵付・施釉	横線＋草木→放身状（鎬状）	横線→月		肥前系		535
204	SD1002	磁器	碗				3.8	内：5GY8/1 灰白 外：5GY8/1 灰白 断：N8/0 灰白	絵付け、施釉	草木？＋横線	丸に草花（菊？）＋横線				202
205	SD1002	磁器	皿	(12.1)	3.2	(12.3)	3.9	内：10Y7/1 灰白 外：10Y7/1 灰白 断：N7/0 灰	施釉					内外面 3 方向砂目	98
206	SD1002	陶器	皿		(2.3)	(11.0)	(5.0)	内：7.5Y6/1 灰 外：10R5/4 赤褐 断：5YR6/4 にぶい褐	施釉				唐津？	内面砂目あり	199
207	SD1002	陶器	皿	(13.5)				内：10YR7/2 にぶい黄橙 外：10YR7/2 にぶい黄橙 断：7.5YR7/3 にぶい橙	施釉						203
208	SD1002	磁器	猪口		(2.0)	(5.4)	2.6	内：10GY8/1 明緑灰 外：10GY8/1 明緑灰 断：N8/0 灰白	絵付け、施釉	草木 高台に圏線					156
209	SD1002	陶器	灯明皿	9.1	1.7		2.4	内：2.5YR4/4 にぶい赤褐 外：2.5YR5/4 にぶい赤褐 断：2.5YR5/6 明赤褐		轆轤ナデ	轆轤ナデ			口縁部煤付着 底部回転糸り	99
210	SD1002	陶器	灯明皿	7.1	1.4		5.9	内：2.5Y5/6 明赤褐 外：2.5Y5/6 明赤褐 断：5YR6/6 橙		轆轤ナデ→回転ヘラケズリ	轆轤ナデ			煤付着	81
211	SD1002	陶器	急須		(6.4)	(14.8)		内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：2.5Y8/2 灰白 断：2.5Y7/3 浅黄	施釉						192
212	SD1002	陶器	徳利		(9.4)	(14.6)	7.7	内：10R4/4 赤褐 外：10Y3/1 暗赤灰 断：10R4/4 赤褐	鉄釉				大谷焼		158
213	SD1002	陶器	徳利			16.3	8.0	内：2.5YR5/3 にぶい赤褐 外：10YR2/1 黒 断：2.5YR5/3 にぶい赤褐	施釉	轆轤ナデ→施釉→ヘラ状工具による刻字	轆轤ナデ		大谷焼	底部削り出し	85
214	SD1002	陶器	甕	(39.6)	(33.2)	(49.2)		内：7.5YR4/4 褐 外：6y0,3.5,5s こい黄みのブラウン 断：10YR5/1 褐灰	施釉	轆轤ナデ 棒状工具による沈線	轆轤ナデ		丹波		206
215	SD1002	陶器	擂鉢	(30.8)	(5.9)	(32.6)		内：5YR4/1 褐灰 外：5YR3/2 暗赤褐 断：2.5YR5/6 明赤褐		轆轤ナデ	擂り目（4 条 /1cm）		堺		194
216	SD1002	須恵質土器	捏ね鉢		(3.1)			内：5Y7/1 灰白 外：5Y7/1 灰白 断：5Y7/1 灰白		ヨコナデ	ヨコナデ				197
217	SD1002	瓦質土器	羽釜		(2.1)	(26.0)		内：2.5Y3/1 黒褐 外：10YR3/1 黒褐 断：2.5Y5/2 暗灰黄		ヨコナデ	ヨコナデ			外面鍔下面に煤付着	198
218	SD1002	土師質土器	羽釜		長さ 8.5	幅 3.0	厚さ 2.9	内： 外：5Y5/1 灰 断：5Y7/1 灰白		ユビオサエ・ユビナデ					205

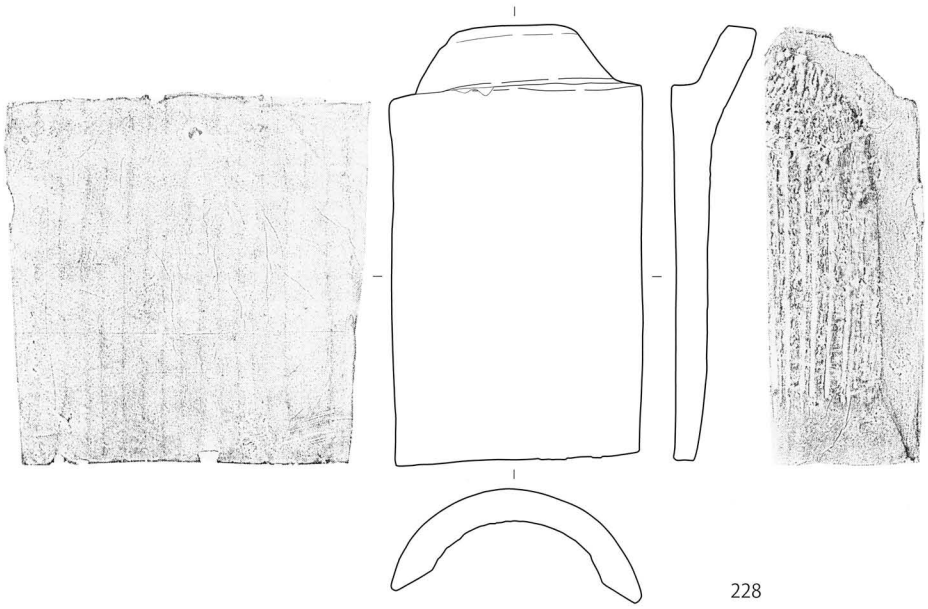
第 26 表　SD1002 出土陶磁器類観察表



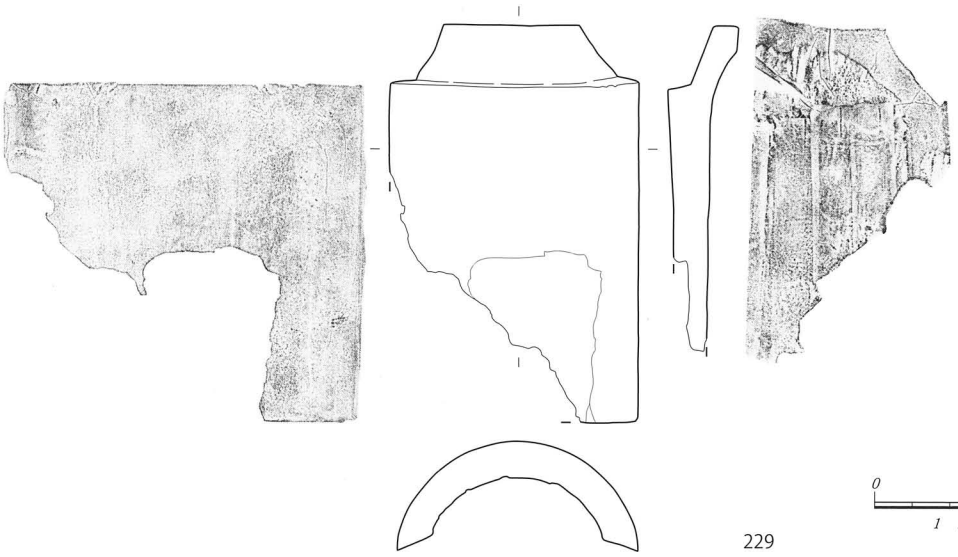
第 58 図　SD1002 出土遺物図（3）



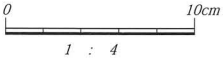
227



228



229



227 ～ 229

第 59 図　SD1002 出土遺物図（4）

遺物番号	遺構	器種	長	瓦当直径	瓦当厚	文様径	縁高	丸瓦部厚	玉縁長	表器面色調	裏器面色調	断面色調	巴種	珠文数	コビキ痕	布目痕	焼成	雲母粉	備考	実測番号
219	SD1002	軒丸瓦		(15.3)	2.3					N3/0 暗灰	N3/0 暗灰	5Y7/1 灰白	左巻三巴	16		無	良	有	瓦当面が砂岩のようにざらつく	120
220	SD1002	軒丸瓦	(4.8)	14.8	2.8					N4/0 灰	N4/0 灰	5Y6/1 灰	左巻三巴	(9)	無	無	良	有	瓦当面が砂岩のようにざらつく	122
221	SD1002	軒丸瓦			1.8					5B1.7/1 青黒	5B2/1 青黒	7.5Y7/1 灰白				無	良	有		207
222	SD1002	軒丸瓦		(15.0)	2.4	(10.0)	0.5			N4/0 灰	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	左巻三巴	(3)		無	良	有		211
223	SD1002	軒丸瓦			2.0		0.5			5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白		(2)	無	無	甘い	有		196
224	SD1002	軒丸瓦			1.8		0.5			2.5Y5.1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	左巻	(3)	無	無	甘い	有		193
225	SD1002	軒丸瓦								N5/0 灰	N5/0 灰	N6/0 灰	左巻三巴	(8)			良	有		123
226	SD1002	丸瓦	27.3				4.1	1.8	3.0	N6/0 灰	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白				有	良	無	中央部に釘穴 1 穴あり	208
227	SD1002	丸瓦	21.7				4.1	1.7	3.1	N 5/0 灰	N5/0 灰	N7/0 灰白				有	良	無		212
228	SD1002	丸瓦	23.3					1.7	3.2	N3/0 暗灰	N2/0 黒	N6/0 灰				無	良	無		209
229	SD1002	丸瓦	21.1				3.8	1.9	3.3	N3/0 暗灰	N4/0 灰	7.5Y7/1 灰白				無	良	有		210

第 27 表　SD1002 出土瓦類観察表

ＰＬ．159　SD1002 土層堆積状況

土師質土器の短頸壺である。口頸部にはヨコナデ、体部にはイタナデが施されている。277 は土師質土器の羽釜である。外面には煤が付着する。

4 号溝状遺構 SD1004（第 64 図）

２区、ｓ 10 グリッド付近にて検出。SD1001 に対して直交し、そそぎ込む溝状遺構である。検出長 2.3 m、幅 1 m、深度 18㎝を測る。覆土はオリーブ灰色砂質土層である。

5 号溝状遺構 SD1005（第 65 図）

２区、ｓ９グリッド付近にて検出。検出長 4.7 m、幅 1 m、深度 0.2 mを測る。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層やオリーブ灰色砂質である。

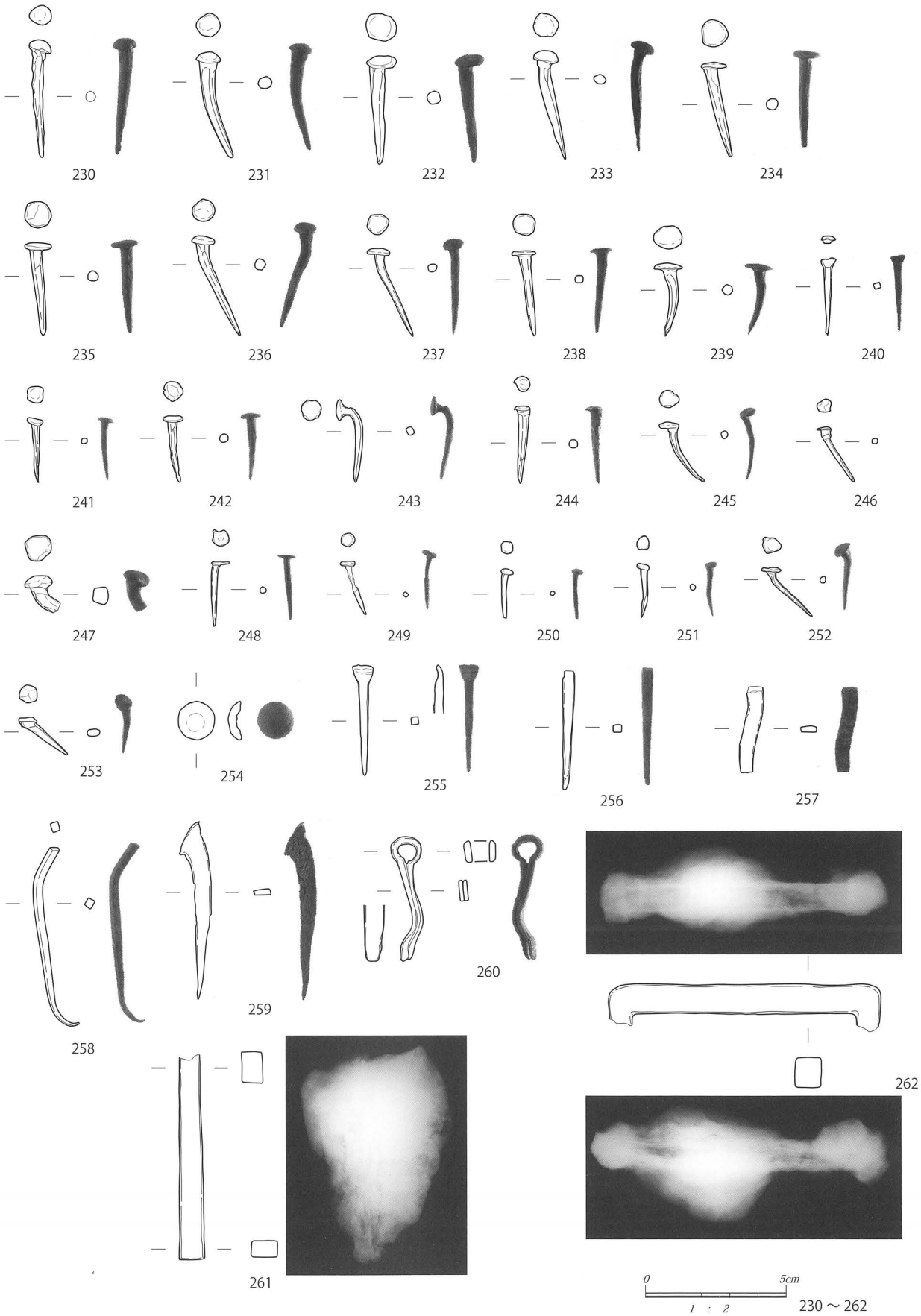
278，279 は土錘である。278 は土師質である。279 も土師質である。

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部 1	頭部 2	重量	備考	実測番号
230	SD1002	船釘	4.2		0.4	0.8	0.7	4.3		231
231	SD1002	船釘	3.9		0.5	0.9	0.9	3.8		261
232	SD1002	船釘	3.9		0.5	1.1	1.0	5.0		264
233	SD1002	船釘	4.0		0.4	0.9	0.9	2.5		274
234	SD1002	船釘	3.4		0.4	1.0	0.9	3.5		271
235	SD1002	船釘	3.3		0.4	1.0	1.0	2.9		262
236	SD1002	船釘	3.8		0.4	0.8	0.8	3.2		269
237	SD1002	船釘	3.4		0.3	0.8	0.7	1.8		268
238	SD1002	船釘	3.0		0.3	0.8	0.8	2.1		283
239	SD1002	船釘	2.6		0.4	1.0	0.9	1.9		276
240	SD1002	船釘	2.7		0.2	0.6	0.3	0.7		230
241	SD1002	船釘	2.2		0.2	0.6	0.6	0.8		265
242	SD1002	船釘	2.4		0.3	0.7	0.7	1.1		263
243	SD1002	船釘	3.3		0.3	0.7	0.7	1.4		278
244	SD1002	船釘	2.8		0.3	0.6	0.6	1.6		286
245	SD1002	船釘	2.6		0.3	0.7	0.6	0.7		281
246	SD1002	船釘	2.2		0.2	0.5	0.5	0.6		228
247	SD1002	船釘	2.3		0.2	0.6	0.6	0.7		267
247	SD1002	船釘	1.8		0.6	1.0	0.9	3.5		273
249	SD1002	船釘	2.0		0.2	0.5	0.5	0.4		266
250	SD1002	船釘	1.8		0.2	0.5	0.4	0.3		275
251	SD1002	船釘	1.9		0.2	0.5	0.5	0.5		277
252	SD1002	船釘	2.3		0.3	0.7	0.6	0.8		284
253	SD1002	船釘	2.2		0.3	0.7	0.6	1.1		229
254	SD1002	船釘			0.5	1.4	1.3	2.4		280
255	SD1002	船釘	3.9		0.3			1.9		279
256	SD1002	船釘	4.2		0.3			2.8		270
257	SD1002	船釘	3.1		0.3			2.5		272
258	SD1002	船釘	7.0		0.4	0.4	0.3	4.0		238
259	SD1002	船釘	6.3		0.3			4.4		282
260	SD1002	足金具	4.4		0.8			8.0		285
261	SD1002	鎹	7.2	0.9	0.6			136.3		325
262	SD1002	鎹	10.7	1.1	1.0			91.3		326
263	SD1002	船釘	10.7	0.9	1.3			100.5		333
264	SD1002	刀子	4.6	1.3	0.6			9.8		322
265	SD1002	責金具	3.3	0.7	1.0			17.1		171

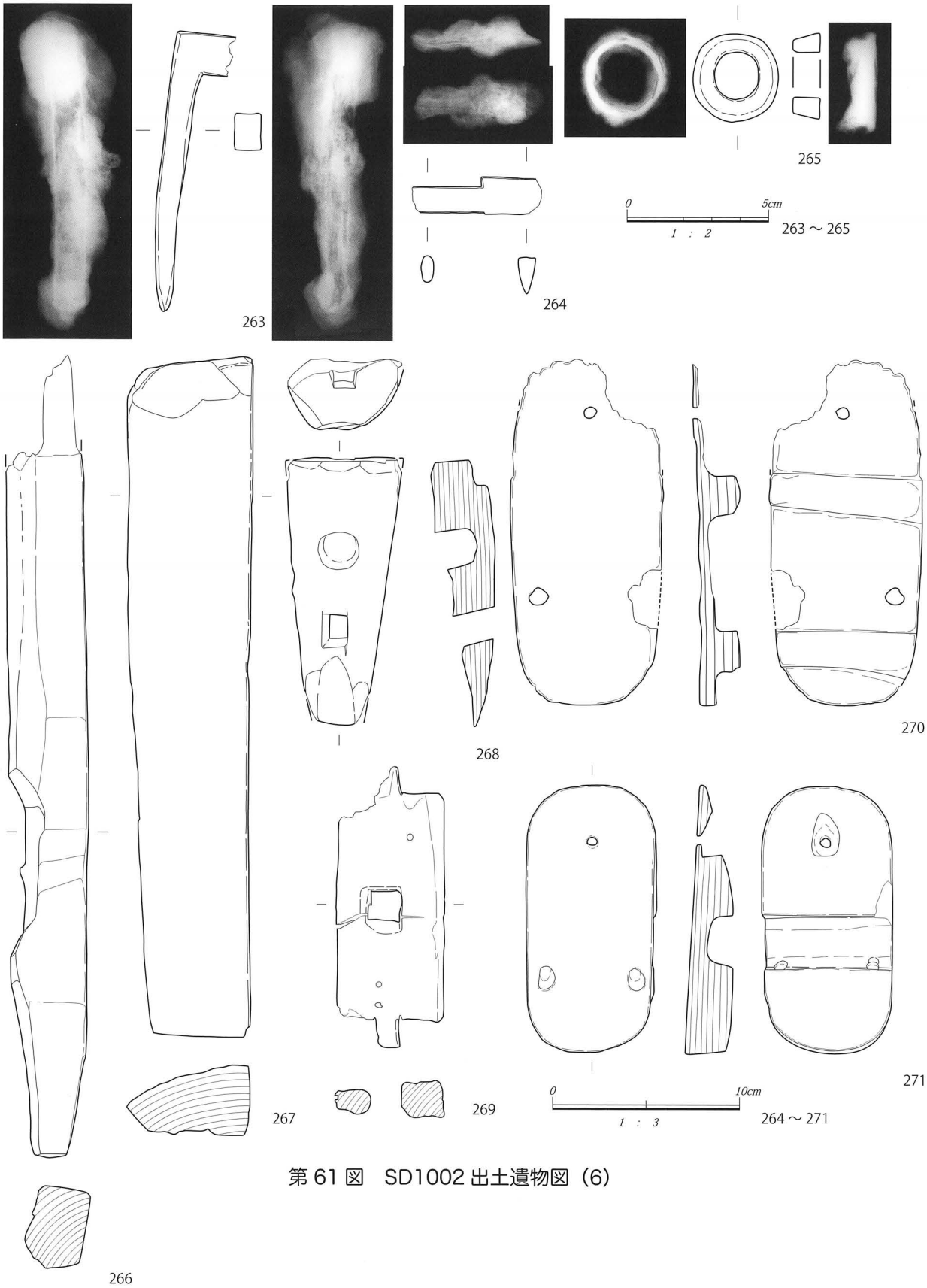
第 28 表　SD1002 出土金属製品観察表

遺物番号	遺構	器種	長さ	幅	厚み	備考	実測番号
266	SD1002	部材	42.2	4.4	4.3		544
267	SD1002	部材	35.8	6.6	3.7		542
268	SD1002	船部材	14.1	6.0	3.5		541
269	SD1002	船部材	5.8	14.8	1.9		551
270	SD1002	下駄	18.3	8.1	2.5		570
271	SD1002	下駄	14.2	6.8	2.5		458
272	SD1002	杭	10.2	3.1	3.2		543
273	SD1002	船部材	39.3	4.4	7.3		577
274	SD1002	船部材	39.0	4.6	7.1		576

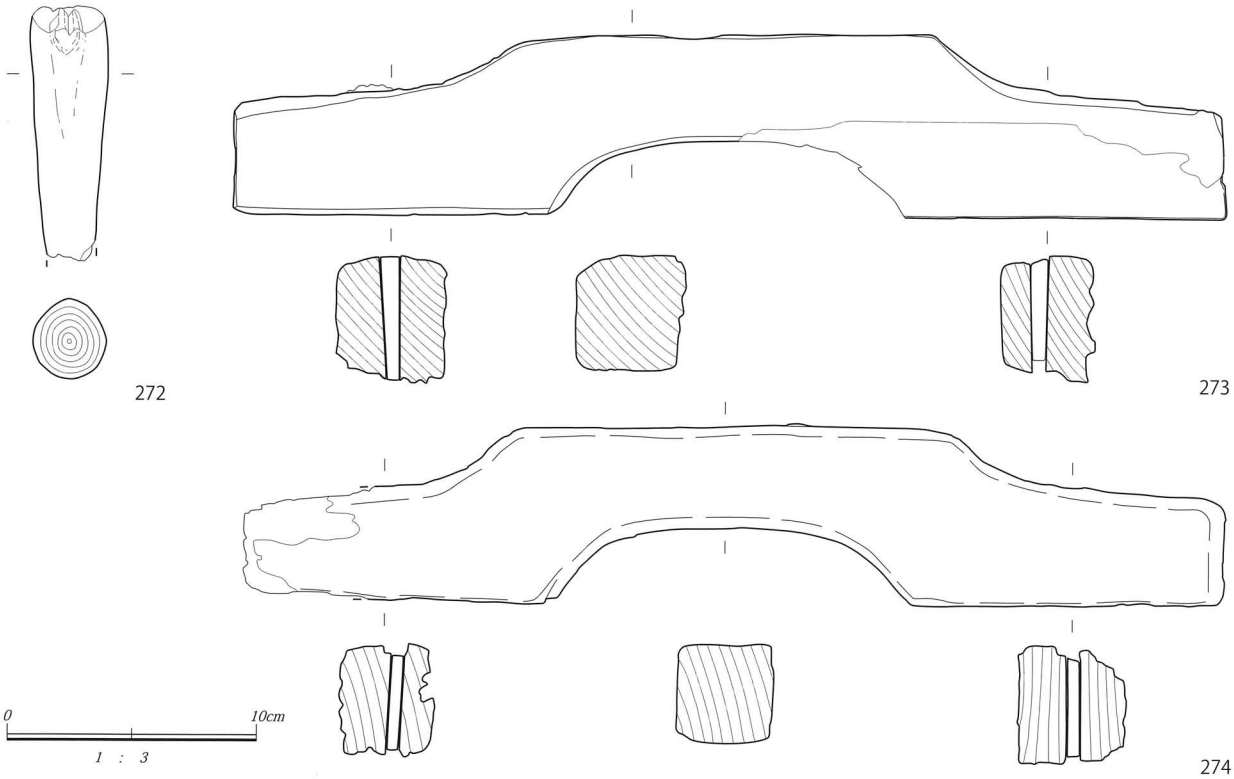
第 29 表　SD1002 出土木製品観察表



第 60 図　SD1002 出土遺物図（5）



第 61 図　SD1002 出土遺物図（6）



272～274　第62図　SD1002出土遺物図（7）

ＰＬ．160　SD1003完掘状況

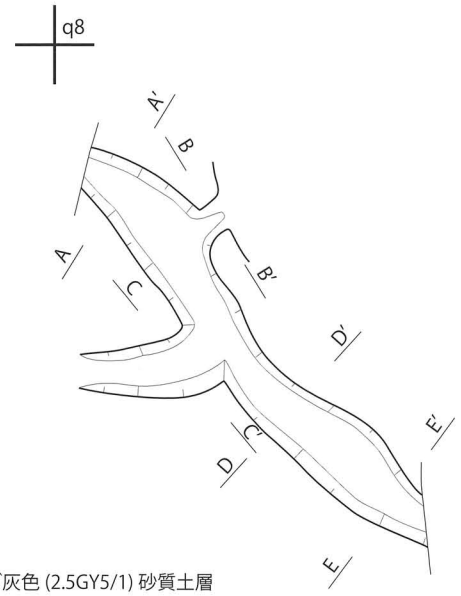
6号溝状遺構 SD1006（第66図）

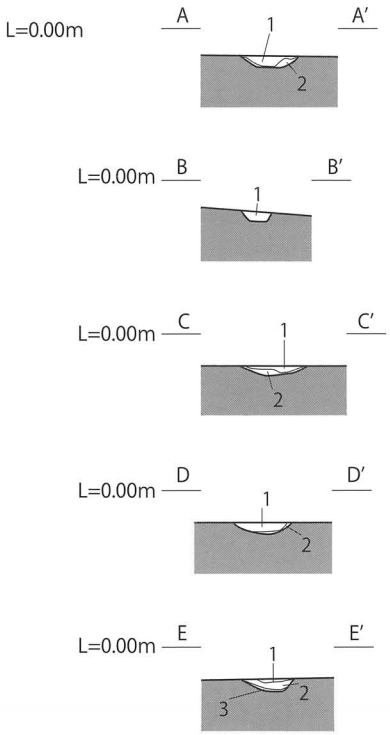
２区、ｎ 12グリッド付近にて検出。検出長3.2 m、幅0.5 m、深度5㎝を測る浅い溝状遺構である。遺構覆土は緑灰色砂質土層である。グライ化の影響である。東端は調査区外へと延びる。

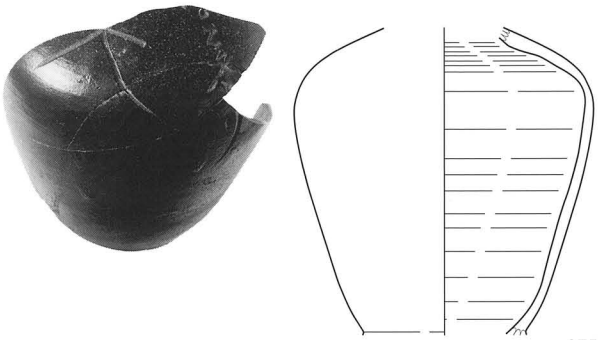
280は船釘である。

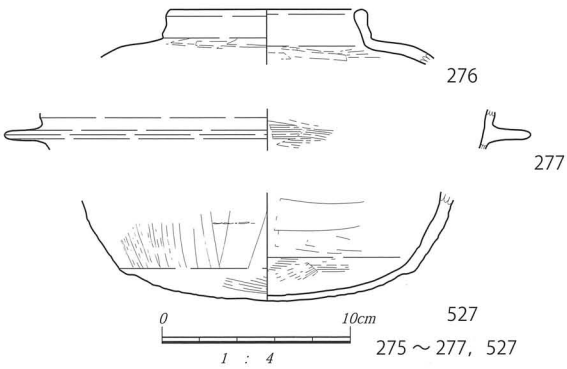
7号溝状遺構 SD1007（第67図）

２区、ｎ 12グリッド付近にて検出。SD1006に切られる。検出長1.75 m、幅0.52 m、深度8㎝を測る南北方向の溝状遺構である。遺構覆土は緑灰色砂質土層である。グライ化の影響である。南側は調査区外へと延







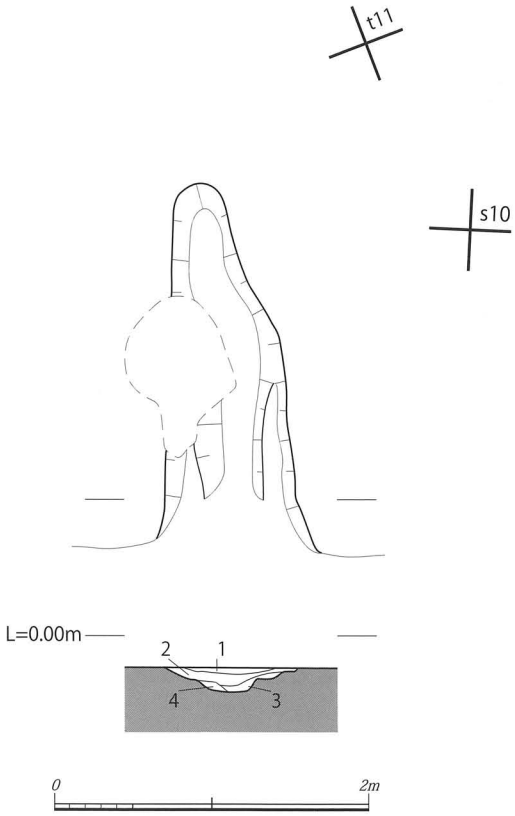


275～277，527

第 63 図　SD1003 遺構図、出土遺物図

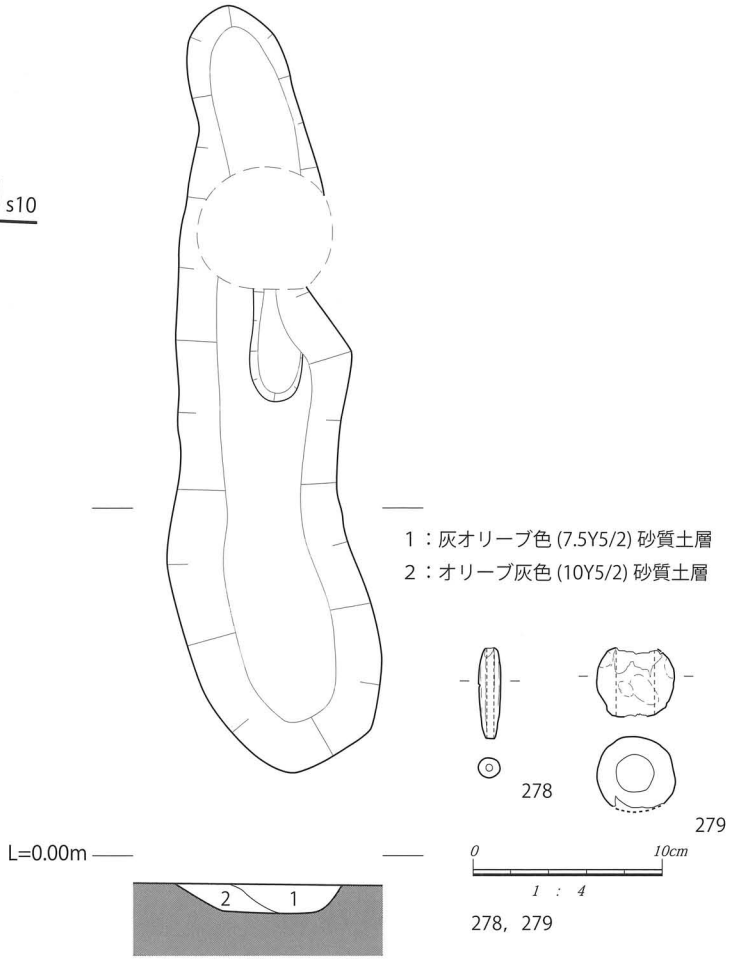
遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
275	SD1003	陶器	徳利		(16.2)	(15.8)		内：2.5YR4/4 にぶい赤褐 外：7.5YR2/3 極暗褐 断：2.5YR4/4 にぶい赤褐	外面に施釉	轆轤ナデ	轆轤ナデ		大谷焼		363
276	SD1003	土師質土器	短頸壺	(10.0)	(2.9)			内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：10YR5/3 にぶい黄褐		口縁・頸部ヨコナデ 体部板ナデ	口縁・頸部ヨコナデ 体部板ナデ				365
277	SD1003	土師器	羽釜		(2.1)	(27.8)		内：10YR5/4 にぶい黄褐 外：10YR4/2 灰黄褐 断：7.5YR5/4 にぶい褐		ヨコナデ	ハケ			外面煤付着	364
527	SD1003	土師器	焙烙		(5.7)	(19.6)	(15.8)	内：10YR4/3 にぶい黄褐 外：10YR2/1 黒 断：7.5YR5/4 にぶい褐		板ナデ（1.6cm以上）	ハケ（7 条/cm）			外面煤付着	362
278	SD1005	土師質	土錘	孔径 0.4	全長 4.8	幅 1.2	厚さ 1.1	内：2.5Y8/2 灰白 外：2.5Y8/2 灰白 断：2.5Y8/2 灰白							162
279	SD1005	土師質	土錘	孔径 2	全長 4.1	幅 4.1	厚さ (4.0)	内：5YR7/4 にぶい橙 外：5YR7/4 にぶい橙 断：5YR4/6 赤褐		ユビオサエ					163
281	SD1008	陶器	皿	12.0	2.5		5.0	内：7.5Y4/3 暗オリーブ 外：7.5Y4/3 暗オリーブ 断：N6/0 灰	施釉				肥前系	内面 4 方向砂目あり	406

第 30 表　SD1003 出土陶磁器類観察表



1：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層
2：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層
3：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
4：オリーブ灰色 (10Y5/2) 砂質土層

第 64 図　SD1004 遺構図



第 65 図　SD1005 遺構図、出土遺物図

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
278	SD1005	土師質	土錘	孔径 0.4	全長 4.8	幅 1.2	厚さ 1.1	内：2.5Y8/2 灰白 外：2.5Y8/2 灰白 断：2.5Y8/2 灰白							162
279	SD1005	土師質	土錘	孔径 2	全長 4.1	幅 4.1	厚さ (4.0)	内：5YR7/4 にぶい橙 外：5YR7/4 にぶい橙 断：5YR4/6 赤褐		ユビオサエ					163

第 31 表　SD1005 出土土製品観察表

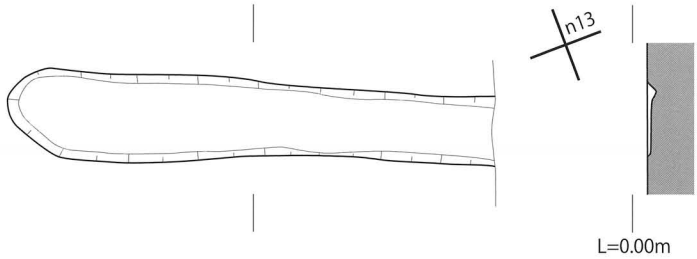
びる。

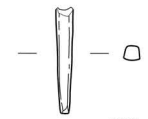
8 号溝状遺構 SD1008（第 68 図）

3 区、h 6 ～ h 8 グリッド付近にて検出。検出長 7 m、幅 1.1 m、深度 20㎝を測る東西方向の溝状遺構である。覆土は灰オリーブ色砂質土層であるが、焼土や炭類の混入が多い。遺構中央部より貝殻が出土した。

281 は陶器の皿である。肥前系。見込みに砂目痕が 4 方向残る。17 世紀末～ 18 世紀初頭である。

9 号溝状遺構 SD1009（第 69 図）

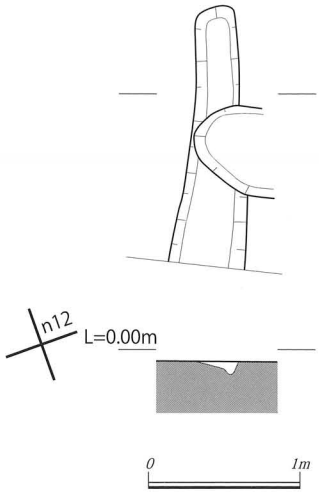




遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部1	頭部2	重量	備考	実測番号
280	SD1006	船釘	2.8	0.4	0.4			1.3		317

第 32 表　SD1006 出土金属製品観察表

第 66 図　SD1006 遺構図、出土遺物図



第 67 図　SD1007 遺構図

4 区、h 7 グリッド付近にて検出。検出長 1.9 m、幅 0.32 m、深度 8 ㎝を測る北西から南東へ延びる溝状遺構。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層である。

282 は船釘である。283 は木製の船釘である。

10 号溝状遺構 SD1010（第 70 図）

4 区、g 8 グリッド付近にて検出。検出長 1.1 m、幅 0.26 m、深度 10㎝を測る東西方向の溝状遺構である。東側は調査区外へと延びる。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層である。

11 号溝状遺構 SD1011（第 71 図）

4 区、i 7 グリッド付近にて検出。検出長 5.1 m、幅 0.6 m、深度 10㎝を測り、北西から南東方向へ延びる溝状遺構である。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層である。

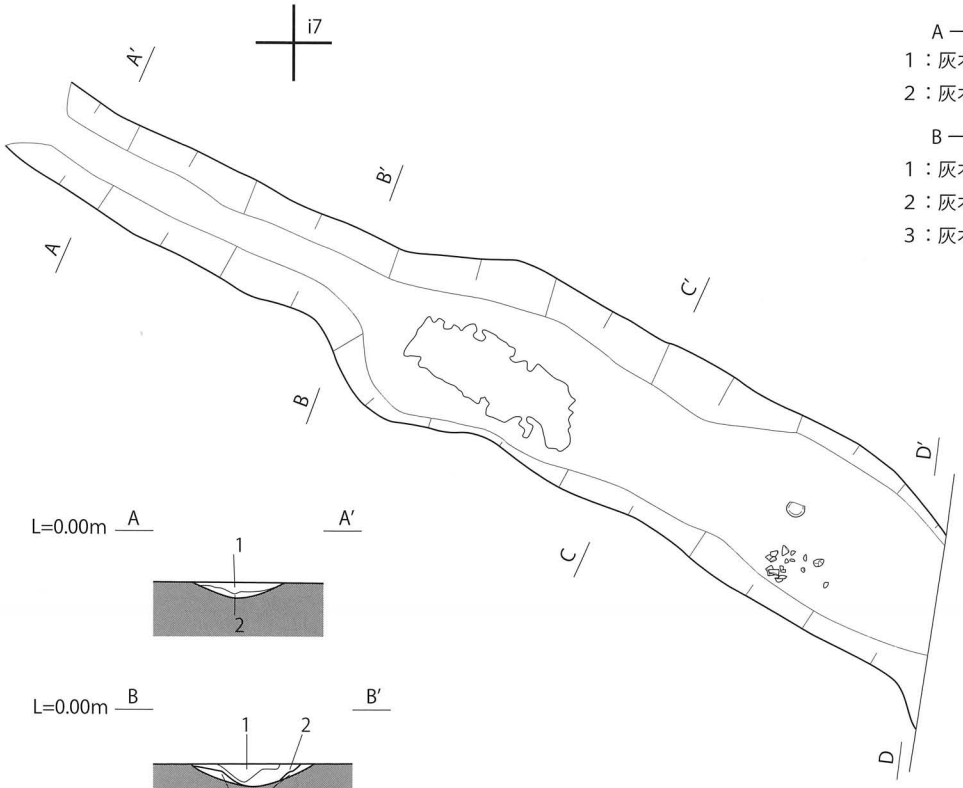
12 号溝状遺構 SD1012（第 72 図）

3 区、i 10 ～ k 10 グリッド付近にて検出。検出長 11 m、幅約 0.8 m、深度 24㎝を測り、南南西から北北東方向に延びる溝状遺構である。両端が調査区外に延びるため、本来の長さは不明である。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層、灰色砂質土層、黒色粘土層等である。SD1013，SD1014 とほぼ平行に掘削されていることから、安宅役所内における区画溝である可能性もある。

13 号溝状遺構 SD1013（第 73 図）

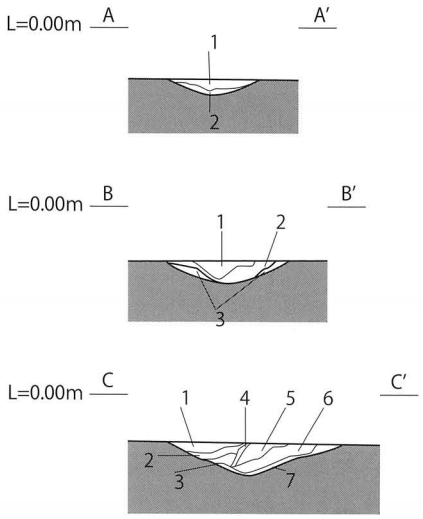
3 区、j 11 グリッド付近にて検出。検出長 7 m、幅 1.1 m、深度 30㎝を測り、南南西から北北東方向に掘削された溝状遺構である。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層である。SD1014 も同一方向であることからこれらの遺構は同一遺構と考えられる。

284 は瀬戸美濃系の天目茶碗である。体部下半まで黒釉が施されている。16 世紀前半である。285 は陶器の皿である。見込みに砂目が残る。口縁部の破断面には煤が付着しており、口縁部欠損後に灯明皿として転用



A－A'
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 細砂層

B－B'
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
3：灰オリーブ色 (5Y4/2) 細砂層

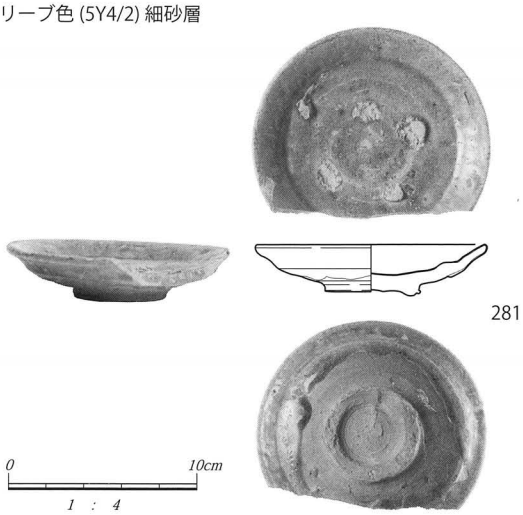


1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
3：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
4：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
5：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
6：褐色 (7.5YR4/3) 砂質土層
7：灰オリーブ色 (5Y4/2) 細砂層

0　2m

1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
3：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
4：褐色 (7.5YR4/3) 砂質土層
5：灰オリーブ色 (5Y4/2) 細砂層

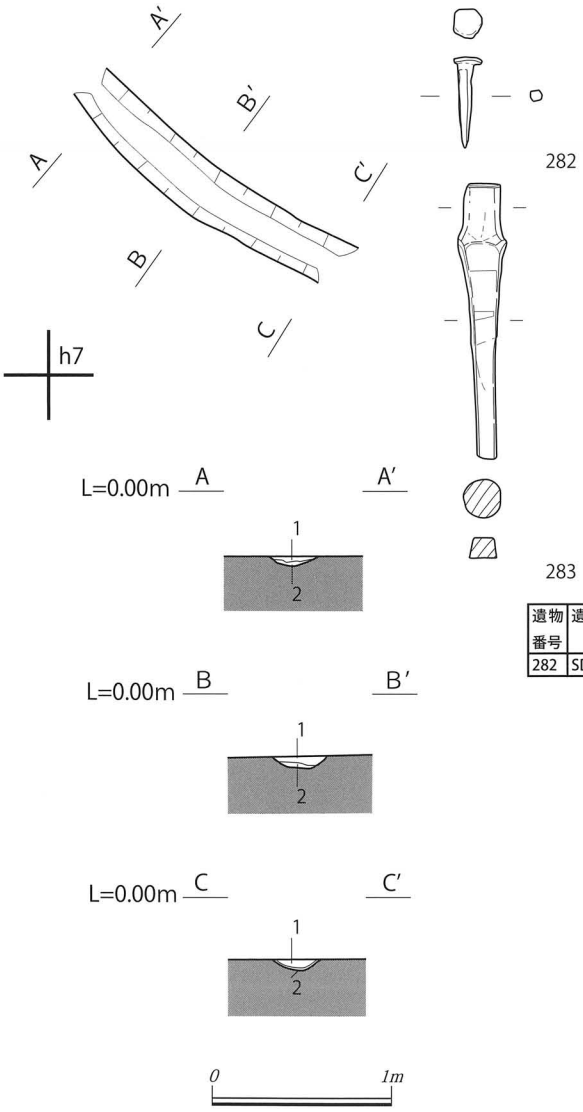
PL. 161　SD1008 遺物出土状況

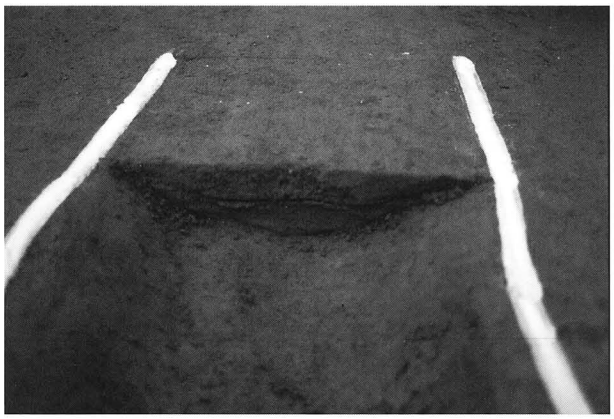


第 68 図　SD1008 遺構図、出土遺物図

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
281	SD1008	陶器	皿	12.0	2.5		5.0	内：7.5Y4/3 暗オリーブ 外：7.5Y4/3 暗オリーブ 断：N6/0 灰	施釉				肥前系	内面 4 方向砂目あり	406

第 33 表　SD1008 出土陶磁器類観察表





P L．162　SD1009 土層堆積状況

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部 1	頭部 2	重量	備考	実測番号
282	SD1009	船釘	2.4		0.3	0.8	0.8	1.7		444

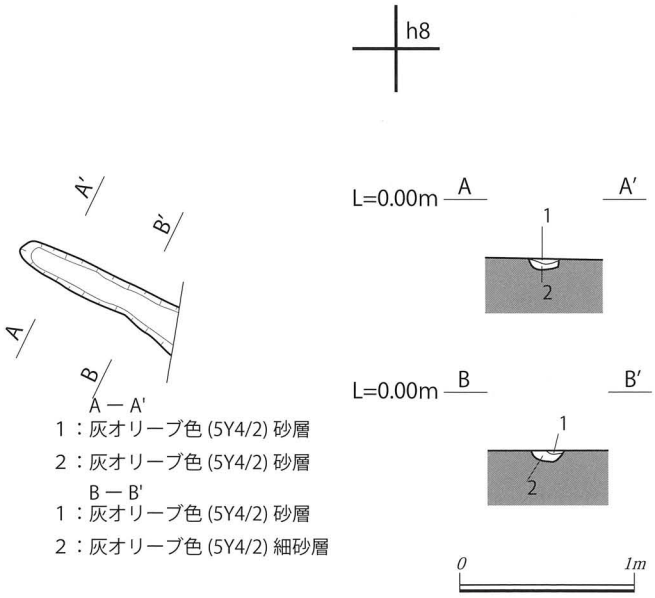
第 34 表　SD1009 出土金属製品観察表

遺物番号	遺構	器種	長さ	幅	厚み	備考	実測番号
283	SD1009	船釘	11.0	1.9	0.8	円柱部厚 1.50	605

第 35 表　SD1009 出土木製品観察表

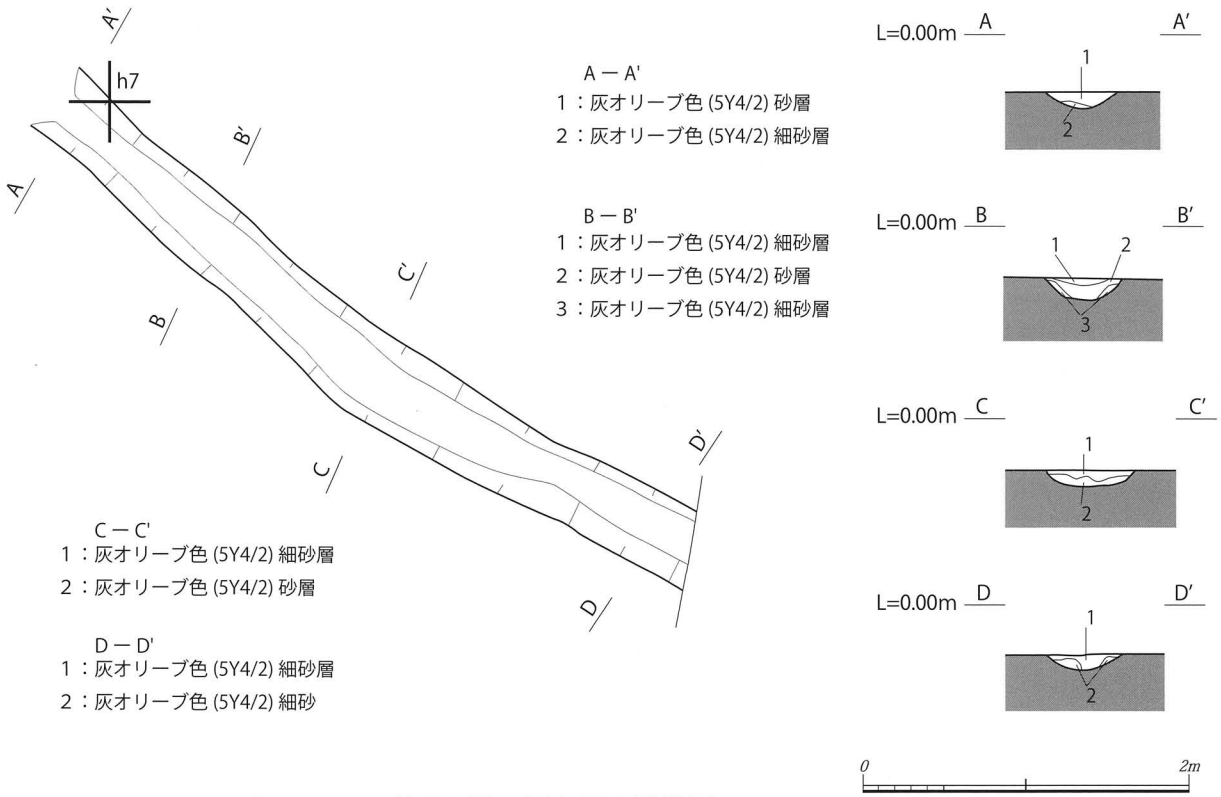
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層

第 69 図　SD1009 遺構図、出土遺物図

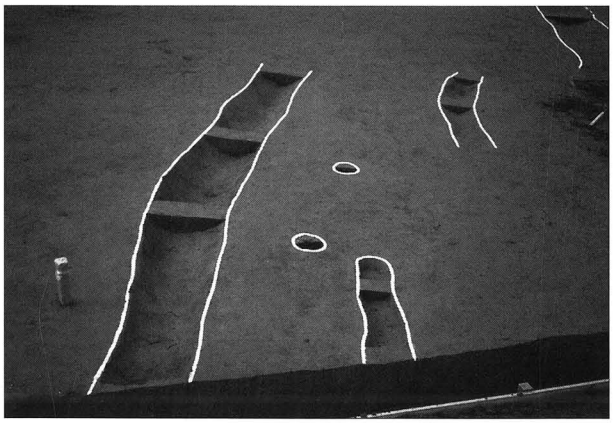


A ― A'
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂層
B ― B'
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 細砂層

第 70 図　SD1010 遺構図



第 71 図　SD1011 遺構図



P L．163　SD1011 完掘状況

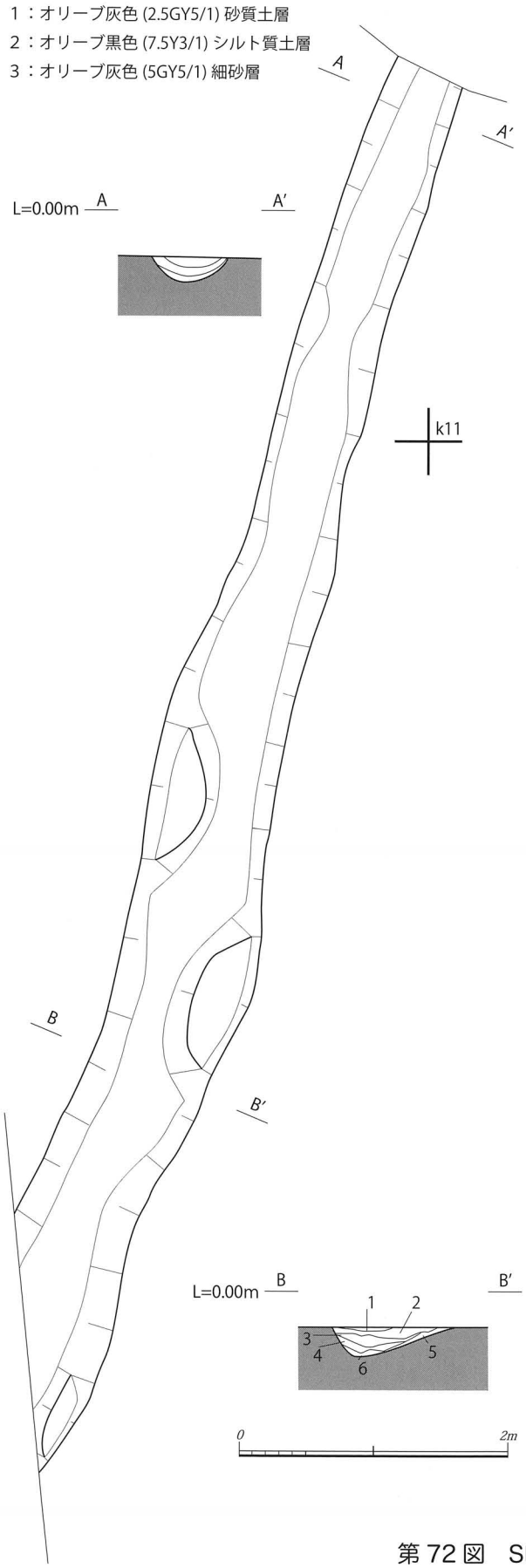
P L．164　SD1011 土層堆積状況

している。唐津系。16 世紀末。286 は陶器の皿である。見込みには砂目が残る。削り出し高台には三角形の刻みが施されている。唐津系。16 世紀前半。287 は碁石である。

14 号溝状遺構 SD1014（第 74 図）

3 区、ｉ 10，ｉ 11 グリッド付近にて検出。検出長 5.5 m、幅 1 m、深度 22㎝を測り、南南西から北北東方向に延びる溝状遺構である。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層や灰色砂質土層である。SD10013 の延長線上にあり、SD1012 と平行して掘削されている。

1 号土坑 SK1001（第 75 図）



1：オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質土層
2：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
3：黒色 (7.5Y2/1) 粘土層
4：灰オリーブ色 (5Y5/3) シルト質土層
5：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層
6：オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘土層

第 72 図　SD1012 遺構図

2 区、r 10 グリッドにて検出。SD1005 に削平される。残存長軸 1.1 m、残存短軸 0.5 m、深度 10㎝を測る土坑である。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層である。

2 号土坑 SK1002（第 76 図）

2 区、o 10 グリッドにて検出。長軸 1.26 m、短軸 0.62 m、深度 4㎝を測る、浅い楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。遺構検出面より上層において貝層が検出された。

3 号土坑 SK1003（第 77 図）

2 区、n 11 グリッド付近にて検出。SK1004 や SK1005 に切られる。残存長軸 2.4 m、短軸 2.4 m、深度 5㎝を測る、浅い不整方形を呈する土坑である。遺構覆土は灰オリーブ色砂質土層である。

4 号土坑 SK1005（第 78 図）

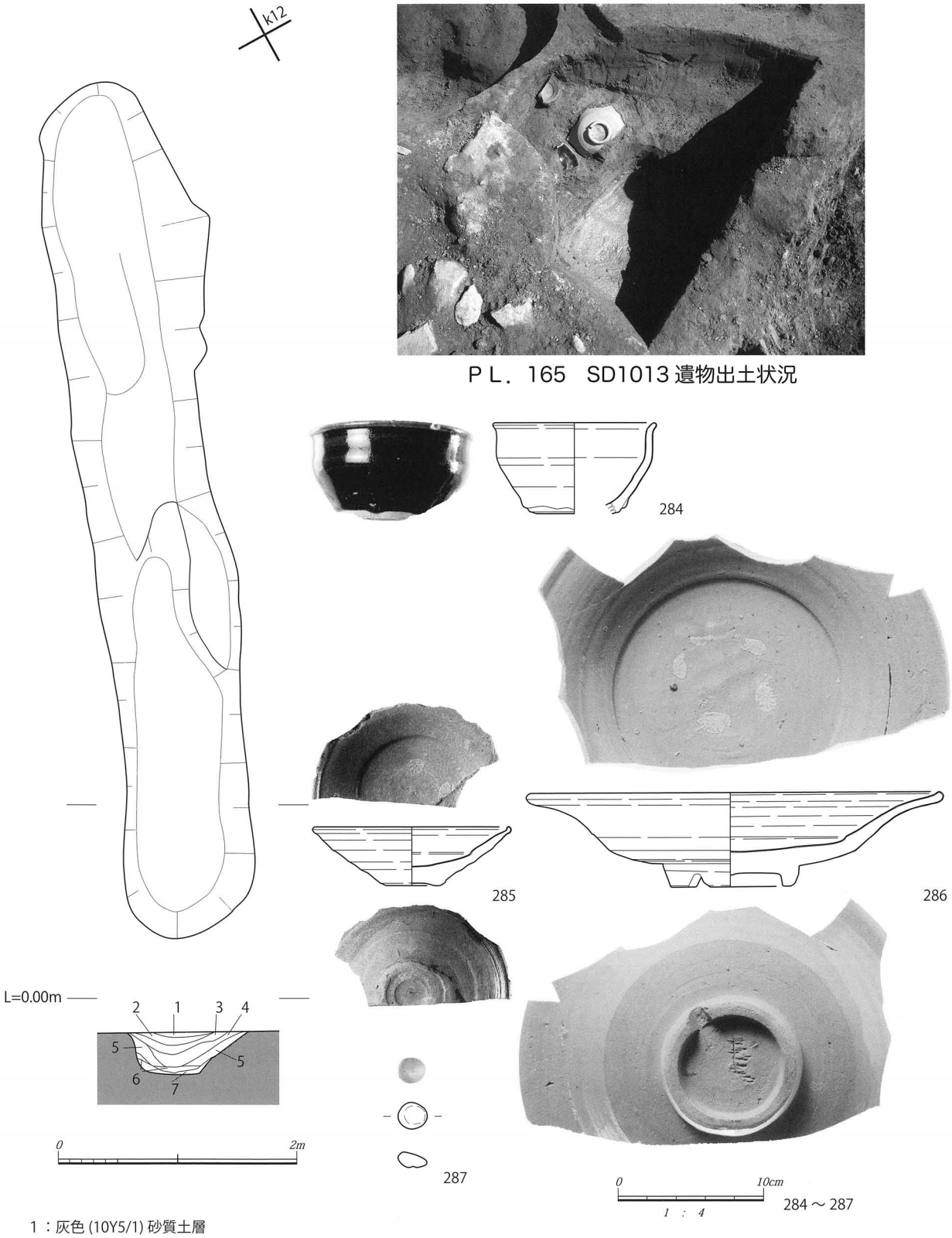
2 区、n 11 グリッドにて検出。SK1003 を切る。残存長軸 1.3 m、幅 0.56 m、深度 2 ㎝を測り、方形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

5 号土坑 SK1005（第 79 図）

2 区、o 11 グリッドにて検出。SK1003 を切る。残存長軸 2.24 m、幅 0.72 m、深度 8 ㎝を測り、不整円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

6 号土坑 SK1006（第 80 図）

3 区、l 11 グリッドにて検出。北側は調査区外へと延びる。残存長軸 2.18 m、幅 1.44 m、深度



PL. 165　SD1013 遺物出土状況

1：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
2：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
3：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
4：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
5：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
6：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
7：黒色 (7.5Y2/1) 粘土層

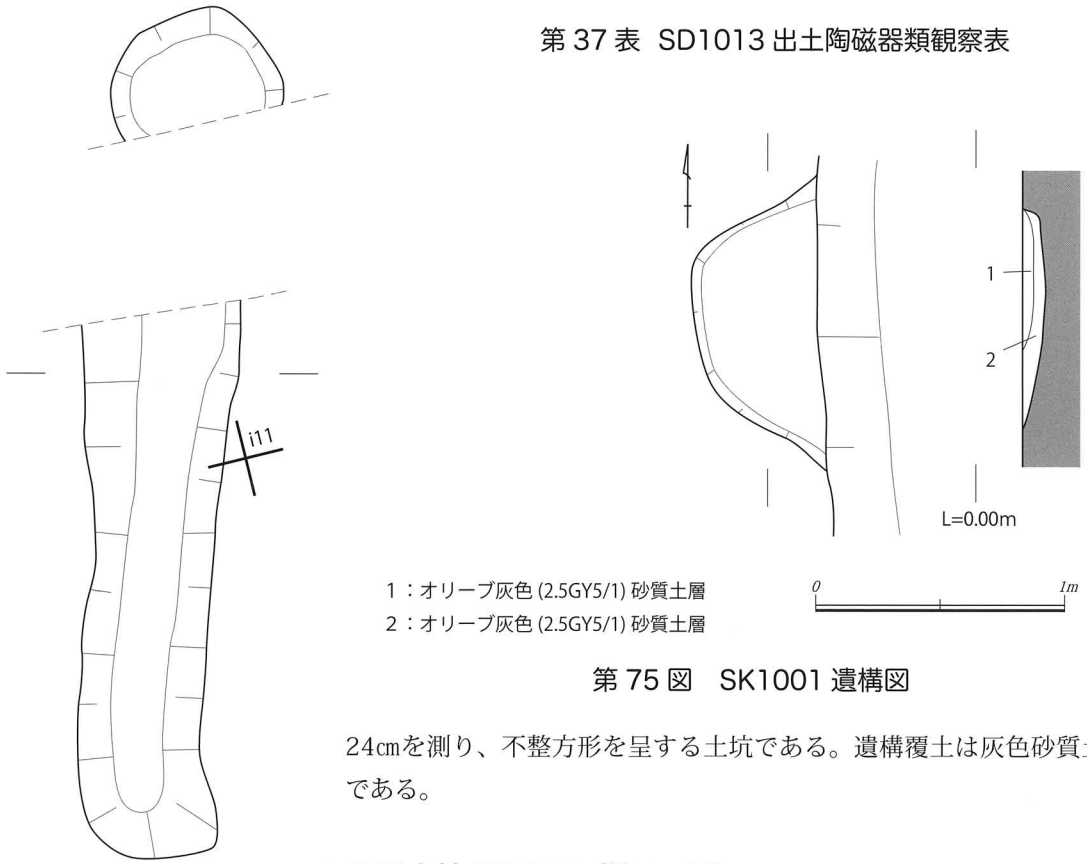
第 73 図　SD1013 遺構図、出土遺物図

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	重量	備考	実測番号
287	SD1013	碁石	1.80	2.00	1.10	4.80	白　石英	118

第 36 表　SD1013 出土石製品観察表

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
284	SD1013	陶器	碗	11.2				内：10YR4/4 外：10YR4/4 断：5Y8/1 灰白	施釉				瀬戸系		80
285	SD1013	陶器	皿	(13.2)	4.0	(13.6)	3.6	内：2.5Y6/2 灰黄 外：10YR7/3 にぶい黄橙 断：10YR7/3 にぶい黄橙	施釉				唐津？	内面砂目あり 口縁端部欠損 後灯明皿に転用、煤付着 Ⅰ－1期	101
286	SD1013	陶器	皿	27.9	9.4		8.1	内：5Y7/2 灰白 外：7.6YR6/3 にぶい褐 断：10YR7/3 にぶい黄橙	施釉				肥前系	内面砂目有 高台に切込有	78

第 37 表　SD1013 出土陶磁器類観察表



1：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層
2：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層

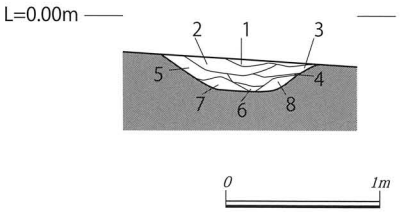
第 75 図　SK1001 遺構図

24㎝を測り、不整方形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

7 号土坑 SK1007（第 81 図）

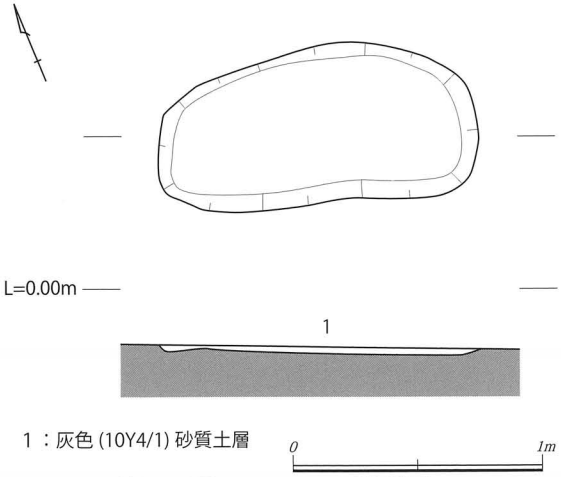
3 区、k 11 グリッドにて検出。北側は調査区外へと拡がる。残存長軸 1.2 m、幅 1.41 m、深度 46㎝を測り、楕円形を呈する土坑である。遺構覆土はオリーブ黒色砂質土層、灰色砂質土層、黒色砂質土層である。貝層中より陶磁器類が出土した。

288 は陶器の碗である。前面に緑釉が施されている。底部には砂目が残る。289 は陶器の碗である。体部下半まで緑釉が施されている。289 は陶器の碗である。外面は無文で、内面は草木で構成されている。291 は陶器の皿である。肥前系か。292 は陶器の皿である。見込みと高台に砂目痕が残る。内外面に貫入が観察される。肥前系か。293 土師器の皿である。294 は土師質土器の杯である。底部は回転糸切りである。295 は土師質土器の杯である。底部は回転糸切りである。296 は磁器の碗である。297 は土師質土器の羽釜である。298 は瓦質土器

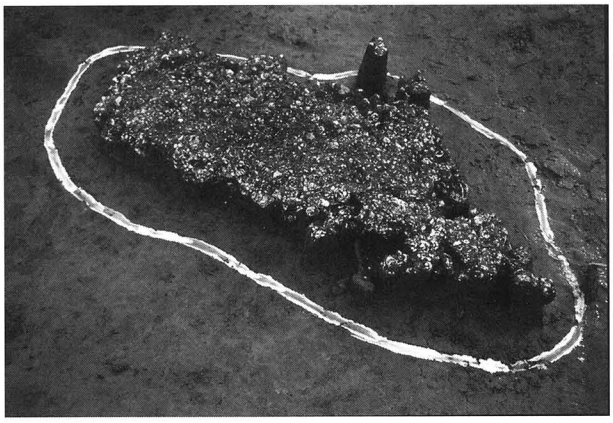


1：オリーブ灰色 (5GY5/1) シルト質土層
2：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) シルト質土層
3：灰色 (10Y5/1) 砂質土層
4：灰色 (10Y5/1) シルト質土層
5：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層
6：オリーブ灰色 (5GY5/1) 細砂層
7：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層
8：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層　地山

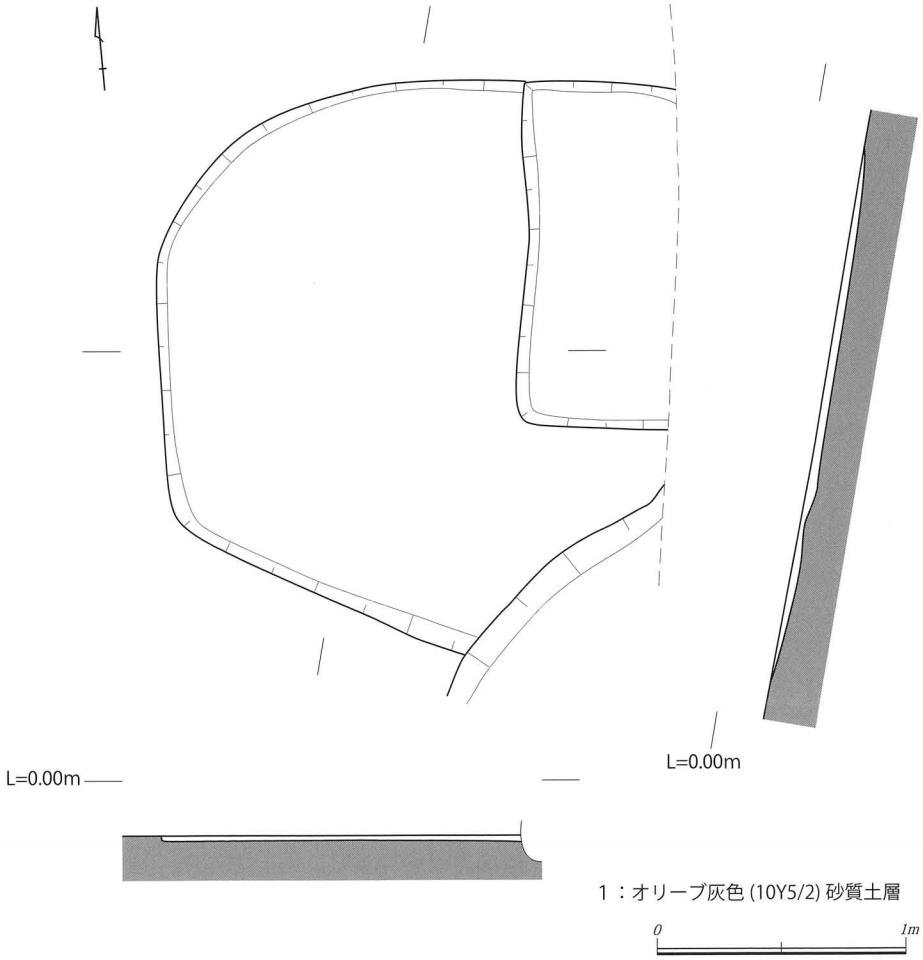
第 74 図　SD1014 遺構図



第 76 図　SK1002 遺構図

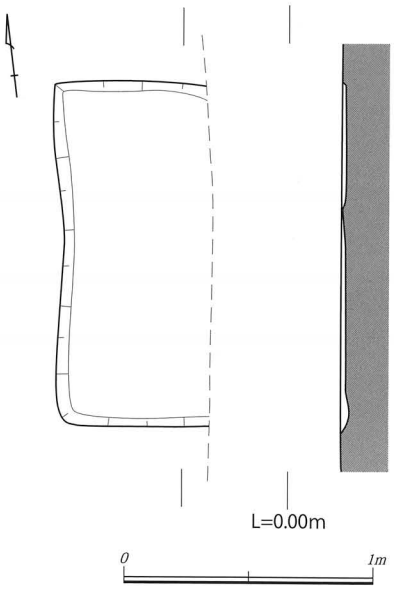


P L．166　SK1002 遺物出土状況



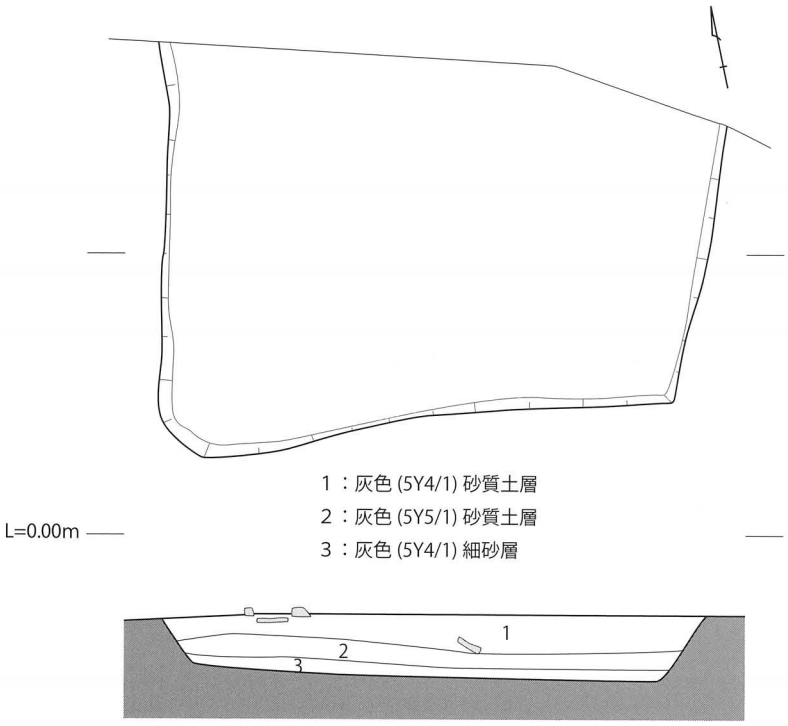
第 77 図　SK1003 遺構図

の焜炉である。3 足焜炉か。299 は鈴形土製品である。300 は碁石である。両面とも丁寧に研磨されている。301 は土錘である。

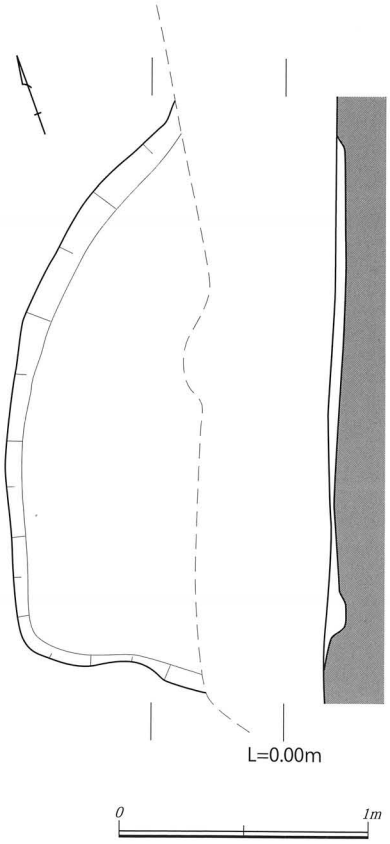


1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 78 図　SK1004 遺構図



第 80 図　SK1006 遺構図



1：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層

第 79 図　SK1005 遺構図

8 号土坑 SK1008（第 83 図）

３区、ｋ 12 グリッド付近にて検出。北側は調査区外に延びる。残存長軸 0.82 m、幅 0.7 m、深度 10㎝を測り、不整長方形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。中央部やや北寄りの小穴より花崗岩が出土した。礎石の可能性があるが、周辺の柱穴群の配置から掘立柱建物は想定されない。

9 号土坑 SK1009（第 84 図）

３区、ｋ 11 グリッド付近にて検出。西側を撹乱により削平されている。残存長軸 0.7 m、幅 0.62 m、深度 6 ㎝を測り、楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層、灰オリーブ色砂質土層である。

528 は磁器の瓶である。

10 号土坑 SK1010（第 85 図）

３区、ｊ 10 グリッド付近にて検出。西側を SK1009 に切られている。残存長軸 1.22 m、幅 0.3 m、深度 10㎝を測り、長楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

11 号土坑 SK1011（第 86 図）

３区、ｊ 11 グリッドにて検出。残存長軸 1.5 m、幅 0.78 m、

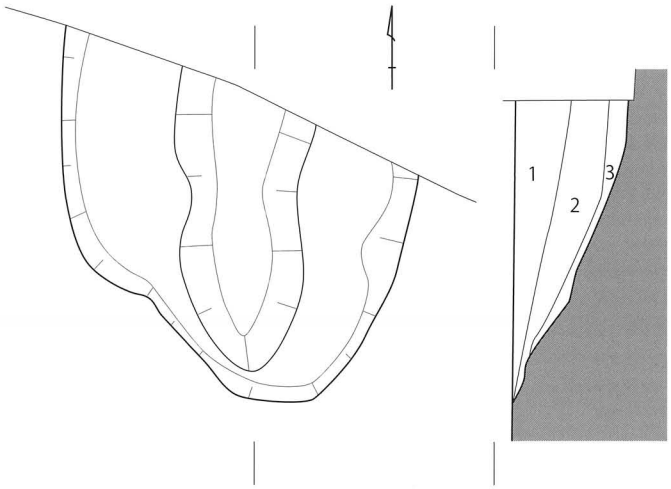
深度８㎝を測り、不整長方形を呈する土坑である。遺構覆土はオリーブ黒色砂質土層、灰色砂質土層である。

12 号土坑 SK1012（第 87 図）

３区、j 10 グリッドにて検出。残存長軸 1.23 m、幅 0.31 m、深度７㎝を測り、長楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

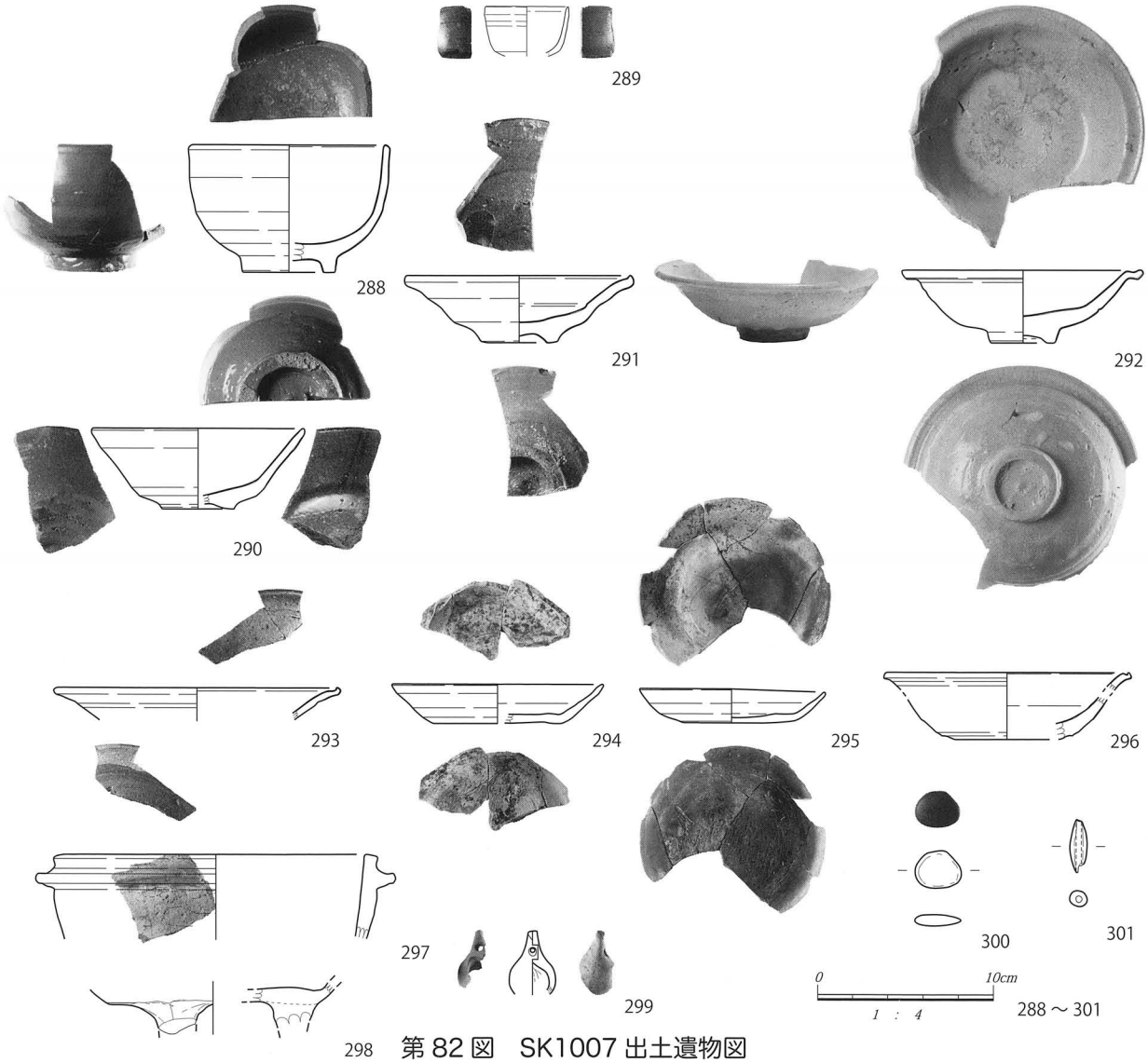
13 号土坑 SK1013（第 88 図）

３区、j 11 グリッドにて検出。西側を撹乱に、南側を SK1014 に削平されている。残存長軸 0.88 m、幅 0.83 m、深度８㎝を測り、不整長



1：オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 砂質土層
2：灰色 (7.5Y4/1) 砂質土層
3：黒色 (7.5Y2/1) 砂質土層

第 81 図　SK1007 遺構図



第 82 図　SK1007 出土遺物図

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
288	SK1007	陶器	碗	(10.9)	(7.2)		(5.2)	内：5Y6/1 灰 外：5Y6/1 灰 断：5 Y 7/1 灰白	緑釉				肥前系	外面砂目	114
289	SK1007	陶器	碗	(9.4)	(5.7)	(9.7)		内：7.5Y6/2 灰オリーブ 外：7.5Y6/2 灰オリーブ 断：7.5 Y R5/3 にぶい褐	緑釉				肥前系		115
290	SK1007	陶器	碗	(12.1)	(4.6)		(4.1)	内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：2.5Y5/2 暗灰黄 断：7.5YR7/4 にぶい橙	絵付け、施釉		草木		肥前系		128
291	SK1007	陶器	皿	(12.7)	(3.8)		(4.4)	内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄 断：7.5Y7/4	施釉				肥前系		129
292	SK1007	陶器	皿	(13.2)	4.1		3.6	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：5Y6/2 灰オリーブ 断：2.5Y7/3 浅黄	施釉				肥前系	内外面に貫入あり 見込み、高台に砂目痕あり	79
293	SK1007	磁器	皿	(15.8)	(1.8)	(16.2)		内：5Y7/1 灰白 外：2.5Y7/3 浅黄 断：2.5 Y 6.2 灰黄	施釉						125
294	SK1007	土師質土器	杯	(11.8)	(2.2)	(12.0)	(7.2)	内：10YR8/2 灰白 外：10YR8/2 灰白 断：10YR8/2 灰白		ヨコナデ				底部回転糸切り	126
295	SK1007	土師質土器	杯	10.4	2.0	10.5	4.9	内：10YR8/2 灰白 外：10TR8/3 浅黄橙 断：10YR8/2 灰白		ヨコナデ	ユビナデ			底部回転糸切り	124
296	SK1007	磁器	碗					内：5 Y 6/2 灰オリーブ 外：10YR6/3 にぶい黄橙 断：2.5Y6/2 灰黄	施釉				肥前系		130
297	SK1007	土師器	羽釜？	(17.1)	(4.8)	(20.4)		内：5Y7/1 灰白 外：N 8/0 灰白 断：5Y5/1 灰		ヨコナデ ユビオサエ →ユビナデ	ナデ				113
298	SK1007	瓦質土器	焜炉		(3.0)		(12.0)	内：5Y7/1 灰白 外：5 Y 7/1 灰 断：		回転ナデ 脚部貼り付け	回転ナデ				127
299	SK1007	土製品	土鈴		(3.6)	(2.6)		内：2.5Y6/1 黄灰 外：10YR7/3 にぶい黄橙 断：2.5Y6/1 黄灰		鈕ユビナデ →絞り痕 体部ユビナデ	鈕絞り痕 体部ユビナデ				159
301	SK1007	土師質	土錘	孔径 0.4	全長 3.0	幅 1.0	厚さ 0.9	内：5YR6/4 にぶい橙 外：5YR6/4 にぶい橙 断：2.5YR6/6 橙							161

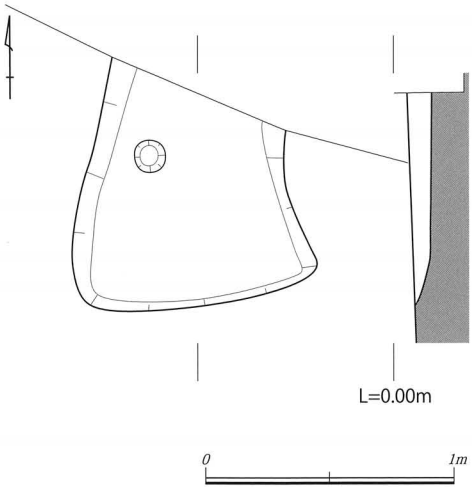
第 38 表　SK1007 出土陶磁器類観察表

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	重量	備考	実測番号
300	SK1007	碁石	2.10	2.60	0.70	5.00	黒　頁岩	117

第 39 表　SK1007 出土石製品観察表

ＰＬ．167　SK1007 遺物出土状況

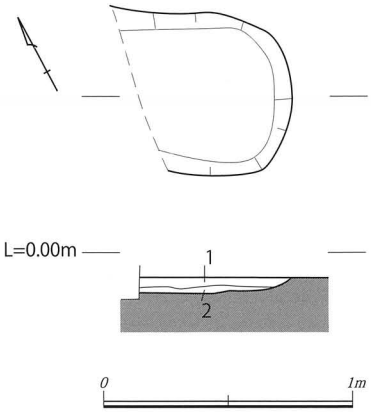
ＰＬ．168　SK1007 土層堆積状況



1：灰色 (5Y4/1) 砂質土層

第 83 図　SK1008 遺構図

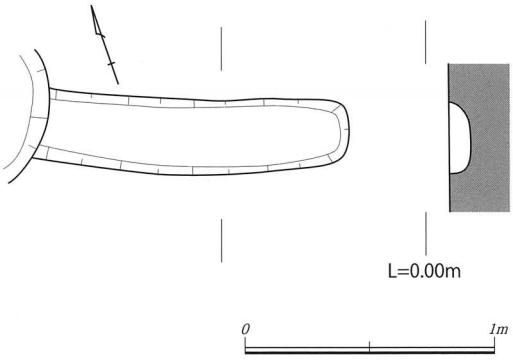
P L．169　SK1008 完掘状況



528

1：灰色 (5Y4/1) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土層

第 84 図　SK1009 遺構図、出土遺物図



1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 85 図　SK1010 遺構図

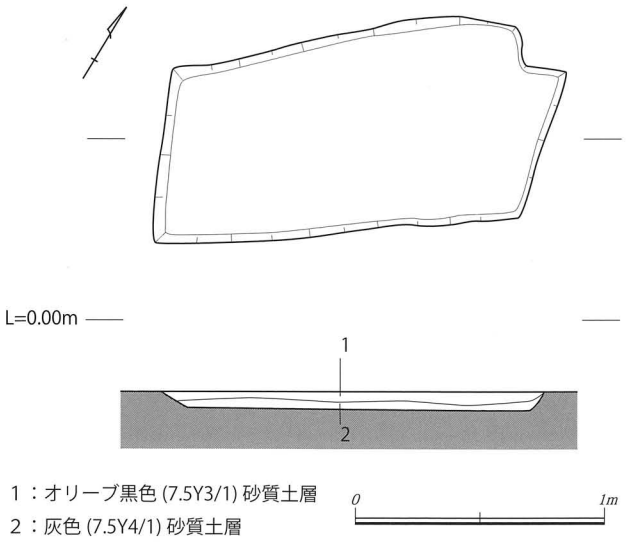
遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色		絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
528	SK1009	磁器	瓶	2.6	(4.6)			内： 外： 断：	W,9.5,0 白 W,9.5,0 白 16 g B,6.5,3S あさいグレイみの青	施釉						134

第 40 表　SK1009 出土陶磁器類観察表

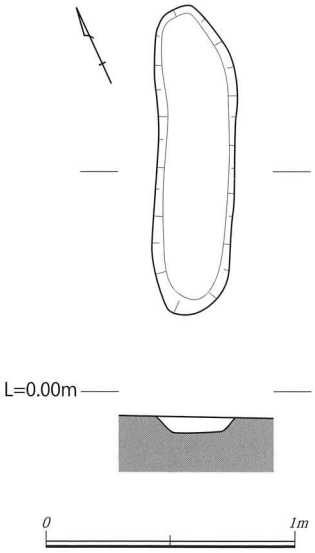
方形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

14 号土坑 SK1014（第 89 図）

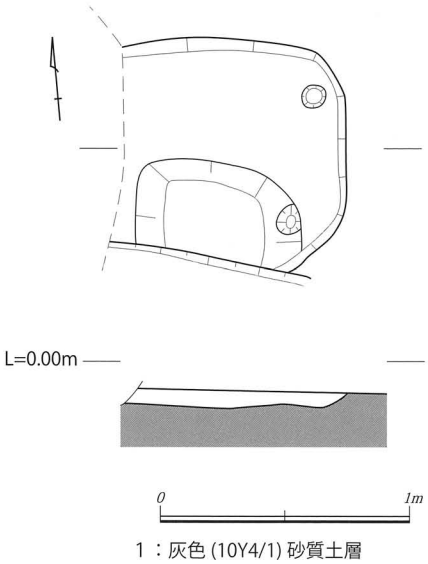
3 区、j 11 グリッドにて検出。西側を撹乱に削平されている。残存長軸 0.84 m、幅 0.26 m、深度 8 ㎝を測り、長方形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。



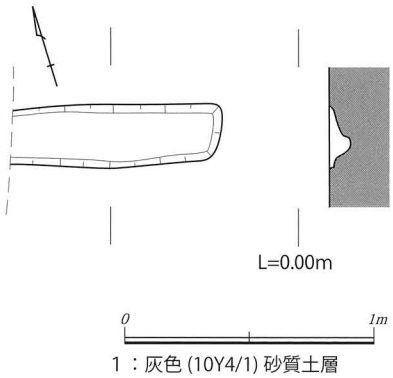
第 86 図　SK1011 遺構図



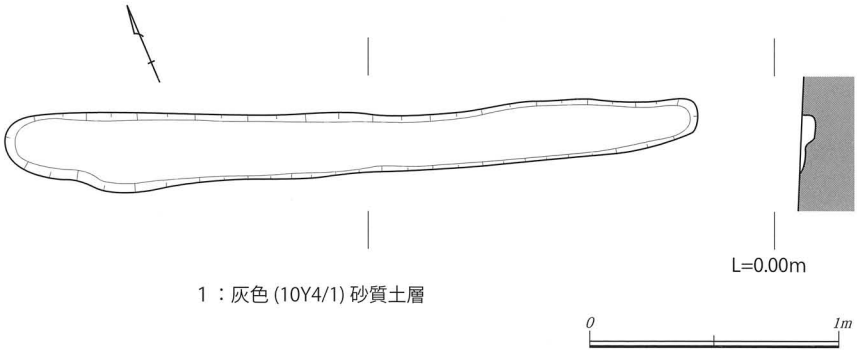
第 87 図　SK1012 遺構図



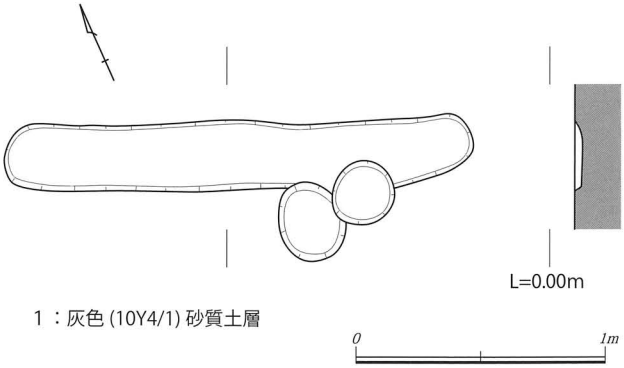
第 88 図　SK1013 遺構図



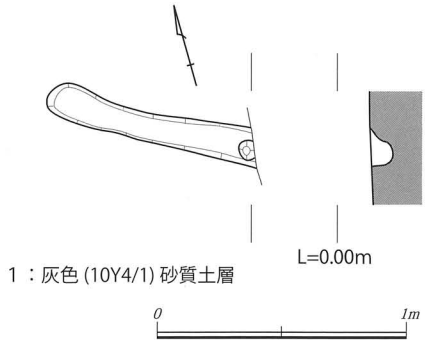
第 89 図　SK1014 遺構図



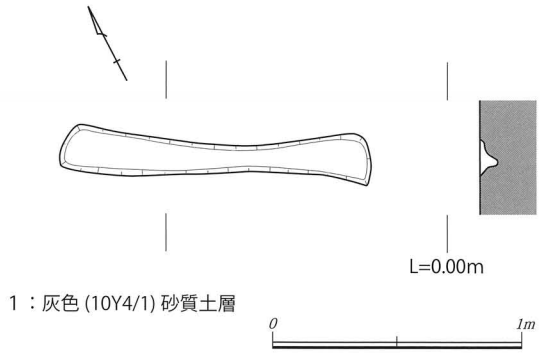
第 90 図　SK1015 遺構図



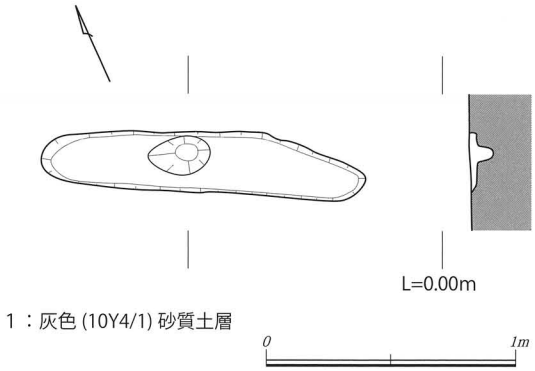
第 91 図　SK1016 遺構図



第 92 図　SK1017 遺構図



第 93 図　SK1018 遺構図



第 94 図　SK1019 遺構図

15 号土坑 SK1015（第 90 図）

3 区、ｉ 11 グリッド付近にて検出。残存長軸 2.74 m、幅 0.24 m、深度 7 ㎝を測り、溝状の長楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

16 号土坑（第 91 図）

3 区、ｉ 11 グリッドにて検出。残存長軸 1.86 m、幅 0.28 m、深度 4 ㎝を測り、溝状の長楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

17 号土坑 SK1017（第 92 図）

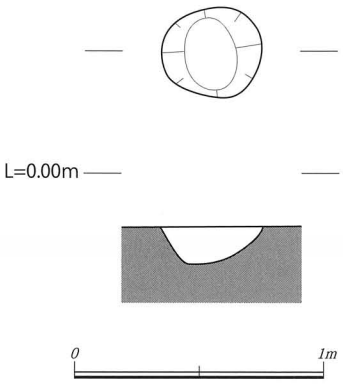
2 区、ｉ 12 グリッドにて検出。東側は調査区外へと延びる。残存長軸 0.86 m、幅 0.15 m、深度 9 ㎝を測り、溝状の長楕円形を呈する土坑である。遺構中央部にて直径 8㎝の小穴が検出された。遺構覆土は灰色砂質土層である。

18 号土坑 SK1018（第 93 図）

3 区、ｉ 11 グリッドにて検出。残存長軸 1.22 m、幅 0.13 m、深度 7 ㎝を測り、溝状の長楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は灰色砂質土層である。

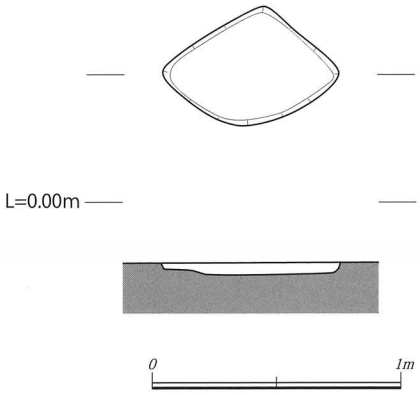
19 号土坑 SK1019（第 94 図）

3 区、ｉ 11 グリッドにて検出。残存長軸 1.28 m、幅 0.25 m、深度 10㎝を測り、溝状の長楕円形を呈す



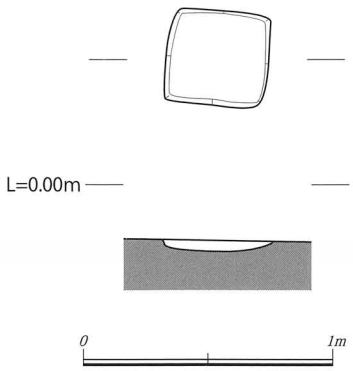
1：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層

第 95 図　SP1001 遺構図



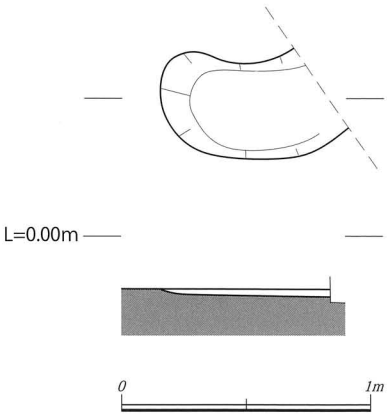
1：暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 砂質土層

第 96 図　SP1002 遺構図



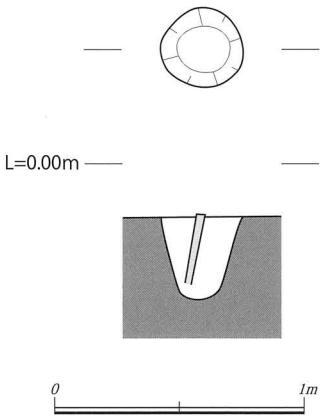
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 97 図　SP1003 遺構図



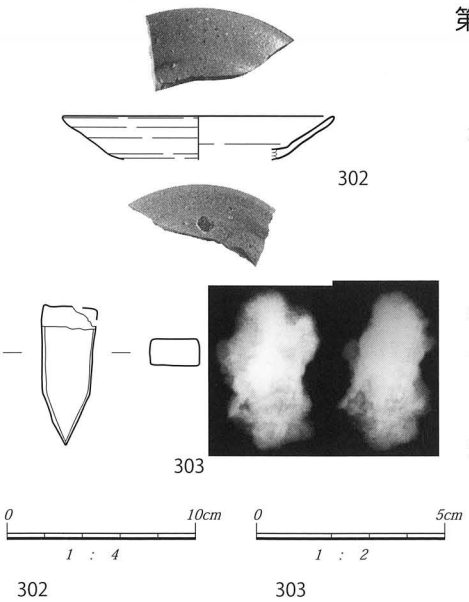
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 99 図　SP1005 遺構図



1：緑灰色 (7.5GY5/1) 砂質土層

第 100 図　SP1006 遺構図



第 98 図　SP1004 遺構図、出土遺物図

る土坑である。遺構中央部にて直径 14㎝の小穴が検出された。遺構覆土は灰色砂質土層である。

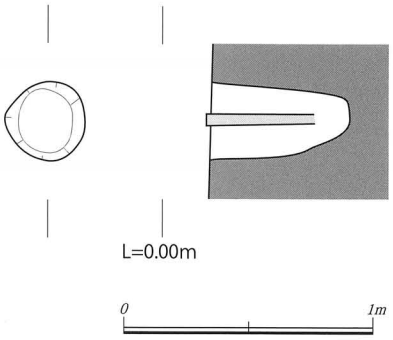
1 ～ 44 号柱穴・小穴 SP1001 ～ 1044（第 95 ～ 136 図）

2，3 区を中心に 44 基の柱穴・小穴が検出されたが、掘立柱建物を構成する配置は確認されなかった。遺構深度も 20㎝以下の非常に浅い掘削であり、建物を構成する柱穴とは考え難い。SP1006，1007，1008 より杭が検出された。調査担当者により柱穴として掘削されているが、杭打設よる土色変化と捉えるべきである。

SP1004，1013，1036 より遺物が出土した。SP1004 出土の

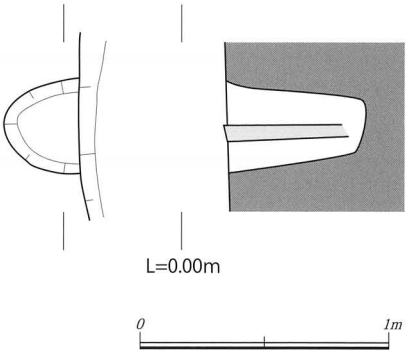
遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	頭部 1	頭部 2	重量	備考	実測番号
303	SP1004	船釘	3.7	1.5	0.7			25.7		143

第 41 表　SP1004 出土金属製品観察表



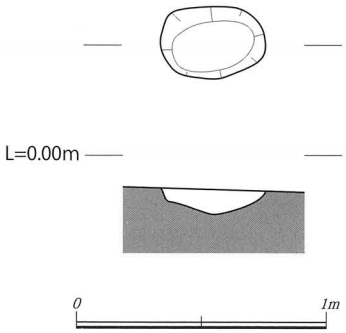
1：緑灰色 (7.5GY5/1) 砂質土層

第 101 図　SP1007 遺構図



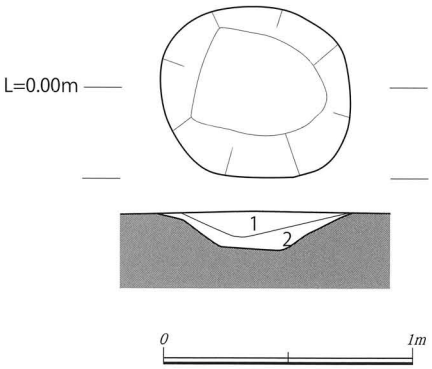
1：緑灰色 (7.5GY5/1) 砂質土層

第 102 図　SP1008 遺構図



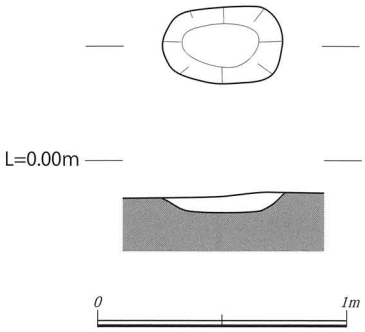
1：オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 砂質土層

第 103 図　SP1009 遺構図



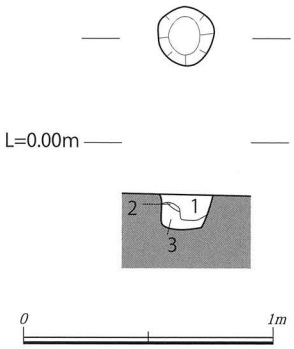
1：暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 砂質土層
2：緑灰色 (7.5GY5/1) 砂質土層

第 104 図　SP1010 遺構図



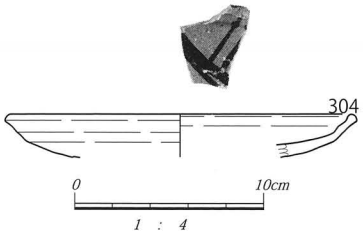
1：オリーブ灰色 (5GY5/1) 砂質土層

第 105 図　SP1011 遺構図



1：オリーブ黄色 (5Y6/4) 砂質土層
2：オリーブ黄色 (5Y6/4) 砂質土層
3：オリーブ色 (5Y5/4) 砂質土層

302 は肥前系磁器の皿である。唐津。303 は船釘である。SP1013 出土の 304 は陶器の皿である。外面は無文で、内面は草木で構成される。SP1036 出土の 529 は船釘である。



第 106 図　SP1013 遺構図、出土遺物図

1 号性格不明遺構 SX1001（第 137 図）

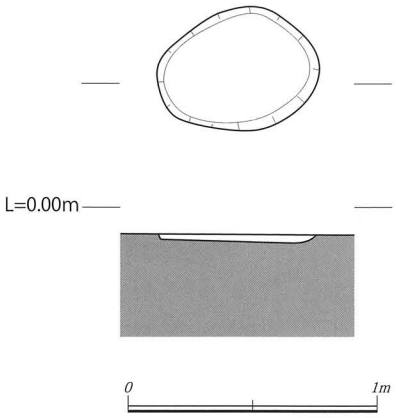
3 区、ｉ 12 グリッド付近にて検出。東側は調査区外へと拡がる。残存長軸 4.46 m、幅 2 m、深度 10㎝を測り、不整円形を呈する。遺構覆土はオリー

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
302	SP1004	磁器	皿	(14.3)				内：7.5Y7/1 灰白 外：7.5Y7/1 灰白 断：N7/0 灰白	施釉				唐津		357

第 42 表　SP1004 出土陶磁器類観察表

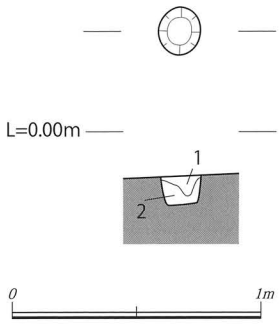
遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
304	SP1013	陶器	皿	(18.0)	(2.3)			内：7.5Y5/1 灰 外：2.5Y4/1 黄灰 断：N5/0 灰	絵付け、施釉		草木				135

第 43 表　SP1013 出土陶磁器類観察表



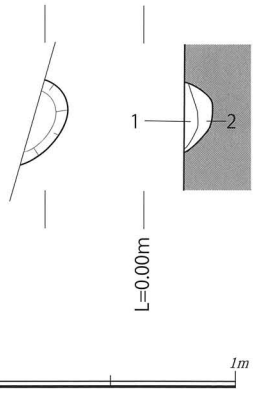
1：緑灰色 (7.5GY5/1) 砂質土層

第 107 図　SP1012 遺構図



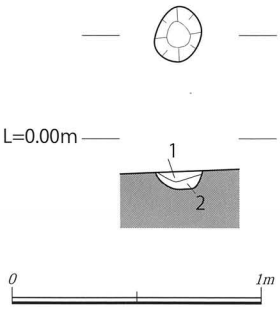
1：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層

第 108 図　SP1014 遺構図



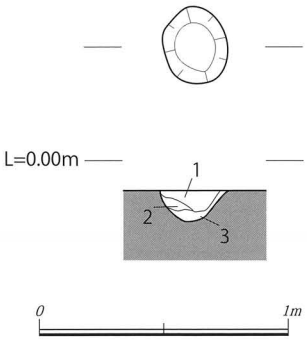
1：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層

第 109 図　SP1015 遺構図



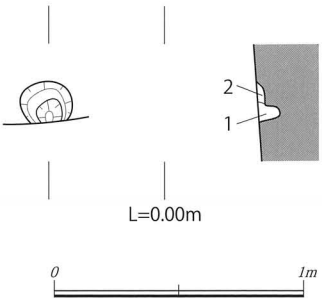
1：オリーブ黄色 (5Y6/3) シルト質土層
2：オリーブ黄色 (5Y6/3) シルト質土層

第 110 図　SP1016 遺構図



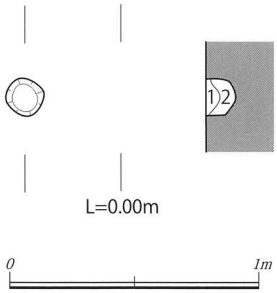
1：オリーブ黄色 (5Y6/4) 砂質土層
2：オリーブ黄色 (5Y6/4) 砂質土層
3：オリーブ色 (5Y5/4) シルト質土層

第 111 図　SP1017 遺構図



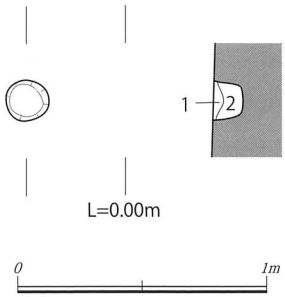
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層

第 112 図　SP1018 遺構図



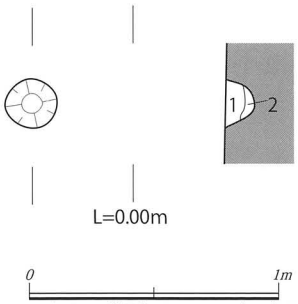
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層

第 113 図　SP1019 遺構図



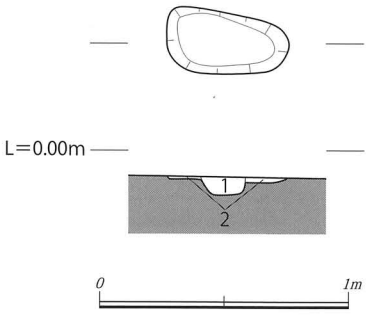
1：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層
2：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質土層

第 112 図　SP1020 遺構図



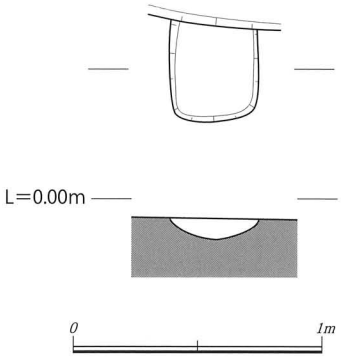
1：オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂層
2：灰色 (7.5Y4/1) 細砂層

第 113 図　SP1021 遺構図



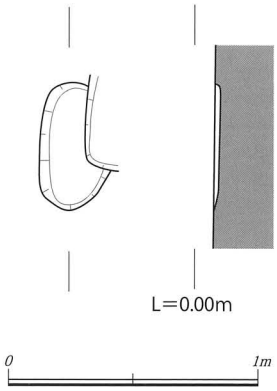
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
2：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 114 図　SP1022 遺構図



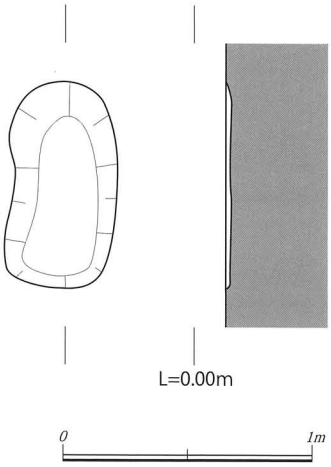
1：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層

第 115 図　SP1023 遺構図



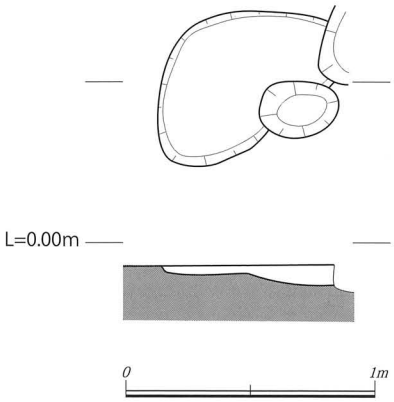
1：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層

第 116 図　SP1024 遺構図



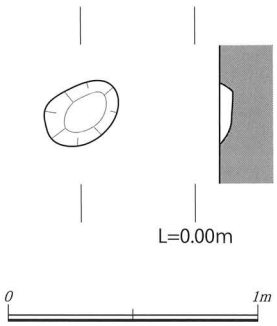
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 117 図　SP1025 遺構図



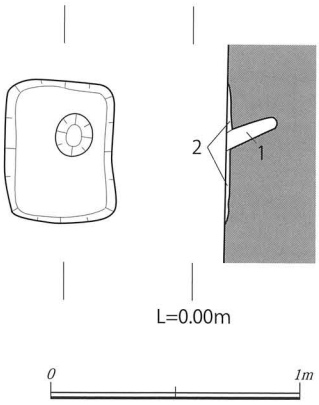
1：灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土層

第 118 図　SP1026 遺構図



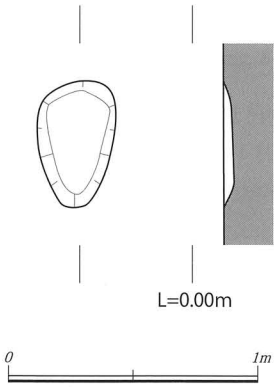
1：灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土層

第 119 図　SP1027 遺構図



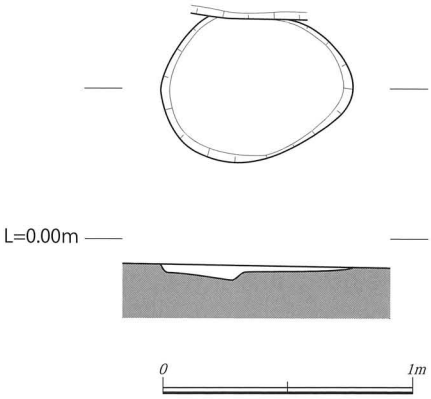
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層
2：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 120 図　SP1028 遺構図



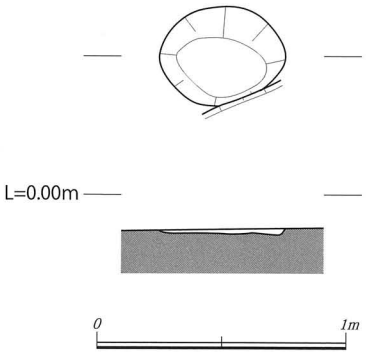
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 121 図　SP1029 遺構図



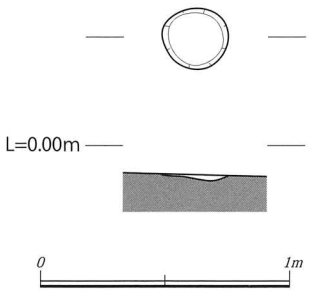
1：灰色 (7.5Y5/1) 砂質土層

第 122 図　SP1030 遺構図



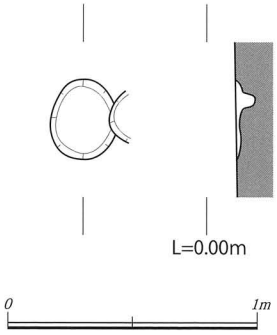
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 123 図　SP1031 遺構図



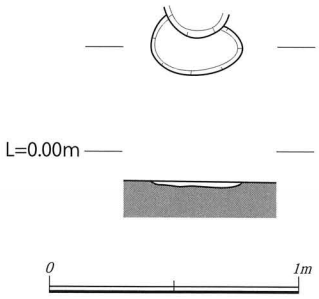
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 124 図　SP1032 遺構図



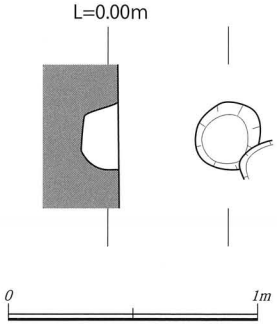
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 125 図　SP1033 遺構図



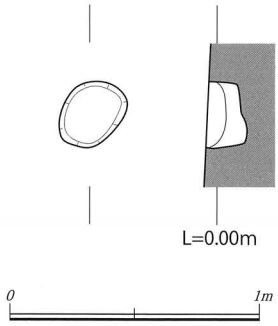
1：灰色 (10Y4/1) 砂質土層

第 126 図　SP1034 遺構図

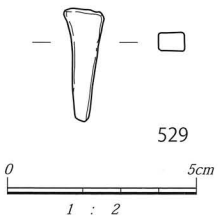


1：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土層

第 127 図　SP1035 遺構図



1：灰オリーブ色 (5Y5/3) 砂質土層
2：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土層



第 128 図　SP1036 遺構図、出土遺物図

ブ灰色砂質土層である。

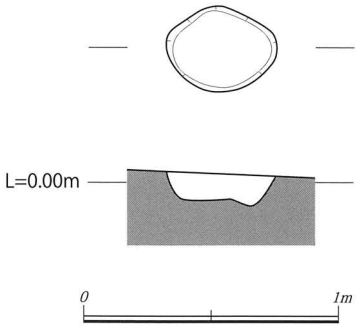
1 区包含層出土遺物（第 138 ～ 151 図）

305 は肥前系磁器の碗である。外面は丸（波？）と蔓草と横線で、内面は横線で構成される。見込みには変形字銘が施される。306 は磁器の鉢である。外面は牡丹（？）で、内面は雷文で構成される。307 は磁器の碗である。308 は肥前系磁器の碗である。外面は丸（よろけ横線）と横線で、内面は横線で構成される。見込みの絵付けは不明である。309 は陶器の碗である。310 は肥前系磁器の碗である。外面は格子文で、内面は区画で、見込みは 1 条圏線で構成される。内面は呉須の発色不良が観察される。311 は磁器の碗である。内外面とも貫入が観察される。312 は肥前系陶器の碗である。

遺物番号	遺構	器種	全長	幅	厚み	重量	備考	実測番号
529	SP1036	船釘	3.0	1.1	0.5	3.7		141

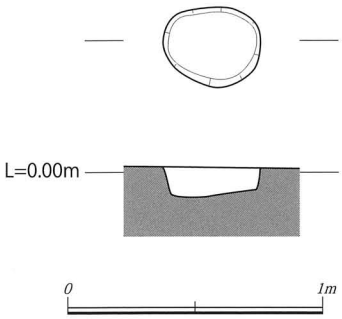
第 44 表　SP1036 出土金属製品観察表

釉薬は薄くかかるのみである。313 は肥前磁器の皿である。外面は山と竹で、内面は雷文と横線と草で、見込みは「□＋中」の銘で構成される。314 は肥前系磁器の皿である。外面は蔓草で、内面は花と櫛歯で構成される。315 土師器の皿である。外面は草木（？）で構成される。七角皿か。316 は肥前系磁器の皿である。外面は唐花連続で、内面は丸に樹木（松）と家屋と山で構成される。317 は磁器の皿である。318 は陶器の皿である。319 は磁器の皿である。外面は波で、内面は水と草木で構成される。形打ち整形か。底部は蛇の目凹形高台である。320 は陶器の皿である。見込みに砂目痕が残る。321 は肥前系陶器の皿である。見込み



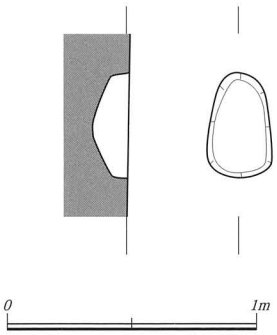
1：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

第 129 図　SP1037 遺構図



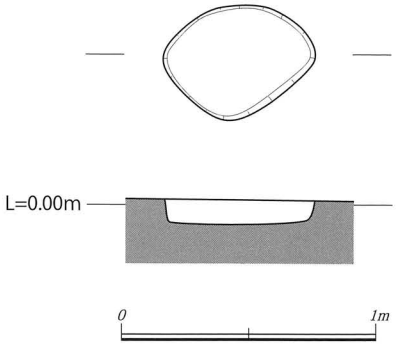
1：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

第 130 図　SP1038 遺構図



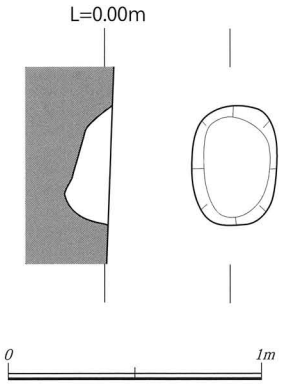
1：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

第 131 図　SP1039 遺構図



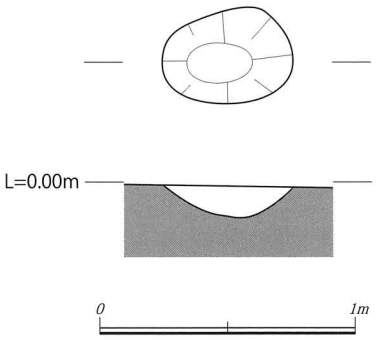
1：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

第 132 図　SP1040 遺構図



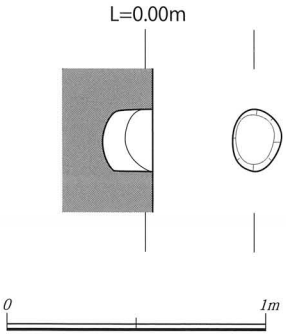
1：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

第 133 図　SP1041 遺構図



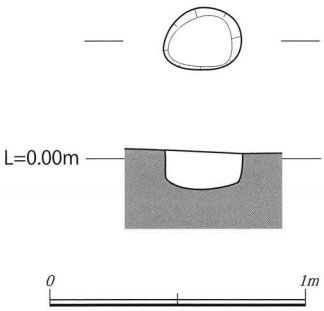
1：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

第 134 図　SP1042 遺構図



1：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土層
2：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

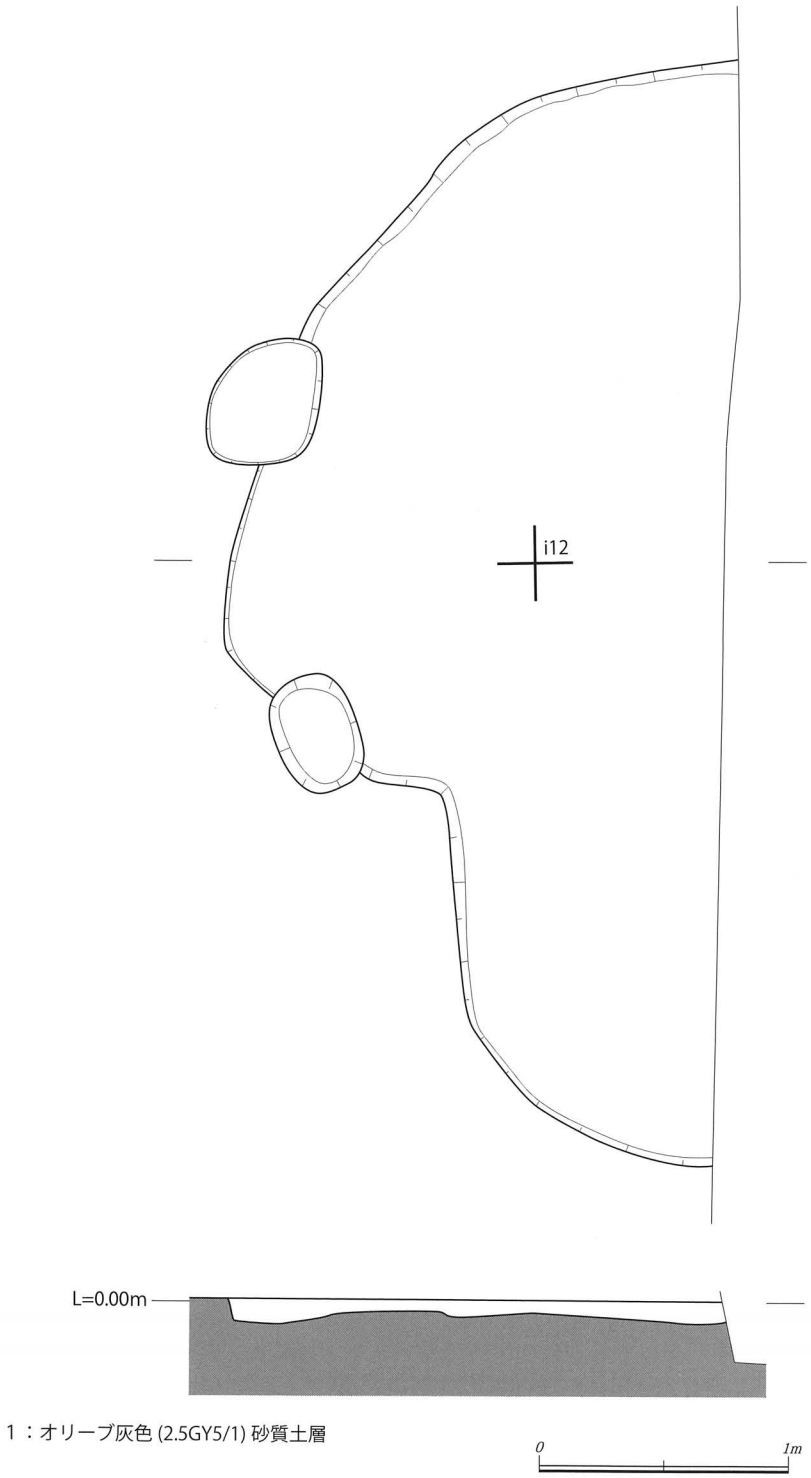
第 135 図　SP1043 遺構図



1：黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土層

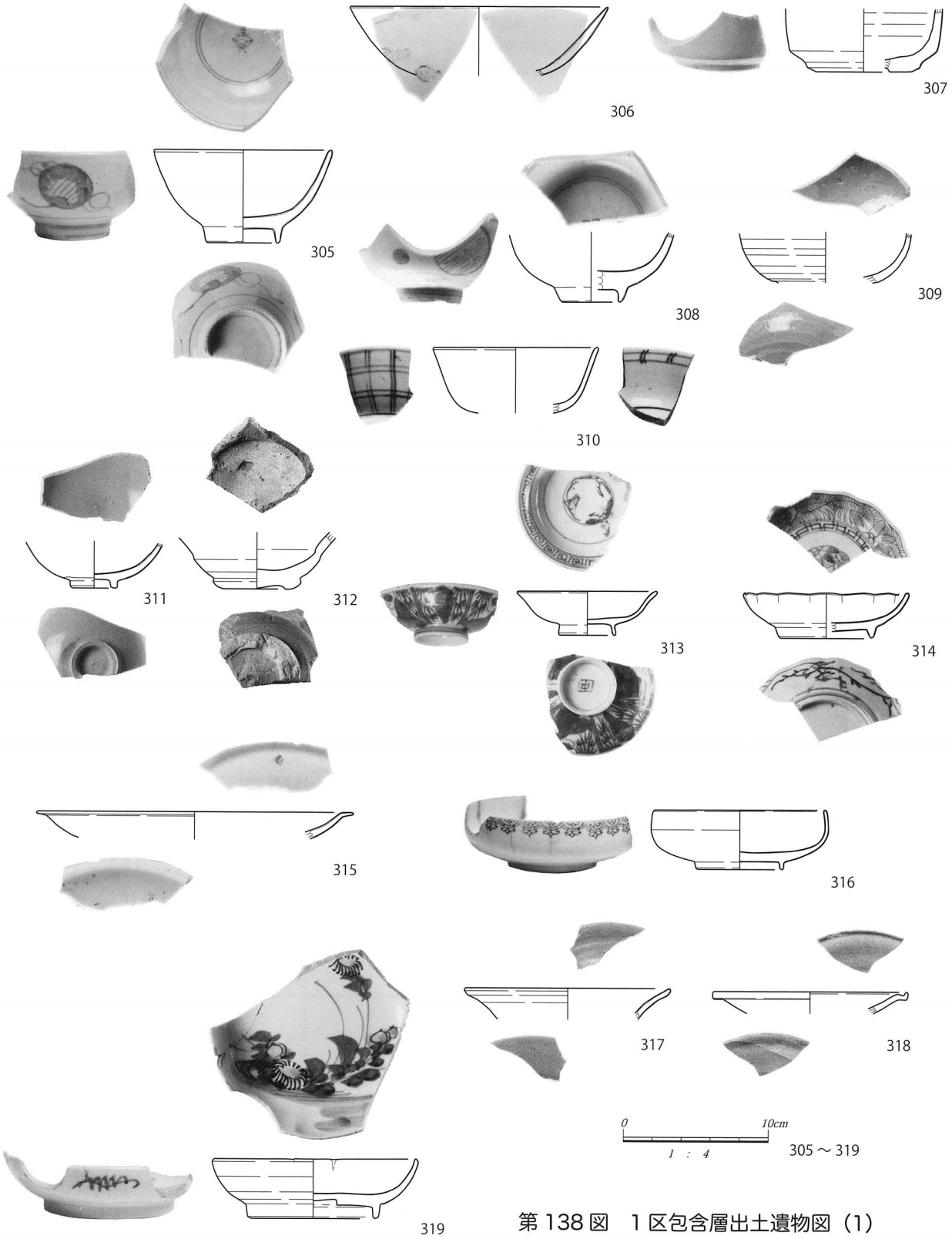
第 136 図　SP1044 遺構図

と高台に 3 方向の砂目痕が残る。322 は陶器の皿である。削り出し高台で、体部下半は露胎である。見込みには重ね焼き痕が残る。内外面共に貫入が観察される。323 は陶器の皿である。見込みと高台に 3 方向の砂目痕が残る。唐津系か。324 は陶器の皿である。瀬戸系か。325 は陶器の皿である。見込みと高台に 3 方向の砂目が残る。唐津系か。326 は瀬戸系陶器の皿である。327 は陶器の鉢である。瀬戸系。高台付近から露胎する。高台は貼り付けた後にヘラケズリを施す。高台には針目が観察される。328 は肥前系磁器の瓶である。



第 137 図　SX1001 遺構図

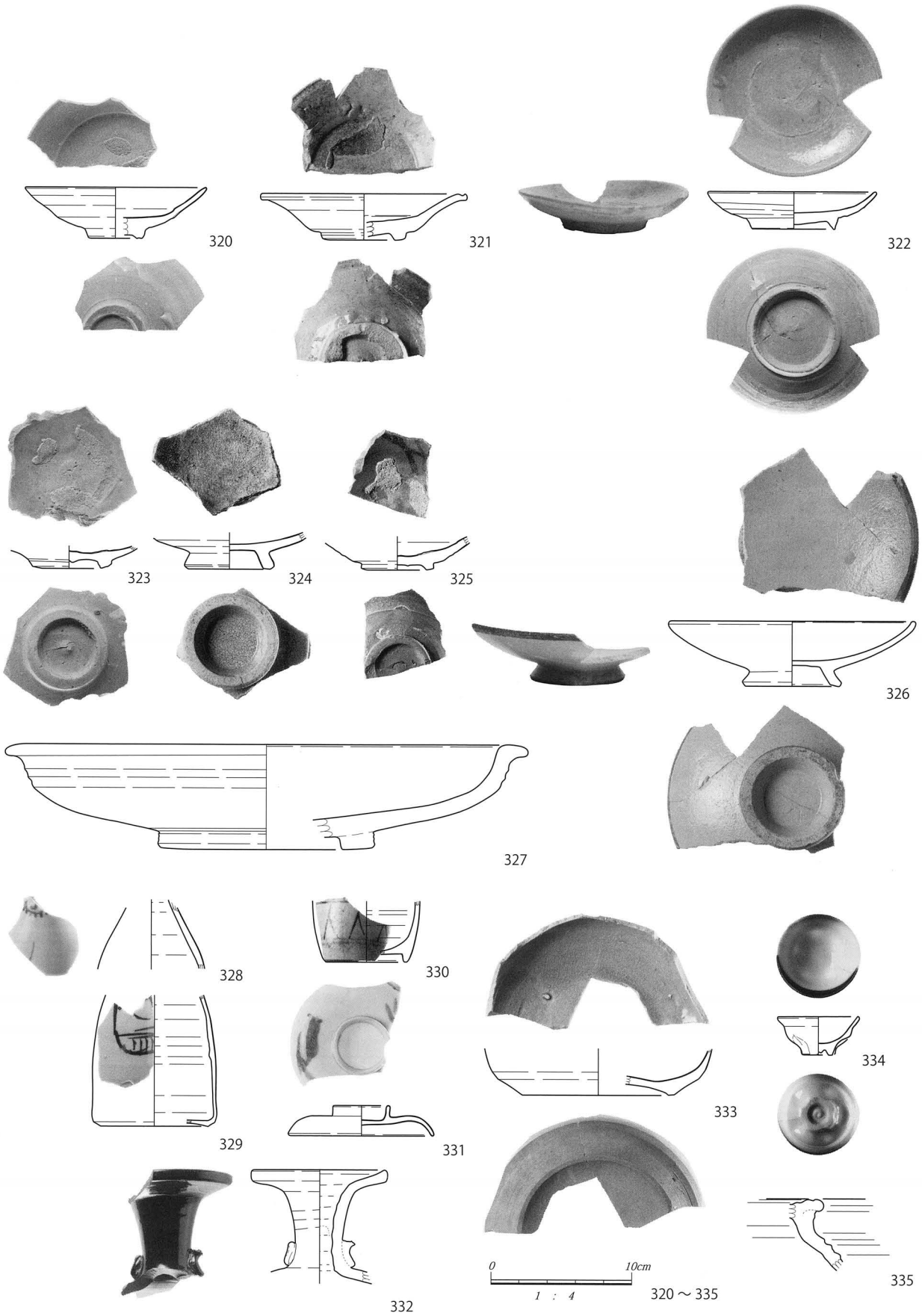
外面は草で構成される。329 は磁器の花生けである。外面は鉄釉による器物もしくは人物で構成される。瀬戸・美濃系か。320 は磁器の瓶である。外面は横線と鋸歯で構成される。肥前系か。331 は肥前系磁器の蓋である。外面は鯉と水草で、内面は無文で構成される。332 は陶器の花生である。大谷焼。333 は磁器の皿である。334 は磁器の杯である。335 は陶器の大形甕である。丹波。336 は土師質土器の羽釜脚部である。胎土中に



第138図　1区包含層出土遺物図（1）

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
305	1区包含層	磁器	碗	12.0	6.4		4.8	内：5GY7/1 明オリーブ灰 外：5GY7/1 明オリーブ灰 断：N8/ 灰白	染付、施釉	丸（波？）＋蔓草＋横線	横線	変形字銘	肥前系		16
306	1区包含層	磁器	鉢	17.6				内：N8/0 灰 外：N8/0 灰 断：N8/0 灰	染付、施釉	牡丹？	雷文		肥前系		57
307	1区包含層	磁器	碗				(6.5)	内：7.5YR7/2 明褐灰 外：2.5GY7/1 明オリーブ灰 断：N8/0 灰白	外面に施釉						420
308	1区包含層	磁器	碗				4.0	内：5GY8/1 灰白 外：5GY8/1 灰白 断：N8/ 白	絵付、施釉	丸（よろけ横線文）＋横線	横線	有（不明）	肥前系		10
309	1区包含層	陶器	碗					内：5Y6/3 オリーブ黄 外：5Y6/3 オリーブ黄 断：5Y7/1 灰白	施釉						36
310	1区包含層	磁器	碗	(11.2)	(4.5)			内：10Y8/1 灰白 外：10Y8/1 灰白 断：N8/0 灰白	絵付・施釉	格子文	区画 見込み：圏線1条		肥前系	内面：呉須の発色不良 蛇の目釉剥ぎ	369
311	1区包含層	磁器	碗		(3.1)	(3.0)		内：7.5Y7/1 灰白 外：7.57/1 灰白 断：N8/0 灰白	絵付け、施釉					内外面とも貫入あり	20
312	1区包含層	陶器	碗		(3.9)		(4.5)	内：7.5Y7/1 灰白 外：7.5Y7/1 灰白 断：7.5YR7/4 にぶい橙	施釉				肥前系	ケズリ出し高台	372
313	1区包含層	磁器	皿	(9.6)	3.0		3.8	内：10Y8/1 灰白 外：5GY8/1 灰白 断：N8/0 灰白	絵付・施釉	山＋竹	雷文＋横線＋草	□に「中」の文字	肥前系		382
314	1区包含層	磁器	皿	(11.2)	(3.1)		(6.3)	内：10Y8/1 灰白 外：10Y8/1 灰白 断：N8/0 灰白	絵付・施釉	つる草	花＋櫛歯		肥前系		389
315	1区包含層	磁器	皿	21.4		21.7		内：10GY8/1 明緑灰 外：10GY8/1 明緑灰 断：N8/0 灰白	染付、施釉	草木？				七角皿の可能性有	24
315	1区包含層	土師質	土錘	孔径 0.4	全長 2.9	幅 1.1	厚さ 1.05	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙 断：5YR6/6 橙		ユビナデ				雲母、赤色斑粒を含む	388
316	1区包含層	磁器	皿	11.8	40.5	12.3	5.8	内：N8/0 灰白 外：N8/0 灰白 断：N8/0 灰白	絵付・施釉	唐花・連続	樹木（松丸）＋家屋＋山		肥前系		378
317	1区包含層	磁器	皿	14.0				内：2.5Y6/2 灰黄 外：2.5Y6/2 灰黄 断：2.5Y7/2 灰黄	施釉						27
318	1区包含層	陶器	皿	(13.3)	(1.5)			内：7.5Y8/1 灰白 外：7.5Y8/1 灰白 断：5YR6/4 にぶい橙	絵付け不明、施釉						19
319	1区包含層	磁器	皿	(13.8)	4.1		8.4	内： 外： 断：	絵付・施釉	形打成形？（轆轤→土型） 波	形打ち成形？ 水＋草花			蛇の目凹形高台	377
320	1区包含層	陶器	皿	12.6	3.5		3.6	内：10Y7/1 灰白 外：2.5Y6/2 灰黄 断：N6/ 灰	施釉				肥前系	3方向砂目	11
321	1区包含層	陶器	皿	(14.3)	3.3		(5.0)	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：5Y6/2 灰オリーブ 断：7.5Y6/1 灰	施釉				肥前系	内外面3方向砂目あり	380
322	1区包含層	陶器	皿	11.7	2.6		5.8	内：5Y6/3 オリーブ黄 外：5Y6/3 オリーブ黄 断：5Y7/1 灰	施釉				瀬戸系	削り出し高台 内面に重ね焼き痕有	12
323	1区包含層	陶器	皿				4.2	内：5GY7/1 明オリーブ灰 外：5YR6/4 にぶい橙 断：7.5YR7/4 にぶい橙	施釉				唐津系	内外面3方向砂目	22
324	1区包含層	陶器	皿				5.8	内：5Y8/2 灰白 外：5Y8/2 灰白 断：2.5Y8/2 灰白	施釉				瀬戸系		370
325	1区包含層	陶器	皿		(2.3)	(10.2)	(4.2)	内：5Y6/2 灰オリーブ 外：10YR6/3 にぶい黄橙 断：10YR6/2 灰黄褐	絵付・施釉	?	草		唐津系	内外面3方向砂目あり	381

第45表　1区包含層出土陶磁器類観察表（1）

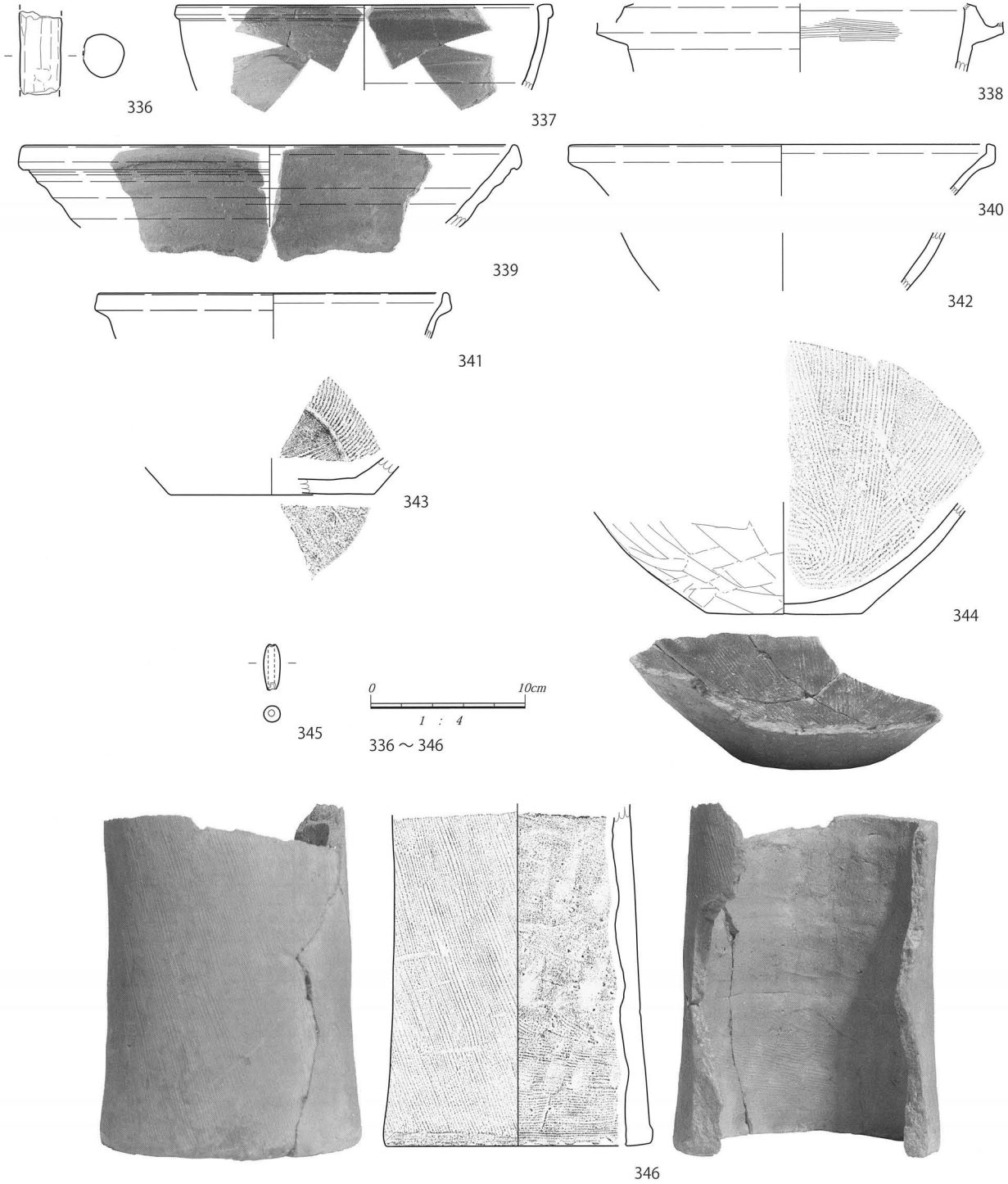


第 139 図　1 区包含層出土遺物図（2）

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色	絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
326	1区包含層	陶器	皿	(17.2)	4.6		6.6	内：10YR7/4 にぶい黄橙 外：2.5Y7/3 浅黄 断：2.5Y8/3 淡黄	施釉				瀬戸系		385
327	1区包含層	陶器	鉢	(34.2)	(7.5)		(15.0)	内：5Y6/3 オリーブ黄 外：5Y6/3 オリーブ黄 断：2.5Y8/2 灰白	施釉	轆轤ナデ	轆轤ナデ		瀬戸系	高台貼り付けて削る 貫入あり 針目あり	383
328	1区包含層	磁器	瓶		(4.9)			内：N8/0 灰白 外：2.5GY7/1 明オリーブ灰 断：N8/0 灰白	絵付・施釉	草			肥前系		417
329	1区包含層	磁器	花生				7.6	内：2.5Y8/2 灰白 外：10YR7/1 灰白 断：2.5Y8/2 灰白	染付、施釉	不明（人物もしくは器物）			瀬戸系		69
330	1区包含層	磁器	瓶		(4.3)		(5.6)	内：6y0,3s,7.5 ベージュ 外：14BG,1s,8.5 緑みの白 断：14BG,1s,8.5 緑みの白	外面に施釉	横線＋鋸歯			肥前系		367
331	1区包含層	磁器	蓋	(10.0)	2.1	(10.3)	つまみ部 3.8	内：5GY8/1 灰白 外：5GY8/1 灰白 断：N8/0 灰白	絵付・施釉	コイ、水草			肥前系		375
332	1区包含層	陶器	花生	9.2				内：5YR2/2 黒褐 外：5YR2/2 黒褐 断：10YR4/3 赤褐	施釉	轆轤ナデ	轆轤ナデ		大谷焼	双耳	26
333	1区包含層	磁器	皿				(10.8)	内：5Y5/4 オリーブ 外：5Y6/3 オリーブ黄 断：5Y7/1 灰白	施釉						384
334	1区包含層	磁器	杯	5.6	2.7		2.0	内：N8/0 灰白 外：N8/0 灰白 断：N8/0 灰白	施釉					近代	387
335	1区包含層	陶器	甕？					内：7.5YR6/4 にぶい黄橙 外：7.5YR3/2 黒褐 断：5YR6/4 にぶい橙	施釉	轆轤なで	轆轤ナデ		丹波		65
336	1区包含層	土師質土器	羽釜					外：10YR7/2 にぶい黄橙		ユビオサエ→ユビナデ				石英、長石、結晶片岩含む	7
337	1区包含層	陶器	鉢	(24.0)	(5.5)	(24.4)		内：10YR4/2 灰黄褐 外：10YR4/1 褐灰 断：5YR5/2 灰褐	施釉	波状紋					419
338	1区包含層	瓦器	羽釜			26.2		内：5PB4/1 暗青灰 外：N3/0 暗灰 断：5Y7/1 灰		ヨコナデ	ヨコナデ＋ハケ（10条/cm）			外面鍔下側～体部に煤付着	18
339	1区包含層	須恵質土器	捏ね鉢	(31.6)	(5.3)	(32.4)		内：2.5Y5/1 黄灰 外：5Y6/1 灰 断：5Y6/1 灰		回転ナデ	回転ナデ		東播系	石英、長石含む	423
340	1区包含層	土師質土器	鍋	26.4				内：2.5Y5/1 黄灰 外：2.5Y5/1 黄灰		ヨコナデ	ヨコナデ			外面煤付着 石英、長石、赤色斑粒含	28
341	1区包含層	土師器	捏ね鉢	(22.2)	(2.9)	(22.9)		内：2.5Y5/2 暗灰黄 外：10YR6/3 にぶい黄橙 断：10YR4/4 褐		ヨコナデ	ヨコナデ			外面口縁部煤付着	37
342	1区包含層	須恵質土器	捏ね鉢					内：5Y7/1 灰 外：5Y7/1 灰		回転ナデ	回転ナデ		東播系	石英、長石、黒色斑粒含	25
343	1区包含層	陶器	擂鉢		(2.4)		(13.0)	内：5YR5/4 にぶい赤褐 外：5YR5/1 褐灰 外：2.5Y4/1 黄灰		体部ヨコナデ 底部板ナデ	体部・底部擂目（5条/cm） 底部板ナデ		備前		376
344	1区包含層	土師質土器	擂鉢				10.0	内：2.5Y3/1 黒褐 外：10YR2/1 黒 断：10YR6/1 褐灰		板ナデ	擂り目（18条/5.1cm）		東播系		8
346	1区包含層	土製品	土管	長さ (22.3)	管部外径 17.6	管部内径 14.0	管部厚 1.5	表：5YR5/6 明赤褐 裏：5YR5/6 明赤褐 断：5YR4/6 赤褐		ハケ	端部のみハケ 後はユビナデ				421
468	1区包含層	瓦質	土製円盤	長さ 6.4	幅 6.3	厚さ 1.5	重さ 72.5	表：N5/0 灰 裏：N4/0 灰 断：5Y7/1 灰白						平瓦からの転用	368
469	1区包含層	土師質	土錘	孔径 0.3	全長 3.5	幅 1.1	厚さ 1.0	内： 外：10YR6/1 褐灰 断：2.5YR6/6 橙		ユビナデ					379

第 46 表　1 区包含層出土陶磁器類観察表（2）

結晶片岩を含み在地産である。337 は陶器の鉢である。外面は波状文で構成される。338 は瓦質の羽釜である。鍔から体部にかけて煤が付着する。340 は土師質土器の甕である。外面に煤が付着する。古代末か。339 は須恵質土器の捏ね鉢である。東播系か。341 は土師質土器の捏ね鉢である。口縁部に煤が付着する。342 は須恵質土器の捏ね鉢である。東播系。343 は陶器の擂り鉢である。擂り目は 5 条／㎝である。備前系か。344 は須恵質土器の擂り鉢である。焼成が甘く還元焔焼成されておらず土師質である。擂り目は 18 条／ 5.1㎝である。345 は土錘である。346 は土師質土器の土管である。外面にはハケが、内面にはハケ後にユビナデが施されている。 468 は土製円盤である。平瓦からの転用で、側面は丁寧な研磨が施されている。469, 470,



第 140 図　1 区包含層出土遺物図（3）

遺物番号	遺構	材質	器種	口径	器高	最大径	底径	胎土色		絵付・釉薬	外面文様	内面文様	印・銘等	製作地	備考	実測番号
470	1区包含層	土製品	土錘	孔径 0.5	全長 3.2	幅 1.0	厚さ 0.95	内： 外： 断：	5YR5/6 明赤褐		ナデ				石英、雲母、結晶片岩を含む	371
471	1区包含層	土製品	土錘	孔径 0.4	全長 3.25	幅 1.05	厚さ 0.9	内： 外： 断：	5YR5/6 明赤褐		ユビナデ				石英、雲母、結晶片岩を含む	373
472	1区包含層	土師質	土人形	2.2	1.1	0.6	1.3 g	内： 外：	7.5YR7/4 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙		寿老人				石英、雲母、赤色斑粒含 裏面に指紋有	95

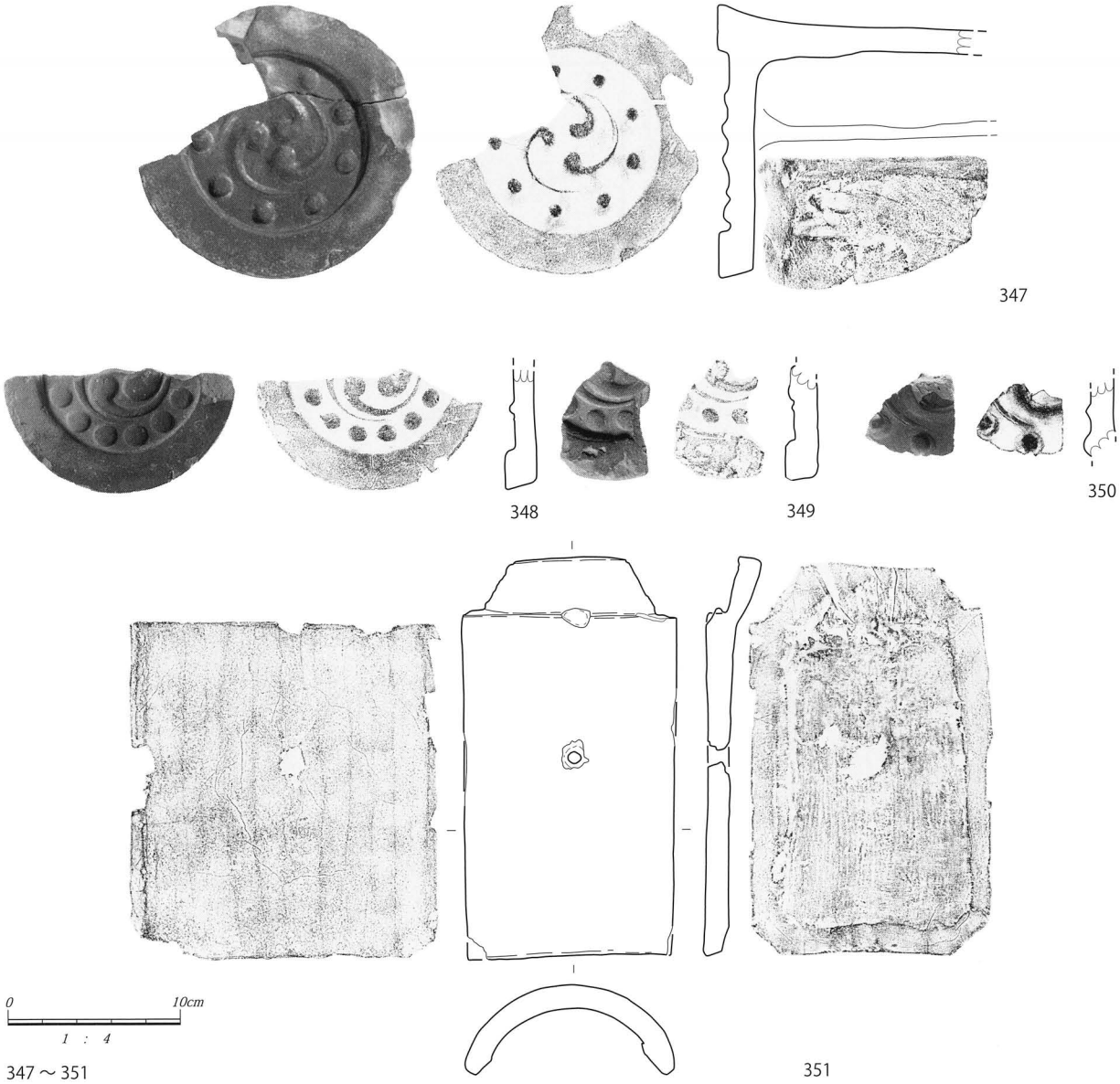
第 47 表　1 区包含層出土陶磁器類観察表（3）

遺物番号	遺構	器種	長	瓦当直径	瓦当厚	文様径	縁高	丸瓦部厚	玉縁長	表器面色調	裏器面色調	断面色調	巴種	珠文数	コビキ痕	布目痕	焼成	雲母粉	備考	実測番号
347	1区包含層	軒丸瓦	(15.5)	(15.7)	2.0	(10.6)	0.7	1.4		N4/0 灰	N4/0 灰	7.5Y7/1 灰白	左巻三巴	9	無	無	良	有		14
348	1区包含層	軒丸瓦		(13.0)	1.8	8.6	0.6			N3/0 暗灰	N4/0 灰	5Y6/1 灰	左巻三巴	(6)	有	無	良	良		17
349	1区包含層	軒丸瓦			1.9		0.5			10Y6/1 灰	10Y4/1 灰	10Y7/1 灰白	左巻	(3)	無	無	良	有		386
350	1区包含層	軒丸瓦								N3/0 暗灰	N2/0 黒	7.5Y7/1 灰白	左巻三巴			無	良	有		74
351	1区包含層	丸瓦	23.2				3.8	1.3	3.2	2.5Y7/1 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	2.57/1 灰白				有	良	有	中央部に釘穴 1 穴あり	13
352	1区包含層	丸瓦	23.4					1.3	3.0	5PB4/1 暗青灰	N4/0 灰	7.5Y7/1 灰白			無	無	良	無		15
353	1区包含層	丸瓦	20.5					1.6	3.9	5PB4/1 暗青灰	5PB4/1 暗青灰	2.5Y7/1 灰白			無	無	良	良		38
354	1区包含層	丸瓦	20.5					1.5	3.3	N4/0 灰	N5/0 灰	N4/0 灰			?	無	良	有		52
355	1区包含層	丸瓦	26.3				4.5	1.6	3.8	N5/0 灰	N7/0 灰	N7/0 灰			無	有	良	無		39
356	1区包含層	丸瓦					3.9	1.9	2.3	N6/0 灰	N4/0 灰	N6/0 灰			無	有	良	無		55
357	1区包含層	丸瓦	21.2				4.2	1.5	2.5	N4/0 灰	N5/0 灰	5Y7/1 灰			無	有	良	有		53
358	1区包含層	軒丸瓦	21.7				3.5	1.7	3.0	N4/0 灰	N5/0 灰	7.5Y7/1 灰白				有	良	有		4
359	1区包含層	丸瓦	22.2				3.7	1.7	2.7	N3/0 暗灰	N4/0 灰	5Y8/1 灰白			無	有	良	無		54

第 48 表　1 区包含層出土瓦類観察表（1）

実測番号	遺構	器種	長	上弦幅	弦深	垂れ長	文様区幅	文様区高	平瓦厚部	表器面色調	裏器面色調	断面色調	文様	焼成	雲母粉	備考	遺物番号
1	1区包含層	軒平瓦				4.0		2.2	1.7	N2/0 黒	5Y2/1 黒	5Y6/1 灰	唐草文	やや甘い	有		364
3	1区包含層	平瓦	17.4							5Y4/1 灰	5Y5/1 灰	5Y7/1 灰白		良	有		366
9	1区包含層	平瓦	33.6						2.2	N4/0 灰	5B4/1 暗青灰	N6/1 灰		良	有	釘穴 1 穴あり	367
23	1区包含層	軒平瓦								5Y4/1 灰	N6/0 灰	5Y6/1 灰	宝珠	良	無		362
40	1区包含層	軒平瓦		23.6	2.5	4.0	16.6	2.3	1.8	N3/0 暗灰	N3/0 暗灰	N6/0 灰	宝珠＋唐草文	良	有		365
48	1区包含層	軒平瓦								N3/0 暗灰	5Y4/1 灰	5Y6/1 灰	雲	良	無		361
422	1区包含層	軒平瓦	(3.0)			4.2		2.5		N4/0 灰	N5/0 灰	5Y6/1 灰	唐草文	良	無		360
424	1区包含層	軒平瓦	(10.4)			4.0		2.2	1.9	N5/0 灰	N5/0 灰	N7/0 灰白	唐草文	良	有		363

第 49 表　1 区包含層出土瓦類観察表（2）



第 141 図　1 区包含層出土遺物図（4）

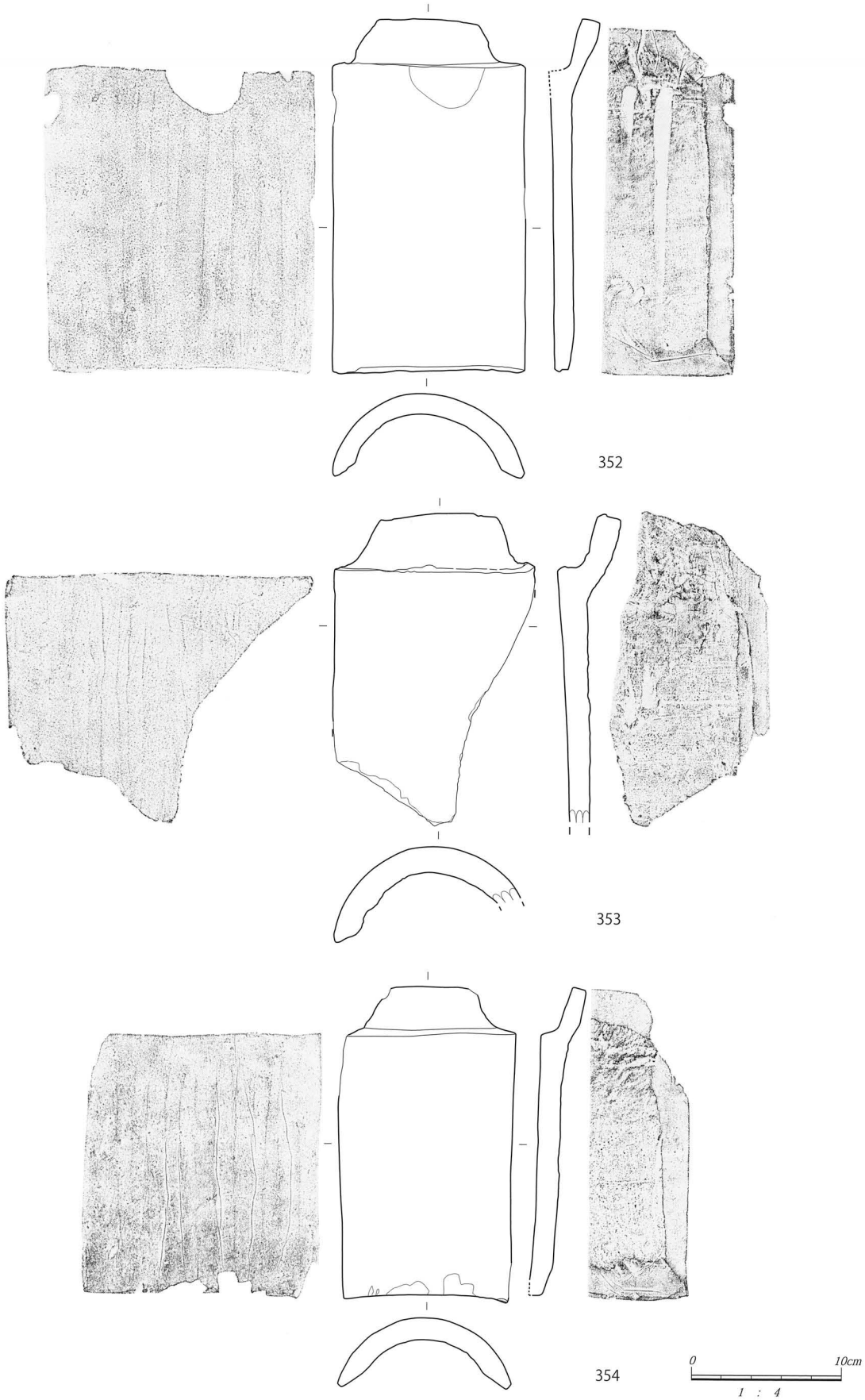
471 は土錘である。472 は土師質の泥面子である。寿老人を描く。

368 ～ 429 は船釘である。430 ～ 435 は鑿である。436 ～ 438 は鎹である。439 は懸金具である。440 は鉤金具である。441，442 は銅製の縁金具である。443 は座金である。444 は把手である。445 ～ 448 は煙管である。449 ～ 453 は飾板である。

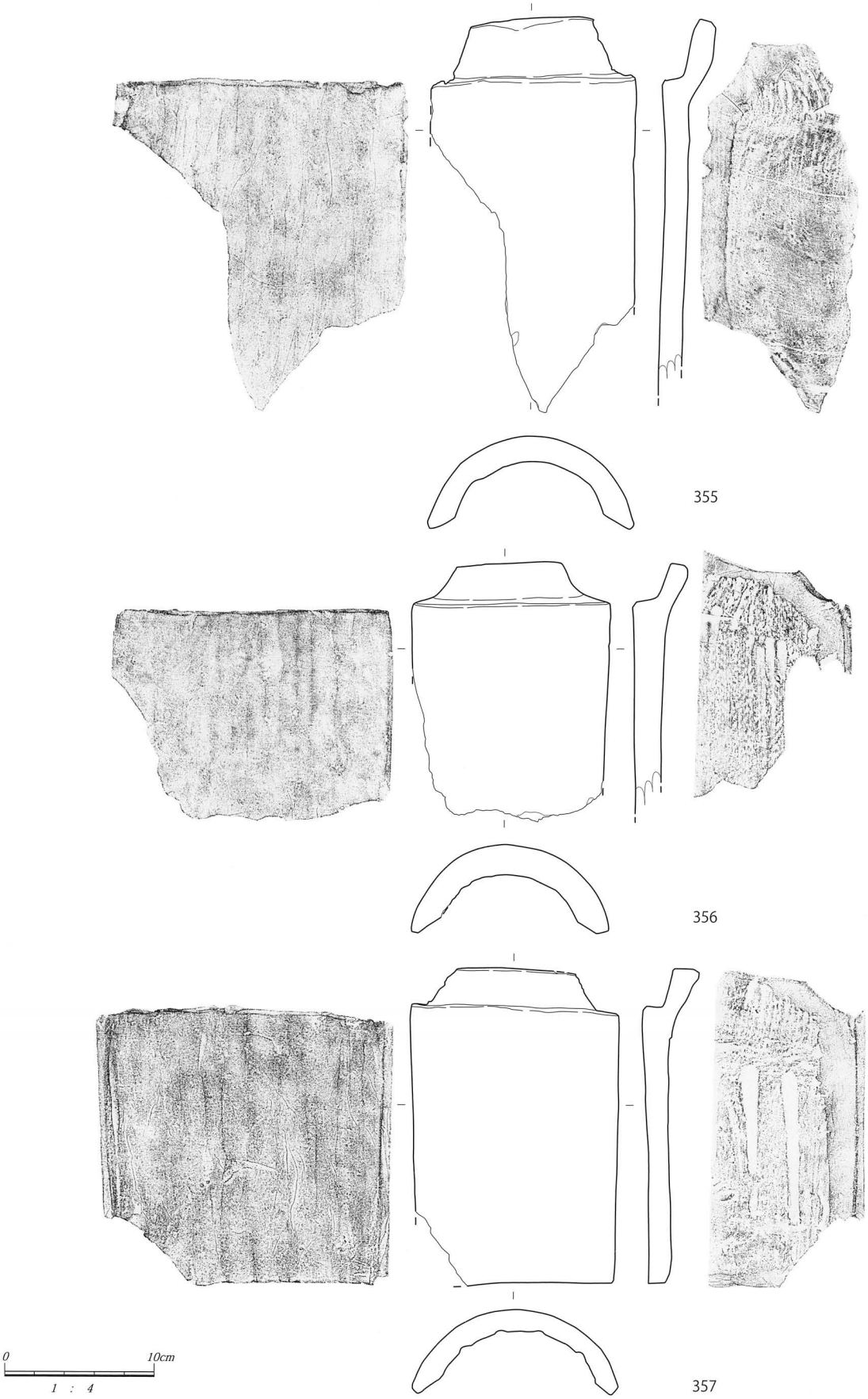
454 ～ 456 は船部材である。457 ～ 460 は木製の船釘である。462 ～ 464 は船部材である。465 ～ 467 は下駄である。

2 区包含層出土遺物（第 152 ～ 154 図）

473 は磁器の碗である。外面は横線で、内面は横線と花で構成される。474 は磁器の碗である。外面は牡丹と獅子と雷文で、内面は無文で構成されている。475 は磁器の碗である。外面は無文で、見込みは 2 条の圏線とコンニャク印判による五花弁文（梅花）で、高台は「渦福」で構成されている。内外面とも貫入が観



第 142 図　1 区包含層出土遺物図（5）　352 ～ 354



355～357

第143図　1区包含層出土遺物図（6）